

序

子どもたちに社会を自ら創り上げていく力の育成を目指した「子どもが主語の授業」づくりが声高に叫ばれています。子ども自らが主体的に学ぶことを前面に押し出した教育の推進・授業づくりが喫緊の課題です。

そのためには「主体的・対話的で深い学び」をもう一歩前に進める必要があります。

子ども自らが学習の見通しを立てたり振り返ったりすること、「対話」する目的・場面・状況を明確にすることや、単元の中に計画的に「対話」が図れる学習場面を設けていること、題材が子どもの身の回りや社会とのかかわりを意識したものになっているかなどが重要なチェックポイントとして挙げられています。でもそれだけでは足りません。

授業は、教師の指示の下で行われている従来の姿から、子ども自らが求め、選択し、行う学び（授業）へと進んでいくことが求められています。

十勝教育研究所では、今年度、「対話の工夫と振り返りの充実」に視点を当てた共同研究を進めました。また、道徳の授業を切り口とした協力員研究では、題材と子どもとの距離を縮めるために、子どもたちに実感を伴った「体験的な学習を取り入れる工夫」に視点を当てた研究を行いました。

両研究とも、授業実践を中心とした省察的実践検証として、4名の先生に授業提供をいただきながら進めることができました。

そして、ここに2つの成果をまとめた研究紀要No.218を発刊する運びとなりました。成果は、現場からの声に応え、ホームページでも公開することとしております。

何かと忙しい中、授業の提供をいただいた先生方、2つの研究の推進に当たりお力添えをいただいた研究員の皆様、関係機関の皆様に感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊の言葉といたします。

十勝教育研究所長
十勝管内教育研究所連絡協議会長

山 田 洋

令和6年2月

目 次

序

十勝教育研究所長 山田 洋
十勝管内教育研究所連絡協議会長

十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究

～ 考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して ～

I 研究の概要	2
II 研究の視点と内容	6
III 授業実践（小学校）	12
IV 授業実践（中学校）	26
V 研究のまとめ	39
VI 共同研究員紹介／参考・引用文献	40

十勝教育研究所 協力員研究

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～ 道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して ～

I 研究の概要	42
II 研究の視点と内容	46
III 授業実践	50
IV 研究のまとめ	66
V 研究協力校紹介／参考・引用文献	69

あとがき

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究

～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～

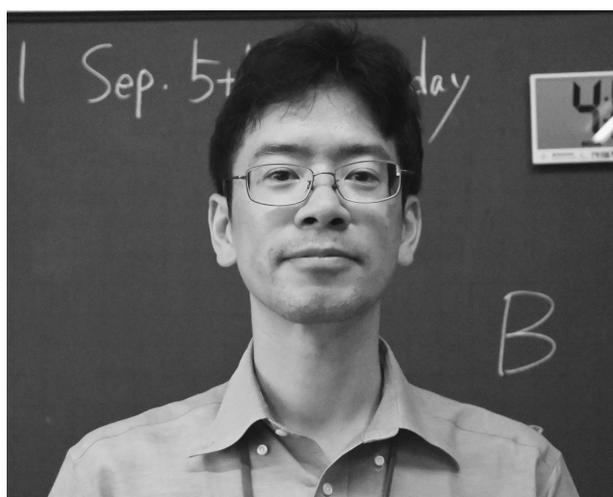
(2か年継続研究 1年次)



授業者

芽室町立芽室小学校

教諭 松井 孝之



授業者

広尾町立広尾中学校

教諭 土井 誠人

I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究の組織
- 8 研究推進計画

II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

III 授業実践（小学校）

- 1 単元計画
- 2 授業記録
- 3 研究内容の検証
- 4 共同研究員による単元計画例

IV 授業実践（中学校）

- 1 単元計画
- 2 授業記録
- 3 研究内容の検証
- 4 共同研究員による単元計画例

V 研究のまとめ

- 1 今年度の研究の成果と課題

VI 共同研究員紹介／参考・引用文献

I 研究の概要

1 研究主題

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究（1 / 2年次）

～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～

2 主題設定の理由

今日的な課題 学習指導要領の趣旨から

近年、Society5.0時代の到来やグローバル化の進展等により、社会構造が急速に変化し、予測困難な時代になっている。その中で、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく学びの構築が求められている。そのためには、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指していかなければならない。

このような状況から、子ども自身が見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることが重要になる。各教科の指導に当たり、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫することで、「主体的な学び」の実現につなげることが必要である。

さらに、子ども自身が子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかが重要な視点の1つであるとされている。現在、1人1台端末の導入により、一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有できるようになり、対話的な学びも様々な工夫が可能となっている。

北海道・十勝の現状から

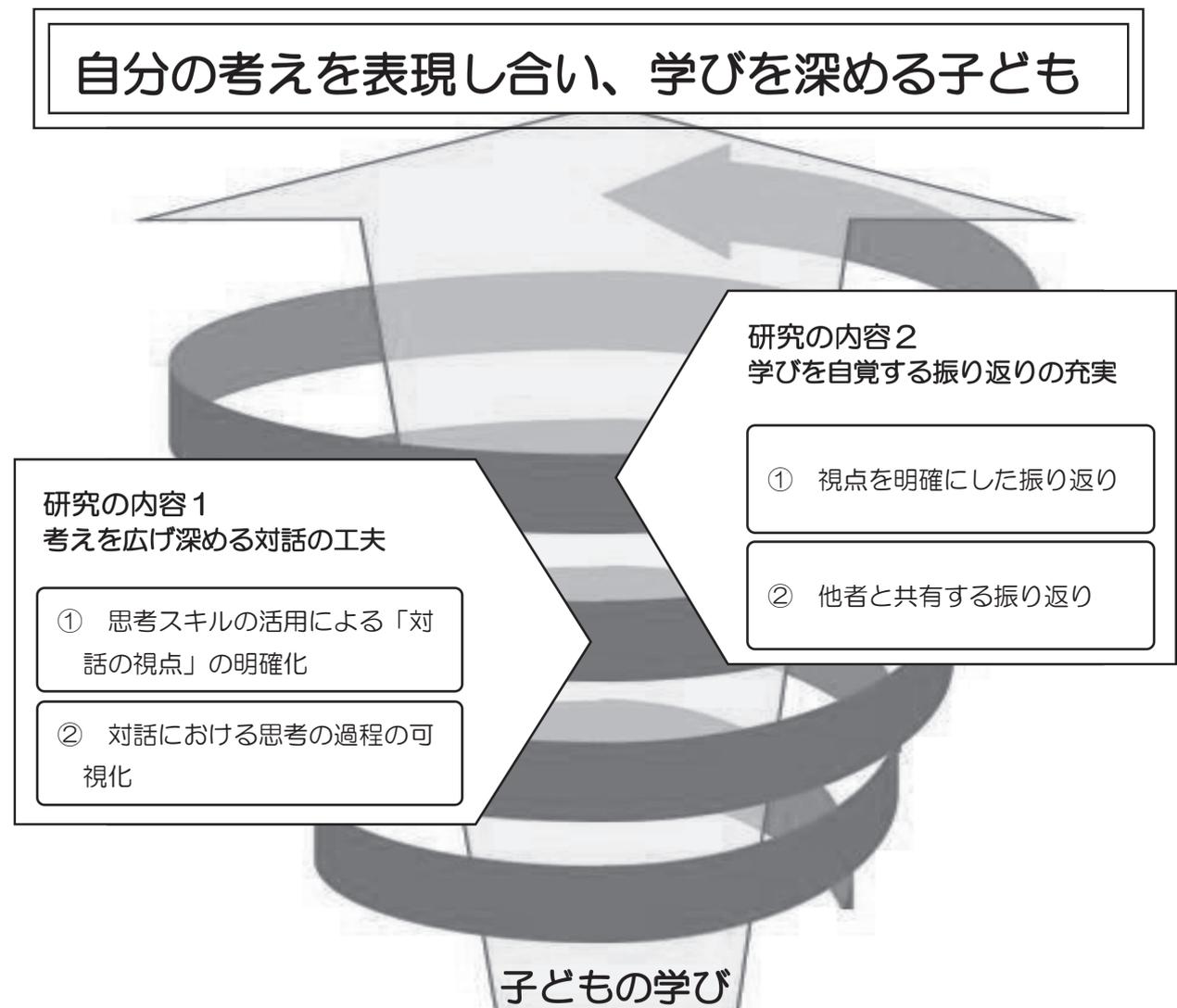
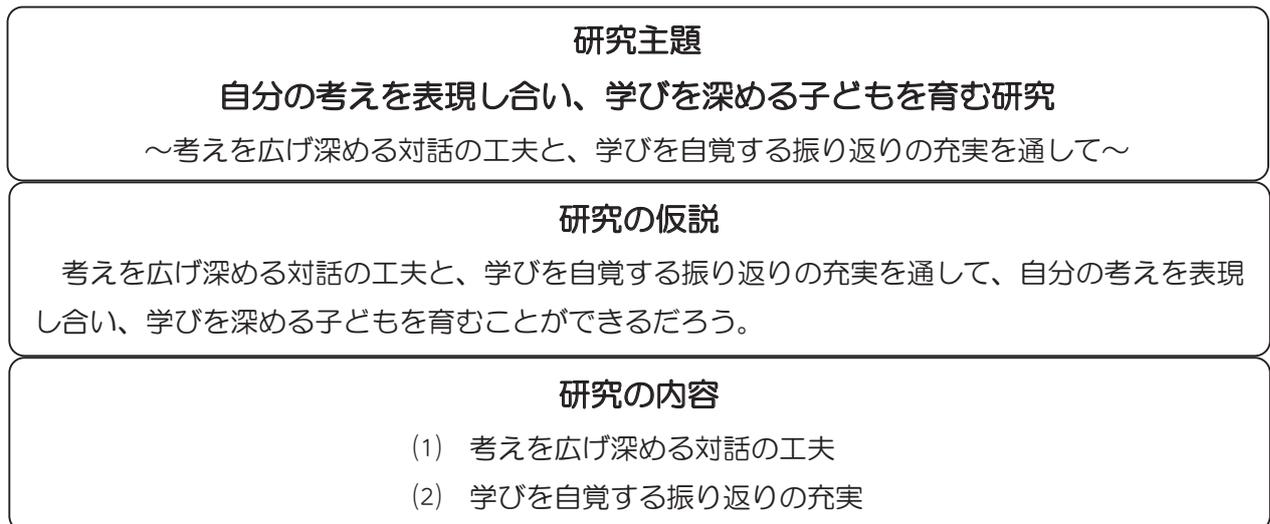
北海道の子どもたちの実態として、令和4年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査によると、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と思う割合は全国と同程度の結果であり、十勝管内の小・中学校においても同様の結果であった。一方、学校質問紙の発表や話し合いに関する回答では、子どもの回答より4～20ポイント高い結果であることから、子どもと教師の認識に差が生じていると思われた。また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」と思う割合が、全国を下回っており、十勝管内の小中学校でも同様の傾向が見られた。

さらに、十勝管内の小・中学校においては、令和4年度の校内研究主題を「自分の考えを表現する」「考えを伝え合う」ことをねらいとした学校が約4割となっており、子どもたちに自分の考えを表現する必要性を感じている現状が伺えた。

今年度の研究の方向性

これらの状況から、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育むことが重要と考える。そこで、研究1年次は、考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育むことができるだろうと考え、主題を設定した。

3 研究の仮説と内容、構造図



4 研究計画

(1) 第1年次（令和5年度）

- ① 研究主題、仮説、内容等の検討
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証（小学校第5学年国語科、中学校第1学年外国語科）
- ④ 研究の中間まとめと研究紀要の刊行

(2) 第2年次（令和6年度）

- ① 研究仮説、内容、計画の修正
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証
- ④ 研究のまとめと研究紀要の刊行

5 検証計画

(1) 検証内容

① 考えを広げ深める対話の工夫

思考スキルを用いて「対話の視点」を明確にし、対話における思考の過程を可視化することで、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの姿につながっていたか。

② 学びを自覚する振り返りの充実

1単位時間の授業や単元全体の振り返り場面において、視点を明確にした振り返りを行い、他者と共有することで、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの姿につながっていたか。

(2) 検証方法

① 考えを広げ深める対話の工夫に関わって

- ・共同研究員による子どもの見取り（発言、つぶやき、行動等）
- ・ノートやワークシート等、可視化された対話記録の分析
- ・事前、事後のアンケート調査

② 学びを自覚する振り返りの充実に関わって

- ・ノートやワークシート等による子どもの振り返りの分析
- ・事前、事後のアンケート調査

6 研究の推進

- 本研究は、十勝教育研究所と管内各研究所が一体となり推進するものである。
- 管内の子どもたちの実態を踏まえた研究仮説を基に、理論研究や実践検証を進める。
- 共同研究員を2つのグループに分け、推進幹事、副幹事を選出して、協議を重ねながら実践検証をする。
- 幹事は、グループ研究の中心となり実践検証を推進し、副幹事はそれをサポートする。
- 十勝教育研究所は共同研究員と協議し研究を総括する。また、研究推進に関わる文献、資料等を提供する。
- 共同研究員による研究実践の成果を広く管内に提供する。

7 研究の組織

グループ	Aグループ	Bグループ
学年・教科	小学校第5学年・国語科	中学校第1学年・外国語科
推進幹事	引地 智也（勇 足 小）	安食 正人（中札内中）
推進副幹事	齊藤 織斗（大 樹 小）	長澤 翔太（幕 別 中）
授 業 者	松井 孝之（芽 室 小）	土井 誠人（広 尾 中）
共同研究員	湯藤 浩二（土 幌 小） 中川 弥生（上土幌小） 市原 秀樹（新 得 小） 岩田 浩平（更 別 小） 菅原 千晶（浦 幌 小） 小池亜沙紀（上浦幌中央小） 尾崎 唯（陸 別 小） 柴田 彩（稲 田 小）	上野 純子（音 更 中） 梅原 翔太（鹿 追 中） 山内 優萌（清 水 中） 遠藤 雄平（池 田 中） 竹中 悠（豊 頃 中） 山田 優里（足 寄 中）
担当所員	松村 理史	白澤 大輔 山本 由佳

8 研究推進計画（令和5年度 1／2年次）

月	研究の推進内容	諸 会 議
4	・研究主題、研究計画の作成	・十勝教育研究所業務計画会議
5	・研究の視点、研究推進の方向性の確認	・十勝管内教育研究所連絡協議会総会
6	・共同研究員の委嘱 ・研究概要の説明 ・グループ分け、幹事・副幹事・授業者の決定 ・実践研究の内容、方針等の検討	・第1回共同研究員会議（6/6） （全体・グループ会議） ・第2回共同研究員会議（6/20・29） 【Zoom】 （推進幹事・副幹事・授業者会議）
7 8 9 10	<p>・理論研究</p>	<p>・第3回共同研究員会議（7/11・13） （全体・グループ会議） ・第4回共同研究員会議（8/22） （グループ会議） ・第5回共同研究員会議（9/5・12） （授業実践1・グループ会議） ・第6回共同研究員会議（9/14・21） （授業実践2・グループ会議） ・第7回共同研究員会議（10/5）【Zoom】 （グループ会議）</p>
11	・理論研究・研究の経過報告（広報誌） ・研究紀要原稿の検討・集約	
12	・研究紀要の作成 ・研究発表大会パワーポイント作成	
1	・研究紀要の作成 ・研究発表大会に向けての最終打合せ ・研究発表大会リハーサル ・研究紀要の完成、刊行	・第8回共同研究員会議（1/16）【Zoom】 （推進幹事・副幹事・授業者会議） ・第9回共同研究員会議（1/30） （推進幹事・副幹事・授業者会議）
2	・研究発表大会（2/8）	
3	・次年度に向けた研究計画の作成	

II 研究の視点と内容

1 研究の視点

(1) 自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示されている。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の視点、子ども同士の協働等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の視点、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、情報を精査して考えを形成すること等に向かう「深い学び」の視点を手掛かりに、各教科等で身に付けるべき資質・能力を育成することが求められている。

また、社会で活用できる資質・能力を育成していくためには、知識の記憶だけにとどまらず、「理解していることやできることをどう使うか」という思考力、判断力、表現力等を育成することが求められている。思考力、判断力、表現力等とは、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な力とされており、その過程には、大きく次の3つがあると考えられている。

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

さらに、子ども一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切りひらいていくためには、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する「メタ認知」に関わる力の育成が必要となる。教師による評価とともに、自己評価や子ども同士の相互評価を行うことで、子ども自身が自分の変容を自覚することができ、次の学習への意欲にもつながると考える。

そこで、本研究では、北海道・十勝の子どもの現状を踏まえ、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けることができるようにするため、目指す子どもの姿を「自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども」とし、以下のように定義することとした。

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの姿

- 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿
- 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿
- 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿
- 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿

他者や自己との対話や学習活動の振り返りを継続して取り組むことで、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育むことができると考える。

(2) 考えを広げ深める対話

学習指導要領で示されている「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める学びである。身に付けた知識や技能を定着させ、多様な表現を通じて、子ども同士や教職員などと対話することによって思考を広げ深めることができると考えられている。

そこで、自分の考えを広げたり深めたりするためには、協働的な学習における対話を充実させることが重要と考える。協働的な学習とは、異なる個性をもつ者同士で問題解決に向かう学習と言われている。協働的に学ぶことには、「多様な情報の収集に触れること」「異なる視点から検討ができること」

「地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることが、相手意識を生み出したり、学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出したりすること」という3つの意義があるとされている。協働的な学習における対話を通して、見方・考え方を広げたり深めたりすることが可能となるだろう。

加えて、協働的な学習は、グループとして結果を出すことが目的ではなく、その過程を通じて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要だと言われている。グループとして考えるだけでなく、一人一人が学習の見通しをもったり、振り返ったりすることが求められる。

協働的に学びを進めるためには、まずは自分の意見や感想をもつ必要があると考える。まずは、一人でじっくりと自己との対話を行い、考えをまとめた上で他者と対話をする必要があるであろう。そして、他者との対話により学びを広げたり深めたりし、再び自己と対話することで自分自身の考えを再形成していく。つまり、他者との対話と自己との対話の往還により、学びを深めることができると思う。

本研究における「対話」

- 他者との協働的な学習により考えを広げ深めることを目的とした「他者との対話」
- 自分自身の感じ方や考え方を深めることを目的とした「自己との対話」

(3) 学びを自覚する振り返り

子どもが主体的に学ぶ態度を育み、学習意欲を向上させるために、各教科等の指導に当たり子どもが学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫することが重要と考える。

振り返りは、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有していくことで、次の学びに主体的に取り組む態度を育むことにつながると言われている。特に、文字言語によってまとめることは、学習活動を振り返り、既知の知識と収集した情報を関連させ、自分の考えとして整理する深い理解につながっていくとされている。また、子どもが自らの学習の状況を振り返る機会を設けることで、粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面を見取る機会が増え、より正確な「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげることが可能となる。それは、教師の形成的評価を通して、子ども自身が学びの自己調整につなげることに繋がる。

前時や本時に学習したことを思い出したり、授業の終末場面において本時で学習したことを自分の言葉でまとめたりする「学習内容を確認する振り返り」は、これまでも多くの実践が行われている。今後は、「過去や現在の学習内容や他教科等の学習内容と関連付けたり、一般化したりする振り返り」や「学習内容を自らとつなげ、自己変容を自覚する振り返り」「学習によって生まれた気付きや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるための振り返り」が必要だと考える。そして、振り返りを他者と共有したり、教師が適切に評価をしたりすることにより、自らの学びを意味付けたり価値付けたりすることができるようになるであろう。

また、学びを自覚する振り返りにするためには、どのような目標に向かって振り返るかが重要と考える。単元や1単位時間のゴールを明確にし、どういった学習過程で学び、どのような力が身に付いたかを振り返ることで、子ども自身が自らの学びを自覚することができるであろう。

本研究における「振り返り」

- 1単位時間の授業や単元全体を通して、自分の学びを意味付けたり価値付けたりして自覚し、他者と共有していくもの。
- 過去や現在の学習内容や他教科等の学習内容と関連付けたり、一般化したりするもの。
- 学習内容を自らとつなげ、自己変容を自覚するもの。
- 学習によって生まれた気付きや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるもの。

2 研究の内容

(1) 考えを広げ深める対話の工夫

① 思考スキルの活用による「対話の視点」の明確化

思考スキルとは、各教科等の学習指導要領や教科書の内容から、子どものどのような思考パターンが求められるかを分析し、思考を行動レベルにまで具体化して整理したものである。

対話場面を設定しても、一方的なやり取りになったり、互いの考えを伝えるだけになったりすることがある。対話の質を向上させ、子どもの考えを広げ深めるためには、視点を明確にすることが必要だと考える。そこで、思考スキルを対話場面で活用することにより、単なる考えの交流から課題解決に向けてねらいを明確にした対話となり、資質・能力の育成につながるだろう。

本研究では、対話場面において、学習活動を通して身に付けたい資質・能力に沿った思考スキルを子どもたちに提示し、「対話の視点」を明確にする。

思考スキル	定 義	対象学年 (～以上)
多面的に見る 多角的に見る	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりして多様な視点や観点に立って対象を見る	低学年
順序立てる	複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える	低学年
焦点化する	重点を定め、注目する対象を決める	低学年
比較する	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする	低学年
分類する	複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる	低学年
関係付ける	学習事項同士のつながりを示す	低学年
関連付ける	学習事項と実体験・経験とのつながりを示す	低学年
変換する	表現の形式（文、図、絵など）を他の形式に変え、注目すべき情報を絞り込む	低学年
理由付ける	対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする	低学年
見通す	見通しを立てる、物事の結果を予想する	低学年
応用する	習得した知識や技能を用いて課題・問題を解決する	低学年
広げてみる	それまでとは異なる視点から対象を見て、物事についての意味やイメージ等を広げる	低学年
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ	低学年
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする	中学年
変化を捉える	視点を定めて前後の違いを捉える	中学年
抽象化する	具体的な事柄に共通する性質や傾向、類型や包括的な概念を見付けたり、それを基にきまりや法則をつくったりする	中学年
具体化する	概念やカテゴリー、きまりや法則の意味を、具体的な場面に即して表す	中学年
構造化する	順序や筋道を基に考えを関係付けて整理する	中学年
推論する	既に分かっている事実や経験などから、根拠に基づいて先や結果を予想する	高学年

泰山裕氏（鳴門教育大学大学院准教授）作成の表を基に学習指導要領（平成 29 年 3 月）より作成

② 対話における思考の過程の可視化

思考スキルの効果をより一層高めるためには、子どもの習熟の状況等を踏まえながら、教師が声掛けをしたり、紙などに書いて可視化したりするような活動を取り入れることが有効だと考える。対話における思考の過程を可視化することで、抽象的な情報を扱うことが苦手な子どもが、対話の内容を整理することができたり、複数の子どもが協働で情報の整理や分析を行ったりしやすくなるとされている。つまり、対話における思考の過程を可視化して残すことで、一人一人が考えを広げたり深めたりすることが可能になると考えられる。

また、対話における思考の過程の可視化は、言語活動の様々な工夫と合わせて活用することで効果が発揮されると言われている。学習のねらいを達成するために、思考ツール、ワークシート、I

CT等、発達段階や子どもの実態に応じて適切な手立てを取り入れることが必要であろう。

なお、学びを深める対話にするためには、思考の過程の可視化に加えて机や椅子の配置、人数構成等、学習場面に応じた意図的な対話形態の設定も必要だと考える。特に、人数構成については、話す時間を十分に確保できるペアでの対話や、複数の考えを突き合わせるができる3～4人のグループ対話など、授業のねらいや子どもの発達段階に応じて設定することが必要であろう。それらを適切に設定することにより、対話が活発になり、可視化の効果が更に発揮されると考える。

(2) 学びを自覚する振り返りの充実

① 視点を明確にした振り返り

学びを深めるための振り返りにするためには、学習内容を価値付けたり次の学びにつなげたりする振り返りを継続的に行う必要がある。そのためには、「振り返りの視点」を子どもたちに示すことが有効と考える。教師が指導のねらいや目的に応じた視点を示したり、複数の視点から学習内容に応じて子どもが選択できるようにしたりすることで、学習内容の意味や価値を深く考えたり、新たな疑問や課題を見付けたりしていくような振り返りになるであろう。

ポイント	振り返りの視点
(1) 「振り返り」の目的を確認する。	① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚） ② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し） ③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造）
(2) 学習時間のまとまりを意識した、学習内容を関連付けたりする。	④ 本時の学び（1単位時間） ⑤ 単元の学び（単元全体） ⑥ 他の単元とのつながり（複数単元との関連付け） ⑦ 他教科等とのつながり（他教科等との関連付け）
(3) 「振り返り」の目的を確認する。	⑧ 本時の課題とまとめ（学習集団や自己の課題） ⑨ 「誰と」「何を」したかという学習の過程（学習過程） ⑩ 自分の考えがどのように変わったか（認知の過程）
(4) 「振り返り」を振り返る。	⑪ これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する（自己の成長の自覚） ⑫ これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す（批判的検討）
(5) 他者と「振り返り」を共有する。	⑬ 友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）

② 他者と共有する振り返り

子どもが学びを深めるためには、自分以外の学びにも着目する必要がある、1つの手段として振り返りを他者と共有することが有効だと考える。1単位時間の導入や終末で子どもの振り返りを教師が意図的に取り上げ全体で共有したり、ICTを効果的に活用したりすることで、子どもは「そういう見方や考え方もあったのか」と考えを広げたり深めたりすることが可能となるであろう。そして、他者の振り返りが次時以降の学習のヒントや振り返りの新たな視点となり、様々な気付きを得ながら学びを深めることができると考える。

また、子どもたちの中には、時折自分の学習の成果を客観的に認知できず自己評価を過度に高くしたり低くしたりすることがある。そこで、単元全体を振り返る時間を設定し、協働的な学習を行ってきた子ども同士で単元を通したお互いの学びの変容を評価し合い、多面的な評価につなげる。仲間からの評価を基に単元全体の振り返りを行うことで、学びを「メタ認知」し、次の学びにつなげることができると思う。

なお、振り返りは書いて終わりとするのではなく、教師が価値付けたり意味付けたりすることが必要だと考える。振り返りの視点を基に形成的評価を行うことで、子どもは自分の学びを自己調整し、次の学びにつなげることができるであろう。

II 研究の視点と内容

(3) 資料

① 単元計画

教科名		学 年	
単元名	*単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。	児童・生徒数	
		授業者	
1 単元の目標			
*学習指導要領に基づきながら、各学校の教育課程や単元の内容に合わせ、育成を目指す資質・能力を明確にする。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
•	•	•	
*単元の目標に合わせ、3つの観点での評価規準を設定する。			
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
*本研究で目指す子どもの姿の具現化に向けて、単元を通じた手立てを記載する。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
4 単元で提示する振り返りの視点			
*学びを深める振り返りにするために、単元で提示する「振り返りの視点」を記載する。			

5 単元の指導と評価の計画（全○時間）			
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【】 評価規準
1	◆学習課題 ○ 主な学習活動	① ②	【評価の観点】 ・評価規準（評価する手立て）
2	◆学習課題 ○ 主な学習活動 (対話の視点)		
3	<p>*各学校の教育課程、年間指導計画、教科書等を参考に1単位時間ごとの「学習課題」「主な学習活動」を記載する。</p> <p>*単元の中で、対話を取り入れる授業で子どもたちに提示する「対話の視点」を記載する。</p>		<p>*「1 単元の目標」「2 単元の観点別評価規準」に基づき評価の観点と評価規準を設定し、目標との整合性が図られているか留意する。</p> <p>*単位時間の評価項目は1～2つとする。</p>

*「4 単元で提示する振り返りの視点」を基に、1単位時間の指導のねらいや目的に沿った「振り返りの視点」を記載する。

*各学校の教育課程、年間指導計画、教科書等を参考に1単位時間ごとの「学習課題」「主な学習活動」を記載する。

*単元の中で、対話を取り入れる授業で子どもたちに提示する「対話の視点」を記載する。

*「1 単元の目標」「2 単元の観点別評価規準」に基づき評価の観点と評価規準を設定し、目標との整合性が図られているか留意する。

*単位時間の評価項目は1～2つとする。

*当研究所のホームページから資料をダウンロードできます。



Ⅲ 授業実践（小学校）

1 単元計画

教科名	小学校 国語科	学 年	第5学年
単元名	大造じいさんとがん	児童数	27名
		授業者	松井 孝之
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の量を増やし、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 〔知識及び技能〕(1)才 ・ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の量を増やし、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)才 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ・ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで心情の変化を読み、学習の見通しをもって、大造じいさんの行動について考えたことを文章にまとめようとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを表現するために、ノートやタブレット端末などを用いて、自分が表現しやすい方法で記述できるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ロイロノートやノートを通じて、他者の考えの中から共感する部分や違う部分を自分の考えに反映できるようにする。 ・ 個人の考えをロイロノートに提出し、お互いの考えを見ることができるようになる。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 可視化したものから自分の考えを再考できる時間を確保する。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間の振り返りを基に、大造じいさんの心情変化や物語の山場、続きを考えられるようにする。 ・ ロイロノートで毎時間の学びの振り返りを可視化することによって、本時の内容を考察しやすくする。また、これを教師の評価に生かしていく。 ・ 毎時間の振り返りを生かして、心情変化、物語全体での情景描写の効果などを考えられるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚）			
② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し）			
④ 本時の学び（1単位時間）			
⑤ 単元の学び（単元全体）			
⑩ 自分の考えがどのように変わったか（認知の過程）			
⑬ 友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）			

5 単元の指導と評価の計画（全9時間）			
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【】 評価規準
1	<p>◆物語を読み、大造じいさんがどのような人物か一言で表そう。</p> <p>○ 単元の見通しをもち、単元計画を立てる。</p> <p>○ 物語を通読する。</p> <p>○ 大造じいさんの人物像を「○○な人」と一言で表現する。</p>	②	<p>【知・技】</p> <p>・物語で使われている語句や登場人物の特徴を理解している。（ロイロノート）</p>
2	<p>◆大造じいさんの人物像について理由をはっきりさせて考えを伝え合おう。</p> <p>○ 「大造じいさんとがん」に出てくる登場人物の特徴をロイロノートに整理する。</p> <p>○ 人物像を交流する。</p> <p style="text-align: right;">（広げてみる）</p>	① ②	<p>【思・判・表】</p> <p>・大造じいさんの人物像について、描写を基に捉えている。（ロイロノート）</p>
3	<p>◆情景描写を見付け、どのような効果があるか考えよう。</p> <p>○ 情景描写について理解する。</p> <p>○ 情景描写の文章をまとめる。</p> <p>○ 情景描写があるのとないのでは、物語の盛り上がりがどのように変化するのかを考える。</p>	④	<p>【知・技】</p> <p>・情景描写について理解し、言葉の使い方に対する感覚を意識して、情景描写を使っている。（教科書）</p>
4 5 6	<p>◆大造じいさんの心情の変化を捉えよう。</p> <p>○ 大造じいさんの残雪に対する心情の変化をまとめる。</p> <p>○ ロイロノートから、友達の考えに対して共感した部分などをまとめる。</p> <p style="text-align: right;">（広げてみる）</p>	④	<p>【思・判・表】</p> <p>・大造じいさんの心情について情景描写などを基に捉え、説明している。（ロイロノート）</p> <p>【態度】</p> <p>・進んで大造じいさんの心情の変化読み取り、考えたことをまとめようとしている。（ロイロノート・発言）</p>
7	<p>◆物語の山場はどこかを考え、場面と理由を説明しよう。</p> <p>○ 物語の山場はどこかを考え、理由をまとめる。</p> <p>○ ロイロノートで交流する。</p> <p style="text-align: right;">（多面的・多角的に考える）</p>	⑩	<p>【思・判・表】</p> <p>・物語の山場について、大造じいさんの心情の変化を根拠にして、説明している。（ロイロノート・発言）</p>
8	<p>◆これまで学習した内容を基に、物語の続きを書こう。</p> <p>○ 物語のつながりを意識しながら、情景描写などを使って物語の続きを書く。</p>	①	<p>【思・判・表】</p> <p>・登場人物の相互関係や心情の変化を捉え、既習内容と結び付けながら物語の続きを考えている。（ロイロノート・ノート・発言）</p> <p>【態度】</p> <p>・これまでの学習を生かし、物語の続きを文章にまとめようとしている。（ロイロノート）</p>
9	<p>◆自分の考えと比べながら、物語の続きを読み合おう。</p> <p>○ 相手の作品を、情景描写や物語のつながりを意識し、自分の考えと比べながら読む。</p> <p>○ お互いの作品を評価し合い、友達からの評価を生かして単元全体を振り返る。</p>	⑬	<p>【思・判・表】</p> <p>・物語の続きを読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（ロイロノート・ノート）</p>

2 授業記録（授業実践1）

6 細案 授業実践（2/9時）

本時の目標	評価規準						
登場人物の特徴をまとめる活動を通して、物語全体の大まかな内容を理解する。	【思・判・表】 ・大造じいさんの人物像について、描写を基に捉えている。（ロイロノート）						
具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）	教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点						
<p>見通す</p> <p>○ 前時の学習を振り返り、本時の学習を見通す。</p>  <p>【Jamboard を活用した振り返り】</p> <p>○ 本時の課題を確認する。</p> <p>◆課題 大造じいさんの人物像について、理由をはっきりさせて考えを伝え合おう。</p> <p>○ 登場人物の特徴について、ロイロノートにまとめる。</p>  <p>優しい人だな。</p> <p>優しい？怖い？</p> <p>何度も作戦を考えているから…。</p> <p>○ 友達の考えから、詳しく知りたいと思ったものをシンキングツールに書き加える。</p>  <p>自分の考えと比べて「違うな」「そうだな」という考えを増やしてください。</p> <p>この後、どうしてそう考えたのかを交流してもらいます。</p> <p>探究する</p>	<p>・前時の学習で、大造じいさんの人物像を「○○な人」と表したことを振り返り、その理由を本時で伝え合うことを確認する。</p>  <p>自分の考えをより詳しく伝えるためにどうすればよいと思う？</p> <p>教科書に書いている言葉を使った方がよいと思う。</p> <p>・くま手チャートやフィッシュボーン図など、自分の考えをまとめやすいシンキングツールを各自で選んでまとめるようにする。</p> <table border="1" data-bbox="893 1198 1356 1489"> <tr> <td>負けず嫌い</td> <td>がんを取れなくていまましく思っていた 87ページ</td> </tr> <tr> <td>いい人</td> <td>がんを捕まえるためにたにしを5ひょうも集めていた</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「再び銃をおろしてしまった」</td> </tr> </table> <p>【シンキングツールに整理した考え】</p> <p>・「違うな」「そうだな」という視点で、気になった考えを書き加えることを確認する。</p>  <p>90ページ、2の場面、3行目の下</p> <p>勝つために頑張る。</p> <p>大造じいさん</p> <p>負けず嫌い</p> <p>シンキングツールに友達の考えを青字で追記</p>	負けず嫌い	がんを取れなくていまましく思っていた 87ページ	いい人	がんを捕まえるためにたにしを5ひょうも集めていた		「再び銃をおろしてしまった」
	負けず嫌い	がんを取れなくていまましく思っていた 87ページ					
	いい人	がんを捕まえるためにたにしを5ひょうも集めていた					
		「再び銃をおろしてしまった」					

○ 自由交流でお互いの考えを伝え合う。

何度も作戦が失敗しても、がんを捕まえようとしているから、負けず嫌いな人だと思ったよ。



なるほど。ここに「今年こそは」って書いてあるしね。

【研究との関わり】
考えを広げ深める対話の工夫

対話の視点「広げてみる」

- 他者の考えを基に、自分の考えを広げる。

探究する

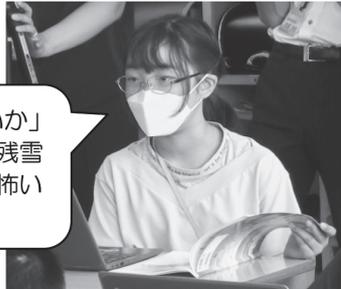
○ 全体で考えを交流する。



「優しい」という考えの人が多
いから、大造じいさんの人物像
は「優しい」でよいのかな？

大造じいさんは残雪を見逃して
あげているから、怖いだけじゃ
ないと思う。

「堂々と戦おうじゃないか」
という文を読んで、まだ残雪
と戦う気があったので、怖い
なと思いました。



○ 本時の学習をまとめる。

◆まとめ 物語の構成や、せりふ、行動に注目しながら読むと、登場人物像が見えてくる。

○ 本時の学習を振り返る。

- 振り返りのポイント
今日の学習で・・・
- ①わかった・できるようになった・疑問に思ったこと
 - ②今後の学習でとりたいこと
 - ③友だちの考えに、そうだな・ここがちがうなと思ったこと

<今日の振り返り>
大造じいさんは悪者という考えもあったけれど、僕は、大造じいさんは生きていくために狩りをしているから本当は、残雪を逃がすべきじゃないのに、正々堂々と戦うために、残雪を逃したから優しいと、思いました。

【子どもの振り返り】

【研究との関わり】

学びを自覚する振り返りの充実

振り返りの視点

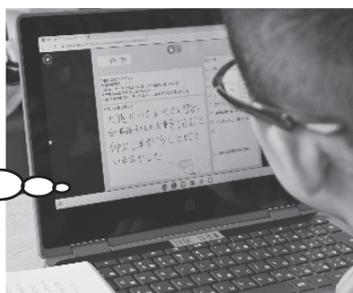
- ① 分かったことやできるようになったこと
- ② 今後の学習で取り組みたいこと

- 振り返りの視点を提示し、ロイロノートを使って本時の学びを振り返る。

振り返る

○ お互いの振り返りを共有する。

△△さんは、〇〇さんの意見を聞いて、「なるほど」と考えが広がったのか。



- 数名の振り返りを全体で共有し、新たな気づきを得ながら学びを深められるようにする。

2 授業記録（授業実践2）

7 細案 授業実践（9/9時）	
本時の目標	評価規準
物語の続きを、情景描写や構成を意識しながら読み、自分の考えを広げる。	【思・判・表】 ・物語の続きを読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（ロイロノート・ノート）
具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）	教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点
見通す	<p>○ <u>本時の学習の見通しをもつ。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>この単元の最後は何をするのでしたか？</p> <p>物語の続きを考える上で、どんなことに気を付けてきましたか。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・単元の目標を全体で確認し、学習のゴールであることを意識できるようにする。</p> <p>自分たちが作った物語の続きを交流する。</p> <p>情景描写</p> <p>人物像</p> </div> </div>
	<p>○ <u>本時の課題を確認する。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◆課題 自分の作品と比べながら、物語の続きを読み合おう。</p> </div>
探究する	<p>○ <u>物語の続きを読み合い、ノートに感想を書く。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>青くすんだ空… 情景描写を使っているな。</p>  <p>残雪はもう一度大造いさんの元に戻ってきたのか。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・情景描写、人物像、話のつながりに注目しながら読むことを確認する。</p> <p>・物語の続きは、タブレット端末かノートのどちらかを子ども自身が選択して作成する。</p>  <p>・記入のしやすさを考慮し、感想は相手のノートに書くようにする。</p> </div> </div>
	<p>○ <u>印象的な友達の作品や、友達からの感想を発表し合う。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p>・友達の作品を読み、印象的だった内容や表現を発表する。</p> <p>・紹介された子どもは、友達からの感想の中で印象的なものを発表する。</p> <p>〇〇さんの作品に「20年後」と書いていたのですが、残雪やがんたちは20年間ずっと沼地にえさを取りに来なかったのか疑問に思いました。</p> </div> </div>

探究する

○ 単元の学習をまとめる。

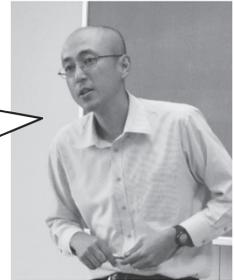
- ・単元全体を振り返り、子どもの発言を生かしながら単元を通してどのようなことを学んだかをまとめる。



情景描写や話のつながり。

話のつながりがいきなり変わらないようにする。

物語を面白くするために、どんなことに気を付けましたか。



◆まとめ 情景描写や人物像、話のつながりを意識すると、物語の続きが面白くなる。

○ 単元の学習を振り返る。

- ・単元を通して、物語を読むときに注目しようと思ったことを書くようにする。
- ・これまでの振り返りを読み返し、気付いたことや今後の学習で生かそうと思うことを書くようにする。
- ・次の3つのキーワードを中心に振り返るようにする。①情景描写 ②人物像 ③内容構成

大造じいさんの性格を考えると、残雪を捕まえるまで何度も作戦を立てると思ったから、そのような続きを考えたのかな。



- ①「金色の夕方の空を見上げた。」という情景描写から、気持ちのよい夕方ということが分かるような工夫をしました。
- ②大造じいさんはかりゅうどなので、本気で残雪とその仲間のがんを本気でとるという意識をしました。
- ③本文の大造じいさんは、最後に「また堂々と戦おうじゃあないか」と言っていたので、戦う流れにしました。

【子どもの振り返り記述例】

振り返る

○ お互いの振り返りを共有する。

- ・共有した後、友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたこと、今後物語を読むときに注目したいことなどを青字で追記することを確認する。

僕は「家の窓から青くすんだ空を見上げていた」という情景描写を使ったよ。

「青くすんだ空」という文で、大造じいさんの澄み切った気持ちを表現したよ。



情景描写を使えば、登場人物の心情が分かるようになるんだよね。

【研究との関わり】

学びを自覚する振り返りの充実

○ 振り返りの共有から得られた新たな学びや気づきを、自己の振り返りに追記する。

振り返りの視点

- ⑬ 友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす

3 研究内容の検証

(1) 子どもの見取り・聞き取り

① 子どもの対話記録

○ 授業実践1 対話の視点「広げてみる」

本時では、対話の視点を「違うな」「そうだな」という言葉に置き換えて子どもたちに提示し、自分と異なった考えをもっている子どもや、なるほどと思った考えの子どもと対話を行った。

Aさん：『ううんとうなってしまった』と書いてあったでしょ。それって、ううんとうなったのが負けず嫌いだと思ったのは、どういう理由なの？」

Bさん：「あともうちょっとで残雪を狙えたから」

Aさん：「もうちょっとで残雪を狙えたところだったのに、捕れなかったから？」

Bさん：「うん」

（本時のAさんの振り返り記述）

大造じいさんが「怖い」とか「負けず嫌い」という意見もあったけれど、私は怖いだけではなく「優しい」一面もあると思います。

Cさん：「なぜ大造じいさんの人物像を『ずる賢い』としたのですか？」

Dさん：「いろいろな手を使って何度も何度も残雪を捕ろうとした内容の文章があるから、そこから考えました」

（本時のCさんの振り返り記述）

みんないろいろな意見をもっていて、大造じいさんの人物像で「ずる賢い」という意見があり、私もそう思いました。

Eさん：「追加で、何で『怖い』って書いたの？」

Fさん：「ここにも書いてあるけど、がんをどうしても捕まえないという気持ちが行き過ぎてて、そこが怖いと思ったから書きました」

（本時のEさんの振り返り記述）

自分は優しい一面があると考えていたけど、Fさんの「怖いところもある」という考えを聞いて、そうだなと強く思いました。



対話の前に、どのような視点で交流するかを全体で確認したことで、「考えの理由を伝え合う」という目的が明確になり、本時の課題解決に向けた対話が行われていた。また、振り返りの記述内容から、対話を通して得られた多面的な考えを、自分自身の考えと比較しながら広げたり深めたりしており、自分の考えを再形成しようとする姿につながった。

さらに、他者との対話の時間と自己との対話の時間を子ども自身が必要に応じて設定したことで、じっくりと自己の考えを見つめ直しながら考えを広げることができたと考えられる。

② 子どもへのインタビュー

○ 授業実践1より



話合いの中で、「なるほど」「どうして」と思った友達の考えはありましたか。

私は、大造じいさんの人物像を「怖い」と書いていたのですが、交流のときに友達が「私はずる賢いと思ったよ」と言っていて、理由を聞いたら「確かにそういう考えもあるな」と思いました。

学習を振り返って、どのようなことが分かったりできるようになったりしましたか。

ほかの人の思ったこととかを聞いて、「確かに」と思ったり「これは違うんじゃないか」と思ったりしたので、自分の考えが広がったと思います。



話合いの中で、「なるほど」「どうして」と思った友達の考えはありましたか。

友達が「怖い」と書いていて、理由を聞いたら「大造じいさんの行動がやり過ぎじゃないか」と言っていました。自分は優しい人だと思っていたけど、友達の理由を聞いて「それだったら確かに」と納得できました。

学習を振り返って、どのようなことが分かったりできるようになったりしましたか。

友達の考えを聞いて考えが広がったから、友達の考えを生かして物語の続きを考える学習を頑張りたいです。

○ 授業実践2より



今回の学習を振り返って、どのようなことが分かったり、できるようになったりしましたか。

物語を考える力が身に付きました。元々、物語を考えることは好きだったけど、続きを考えることがなかったので、続きの書き方を知ることができました。

振り返りを交流して、考えが広がったり深まったりしたことはありましたか。

自分は「こう思った」というのを書いたけど、友達は違うことを書いていて、「そういう考えもあるのか」と思いました。人の振り返りを読んで、自分の考えも振り返ることができました。

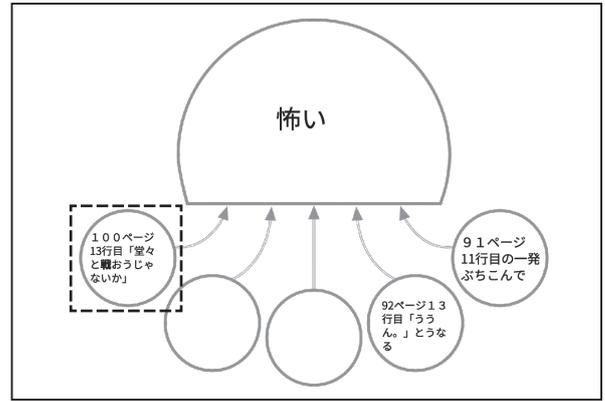
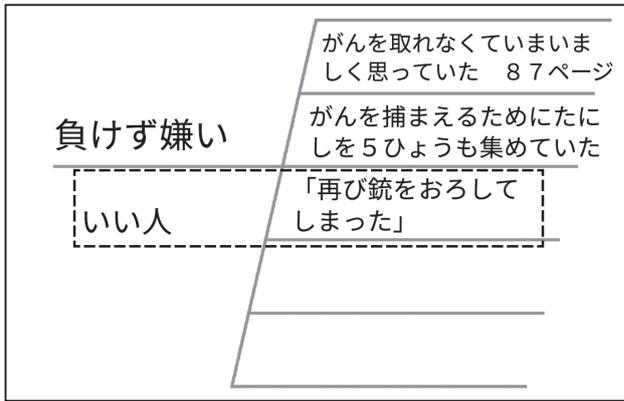
大造じいさんの人物像について、自分自身の考えと友達の考えの共通点や相違点を意識しながら対話を行い、自分の考えが広がったり深まったりしたことがうかがえる。また、自らの学びを振り返り、他者と共有することで、自己変容を自覚したり次時に向けての見通しをもったりすることができるようになってきていることが分かる。

(2) 子どもの記述内容

① シンキングツール

授業実践1では、思考の過程を可視化する手段として、ロイロノートのシンキングツールを使用した。「くま手チャート」や「フィッシュボーン図」など、自分の考えがまとめやすいツールを子ども自身が選択できるようにし、主体的な学びとなるような手立てを講じた。

自分の考えを分かりやすく伝えるために有効なシンキングツールを、自ら選択して書き表し、それを基に対話をする中で、多様な表現で伝えようとする姿につながっていた。また、対話を通して得られた新たな考えを、自身のシンキングツールに追記する子どもも見られ、考えを広げたり深めたりすることができたと考えられる（次ページ上段シンキングツール内の点線枠部分）。

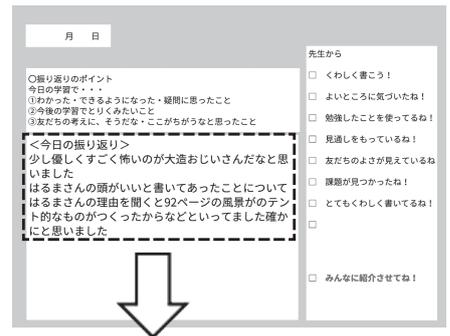


② 1 単位時間の振り返り

授業実践では、学びを深めるための手立てとして右記の振り返りシートを使用し、ICTを活用しながら振り返りの内容の共有や、教師による形成的評価を行った。

○ 授業実践1における「振り返りの視点」

- ・分かった・できるようになった・疑問に思ったこと
- ・今後の学習で取り組みたいこと
- ・友達の考えに「そうだな」「ここが違うな」と思ったこと



大造じいさんは優しいのか怖いのか、わからなかった。

私は、あかりさんの人物像の表し方が思いつかなかったので、思いついたのがすごいなと思いました。思いついたとしても多分書くことが思いつかなかったと思うので、ほんとにすごいなと思いました。

大造じいさんは悪者という考えもあったけれど、僕は、大造じいさんは生きていくために狩りをしているから本当は、残雪を逃がすべきじゃないのに、正々堂々と戦うために、残雪を逃したから優しいと、思いました。

③ 単元を通した振り返り

○ 授業実践2における振り返りの視点

- ・物語の続きを書くときに大事（工夫）にしたこと①情景描写 ②人物像 ③内容 について

①家の窓から青くすんだ空を見上げていた、というじいさんの澄み切った気持ちを再現した。
情景描写を使えばその時の季節や、その時の天気がわかる
 ②大造じいさんは性格的にたにしをまた集めると思ったので続きではたくさんのタニシを集めることにしました。
 ③大造じいさんは何度失敗しても何度でも残雪を捕まえに行くだろうと思ったのでさいごにいきごみのこえをいれた

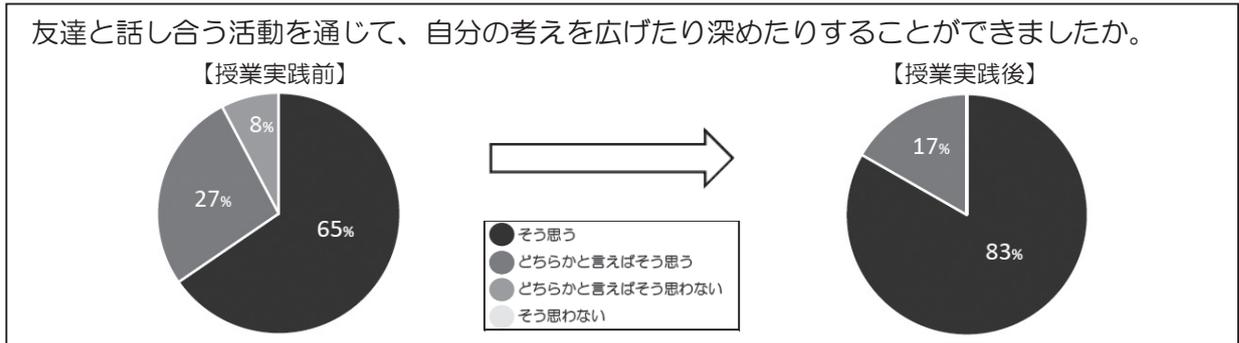
1 光り輝く太陽という情景描写から、大造じいさんの決意が分かるような工夫をしました
 2 前に捕まえたガンを売ったところから、じいさんは結構悪者ということが分かるようにしました
 3 じいさんが残雪を売るという内容
情景描写から状況が分かるようにした
情景描写に色などを入れると状況が分かりやすい

教師が指導のねらいや目的に応じた視点を示すことで、本時の課題に対して疑問に思ったことや、対話を通して学んだことなどを詳しく記述した内容になっている。また、振り返りを共有することで、友達の考えを追記（点線枠部分）する姿も見られた。

対話による学びやお互いの振り返りを意味付けたり価値付けたりすることで、個々の学びが共有され、新たな気づきを得ながら学びを深めることができたと考えられる。

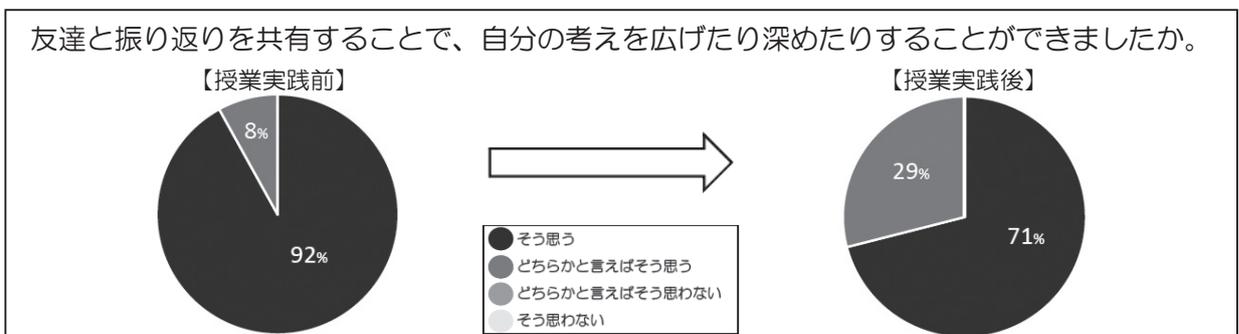
(3) 子どもへのアンケート調査

① 対話に関するアンケート結果



授業実践後のアンケートでは、全ての子どもが肯定的な回答をしている。この結果から、教師が対話のねらいを明確にし、子どもが「何について話すのか」を意識できるようにしたことにより、自分の考えと友達のことを比較し、対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿につながったのではないかと考えられる。

② 振り返りに関するアンケート結果



アンケートでは、授業実践前後で全ての子どもが肯定的な回答をしている。子どもたちは、これまで様々な教科等で友達と振り返りの共有を行っており、その積み重ねにより新たな気づきを得ながら学びを深めることができていると考えられる。また、数字には表れていないが、子どもの振り返りの記述に、共有を通して自分の考えがより強化されたという趣旨の内容も見られ、振り返りの共有における新たな成果を得ることもできた。

③ 単元を振り返った感想

- 友達の意見を聞いて、分からなかったところが分かるようになった。
- 友達と話していると、自分と違うところが分かってくるのが分かった。
- 友達と話していると、納得する考えもあったし、自分の考えにもっと自信をもつこともあった。
- 物語の続きを見て交流したとき、いろいろな例えの情景描写を見ることができてよかった。
- 友達の振り返りを見て「なるほど」と思うことがあった。
- 友達の考えを見ることで、自分の考えが広がるのが楽しい。
- 振り返りを共有すると、ほかの人の考えを取り入れることができ、自分の考えが深まる。
- 友達と振り返りを共有すると、自分にはない考えを見ることができるから考えが広がる。

対話については、「自分と違うところが分かる」「自分の考えに自信をもつ」といった内容が記述されており、振り返りについては、「考えが広がる」「ほかの人の考えを取り入れることで、考えが深まる」といった記述が見られた。このように、子どもたち自身が対話や振り返りを通して考えを広げたり深めたりできたという実感が得られており、学びを深める姿につながったと捉えることができる。

4 共同研究員による単元計画例

(1) 単元計画について

単元計画例（小学校）は十勝教育研究所のホームページからダウンロード
できます。(https://www.tokyoken.net)



研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名	ページ
上士幌町教育研究所	中川 弥生	6年	外国語科	Lesson5 What country do you want to visit?	P22
新得町教育研究所	市原 秀樹	4年	国語科	短歌の世界	P23
更別村教育研究所	岩田 浩平	5年	社会科	水産業のさかんな地域	P23
陸別町教育研究所	尾崎 唯	5年	社会科	水産業のさかんな地域	P24
帯広市教育研究所	柴田 彩	6年	国語科	作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう やまなし イーハトーヴの夢	P24
士幌町教育研究所	湯藤 浩二	3年	算数科	大きい数のしくみ	P25

教科名	小学校 外国語科		学年	第6学年
単元名	Lesson5 What country do you want to visit?		児童数	21名
			授業者	中川 弥生
1 単元の目標				
<ul style="list-style-type: none"> 様々な国名を聞いたり言ったりできる。(知識及び技能) 行きたい国やその国でできることの表し方を知り、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能) 行きたい国についてスライドを作り、その国のよさを紹介することができる。(思考力、判断力、表現力等) 行きたい国のよさを分かりやすく伝えようしたり、世界の様々な国について知ろうとしたりする。(学びに向かう力、人間性等) 				
2 単元の観点別評価規準				
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<知識>	国名やI want to visit...What country do you want to visit?You can...を理解している。	友達が行きたい国やその理由を聞き取っている。	友達が行きたい国やその理由を聞き取ろうとしている。	
<技能>	訪れたい国やそこで何ができるかについて聞き取ったり話したりする技術を身に付けている。	友達が行きたい国について紹介している。	行きたい国のよさを分かりやすく伝えようしたり、世界の様々な国について知ろうとしたりしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもへの育成に向けた手立て				
(1)	考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
	自分の行きたい国を伝えるために、ノート、ワークシート、タブレット端末という3つの方法を示し、子どもが選択することができるようにする。			
(2)	他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
	自分の行きたい国について調べたことを基に友達と交流し、自分なりの考えをもつことができるようにする。			
(3)	対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
	友達と交流したことを基に、更に自分が伝えたいと思ったことを書き定まることができるようにする。			
(4)	自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
	今回行った発表を自己評価したり、友達の発表に質問したりして、よりよい発表の内容について考える時間を設定する。			
4 単元で提示する振り返りの視点				
①	分かったことやできるようになったこと（学びの自覚）			
③	疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造）			
④	本時の学び（1単位時間）			
⑤	本時の課題とまとめ（学習集団や自己の課題）			
⑥	友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）			

5 単元の指導と評価の計画（全7時間）					
時間	学習課題（◆）	主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【】	評価規準
1	◆世界の様々な国について知る。	○ 絵カードを活用し、国名の言い方を練習する。 ○ Let's Watch: 様々な国の紹介を聞いて話している内容を推測する。 ○ 自分が行ってみたい国について考え、友達と交流する。 (多面的・多角的に見る)	① ③ ④ ⑥	【知・技】	様々な国名や訪れたい国を尋ねる表現とその答えや理由を表す表現について理解している。(教科書)
2	◆いろいろな国の有名なものを知る。	○ 国名をさがす。 ○ Let's Listen 1: 登場人物の行きたい国やその国でしたいことを聞き取る。 ○ 海外旅行に必要なお金や物について実物を見て感想を交流する。	① ③ ④ ⑥	【知・技】	登場人物が行きたい国やその国でしたいことについて適切に聞き取ることができる。(教科書・ワークシート)
3	◆行きたい国やそこでできることの言い方を知る。	○ Small Talk: ALTの行きたい国について聞く。 ○ Let's Listen 2: 旅行案内を聞いてその国でできることを選ぶ。 ○ Let's Listen 3: 登場人物が話している内容を聞き取る。	① ③ ④ ⑥	【知・技】	訪れたい国やそこでできること、よさを表す表現について理解している。(教科書・ワークシート)
4	◆行きたい国について尋ね合う。	○ Small Talk: 専科教諭の行きたい国について聞いたり尋ねたりする。 ○ クラスの友達と行きたい国について尋ねたり答えたりする。 (比較する)	① ③ ④ ⑥	【思・判・表】	友達が行きたい国について尋ねたり、自分が行きたい国についてその理由とともに言ったりしている。(観察・ワークシート)
5	◆行きたい国についてスライドを作る。	○ 教師が作成した行きたい国のスライドを見る。 ○ Google スライドを利用して、行きたい国についてのスライドを作成する。	① ③ ④ ⑥	【思・判・表】	これまでワークシートで書き溜めてきた表現を使って、自分が行きたい国のよさを書いて表現している。(ワークシート)
6	◆行きたい国の紹介を聞いたり言ったりする。	○ スライドを見せながら、一人一人行きたい国について発表する。 ○ 友達の発表の内容について質問する。	① ③ ④ ⑥	【思・判・表】	自分の訪れたい国を知ってもらうために、その国でできることやよさについて発表している。(ワークシート)
7	◆単元全体の学びを振り返る。	○ 前時の発表の振り返り: 自分が作成した行きたい国のスライドを改善する。 ○ 「o」の発音には、2種類あることを知る。 ○ 国の名前を書くときは、最初が大文字であることを知る。	① ③ ④ ⑥ ⑧	【思・判・表】	友達の発表した内容を聞いて、自分の発表で付け加えた方がよいことを考え、書き加えている。(スライド)
				【態度】	行きたい国のよさについて、友達に伝わりやすくするために記述内容を改善しようとしている。(振り返りシート)

III 授業実践 (小学校)

教科名	小学校 国語科	学年	第4学年
単元名	短歌の世界	児童数	28名
		授業者	市原 秀樹
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 【知識及び技能】(3)ア ・ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 【思考・判断力、表現力等】(C)1カ ・ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・ 易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)	・ 「読むこと」において、自分が選んだ短歌について、自分の考えをもって音読を工夫するとともに、感じたことや考えたことを共有し、伝え合うことを通して一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C)1カ)	・ 進んで短歌を音読したり視写したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短歌を読み、選んだ理由や好きな言葉、音読の工夫のポイントについてワークシートに書くようにする。 ・ 短歌を選んだ理由や音読の工夫を意識して、音読に取り組む時間を設定する。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで音読し合い、ワークシートに書いたことを伝えてから音読することで、お互いに音読の工夫を意識しながら読み聞かたりできるようにする。 ・ 音読後、よかったところやアドバイスを付箋に書いて交流する時間を設定する。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 付箋による交流で得た友達の見解を基に、自分の音読の仕方を振り返り、自分の音読を更に高める工夫を考えるようにする。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ グループでもう一度音読し合い、ワークシートに感想などを書く時間を設定する。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと (学びの自覚)			
⑧ 本時の課題とまとめ (学習集団や自己の課題)			
⑩ 自分の考えがどのように変わったか (認知の過程)			
⑫ 友達書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす (他者の振り返りを自分の学びに生かす)			

5 単元の指導と評価の計画 (全4時間)			
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○) (対話の視点)	観測的視点	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆短歌について知り、好きな短歌を決めよう。 ○ 教科書を読み、短歌の特徴について知る。 ○ 気に入った短歌を1つ選び、選んだ理由や言葉、音読の工夫などをワークシートに書く。 	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・ 易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(観察) 【思・判・表】 ・ 自分が選んだ短歌について、自分の考えなどを書いたり、音読を試したりしている。(観察・ワークシート)
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆くふうのしかたを決めて、短歌を音読しよう。 ○ 自分の選んだ短歌について、ワークシートに書いたことを意識しながら、音読の練習をする。 ○ グループごとに、選んだ理由や音読の工夫について伝え合いながら、音読の発表をする。 【焦点化する】 	① ⑧ ⑩ ⑬	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・ 自分が選んだ短歌について、自分の考えをもって音読を工夫するとともに、伝え合うことを通して一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(観察・ワークシート) 【態度】 ・ 進んで短歌を音読し、言葉のリズムを楽しみながら様子や気持ちを想像したりしようとしている。(観察)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読を聞いて思ったことやアドバイスを、付箋に書いて交流する。 【評価する】 ○ 友達を付箋を基に、自分の音読について振り返り、更に音読の工夫を考える。 ○ グループでもう一度音読の発表をし、音読した感想などをワークシートに書く。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆短歌の世界を広げよう。 ○ 選んだ短歌を書き写したり、感想を書いたりする。 	① ⑧	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・ 短歌を音読したり視写したりするなどして、言葉の響きやリズムなどに親しんでいる。(観察) 【態度】 ・ 進んで短歌を音読したり視写したりするなどし、短歌を楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。(観察・ワークシート)

教科名	小学校 社会科	学年	第5学年
単元名	水産業のさかんな地域	児童数	20名
		授業者	岩田 浩平
1 単元の目標			
<p>我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種資料を調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるように努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習活動を追究・解決しようとする態度を養う。</p>			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図や各種の資料を調べ、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ・ 調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、適切に表現している。 ・ 水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産業における食料生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直ししたりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートやタブレット端末等自分の考えが表現しやすい方法を提示し、それらの中から選択して記述できるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話場面で、対話の視点を明確に提示する。 ・ 自分の考えを伝え合う活動を設定し、多角的に考えることができるようにする。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話を行った後に、再び課題に戻り考えを再形成できる時間を確保する。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容に適した振り返りの視点を提示し、スプレッドシートを使い、1単位時間ごとの振り返りを行う。 ・ 授業の導入の際に、前時までの振り返りを活用する。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと (学びの自覚)			
② 今後の学習で取り組みたいこと (学びの見通し)			
③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと (新たな学びの創造)			
④ 単元の学び (単元全体)			
⑫ 友達書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす (他者の振り返りを自分の学びに生かす)			

5 単元の指導と評価の計画 (全9時間)			
時間	学習課題 (◆) 主な学習活動 (○) (対話の視点)	観測的視点	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本の水産業について知り、学習問題を考えよう。 ○ 地図帳や Google Maps で十勝の漁港を調べる。 ○ 水産業について知る。 ○ 日本はたくさん魚を食べる国であることを知り、日本の水産業についての学習問題を考え、学習計画を立てる。 	② ③	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・ 日本の漁業生産の変化、主な漁港の水揚げ量などに着目して問いを見出している。(発言、ノート) 【態度】 ・ 水産業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しを持っている。(ノート、タブレット端末)
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆なぜ日本は水産業が盛んなのだろうか。 ○ 地図帳を活用し、どの都道府県でも水産業が行われていることを知る。 ○ なぜ日本は水産業が盛んなのかを考え、学習問題につなげる。 ○ 大陸棚や日本の海流について知る。 【評価する】 	① ②	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・ 日本の漁業生産の変化、主な漁港の水揚げ量などに着目して問いを見出している。(発言、ノート) 【態度】 ・ 水産業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しを持っている。(ノート、タブレット端末、発言)
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆漁はどのように行われているのだろうか。 ○ 様々な漁法があることを知る。 ○ 漁業の種類について知る。 	①	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・ 必要な情報を集め、読み取り、漁港で行われている漁業の様子について理解している。(ノート、発言)
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆魚はどのようにしてお店へ届くのだろうか。 ○ 魚が漁港から食卓に届くまでの過程を、動画を確認しまとめる。 ○ 魚の価格について知る。 	①	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・ 必要な情報を集め、読み取り、水揚げされた魚がどのように消費者に届けられるかを理解している。(ノート、タブレット端末、発言)
5	<ul style="list-style-type: none"> ◆なぜ、つくり育てる漁業を行うのだろうか。 ○ 海が隣接していない県で養殖されているぶくを基に、つくり育てる漁業について知る。 ○ 水産資源が抱える課題について考える。 【広げてみる】 	① ③	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・ つくり育てる漁業について養殖業者や水産センターの人々の工夫や努力について考え、表現している。(ノート、発言)
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆どのようにして水産加工品が作られているのだろうか。 ○ すり身工場やかまぼこ工場の取組について調べてまとめる。 ○ 水産加工品のアピールについて調べてまとめる。 	①	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・ 必要な情報を集め、読み取り、水産物を加工してすり身やかまぼこなどを作る人々の工夫や努力について理解している。(ノート、タブレット端末)
7	<ul style="list-style-type: none"> ◆水産業はどのような課題を抱えているのだろうか。 ○ 漁業別の生産量の変化のグラフから読み取ったことを基に、ペアで交流し考えを深める。 ○ 様々な資料を活用し、沖合漁業や沿岸漁業が減っている理由を考える。 ○ 遠洋漁業が減った理由を、200海里水域を基に考える。 ○ 水産業が抱える問題について自分の考えをまとめる。 【広げてみる】 	①	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・ 水産業が抱える問題について、自分の考えをまとめて表現している。(ノート、タブレット端末) 【態度】 ・ これまでの学習を振り返り、更に調べるべきことを考え、日本の水産業が抱えている課題を解決しようとしている。(発言)
8・9	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本の水産業について学習したことをまとめ、学習問題を解決しよう。 ○ 単元を通して学びを振り返る。 ○ 日本の水産業に関わる人たちの工夫や努力、水産業が抱えている課題について、自分の考えを発表する。 【評価する】 	⑤ ⑬	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・ 水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、自分の考えを表現している。(ノート、タブレット端末)

III 授業実践（小学校）

教科名	小学校 社会科	学 年	第5学年
単元名	水産業のさかんな地域	児童数	17名
		授業者	尾崎 唯
1 単元の目標			
我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるように努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や各種の資料を調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産業における食料生産について、予想や学習計画を立てて、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 学習問題への疑問や予想を基に、自分の考えや意見をもち、ノートやタブレット端末を使ってそれらを整理し、自分に合った表現方法で記述できるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 教科書や各種資料から必要な情報を調べて集め、人々の努力や工夫について考えられるようにする。 対話を通じて、学習問題に関わる社会的現象を多面的に考えることができるようにする。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対し、自分自身で関係性が深いと思う内容や資料を選び、プレゼンテーションソフト等に自分の考えを1つにまとめるようにする。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次ににつなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 毎時毎本の学習内容をまとめる際に、本時の学びが実感できているかどうか振り返りをする。 水産業の現状を、資料を基に「事実と考察」「事実と改善策」「事実とこれからの生活」など自分自身の視点で捉えられるようプレゼンテーションソフト等（画用紙、PowerPoint スライド、ロイロノート等）にまとめる。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚）			
④ 本時の学び（1単元時間）			
⑤ 単元の学び（単元全体）			
⑧ 本時の課題とまとめ（学習集団や自己の課題）			
⑨ 友達の良い振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）			

5 単元の指導と評価の計画（全9時間）			
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）（対話の視点）	初回の視点	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆私たちの食生活と水産業は、どのように関わっているのでしょうか。 ○ 教科書の写真や自分たちの食生活から、水産業について気になることや疑問を出し合う。 ○ 用語を確認し、単元全体の学習問題をつくる。 ○ 本時で考えたことや気付いたことをまとめる。 <p style="text-align: center;">（見通す）</p> <p>水産業の現状、大変さや抱えている課題を知ってもらい、水産業のよさを売り込むプランを考えよう。</p>	① ④	【思・判・表】 ・日本の漁業生産の変化、主な漁港の水揚げ量などに着目して問いを見出している。（発言、ノート） 【態度】 ・日本の水産業の現状を示す資料から気付いたことや疑問をもち、学習課題や学習内容の見直しをもって。（発言）
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆長崎漁港では、どんな漁が行われているのでしょうか。 ○ 写真から巻き網漁の行い方について考え、そのほかの漁の方法について知る。 ○ 漁を行う際の工夫や獲れる魚の量や種類について知る。 	① ④ ⑧	【知・技】 ・写真や漁港の人の話から漁業の特徴や人々の工夫や努力を理解している。（発言、ノート）
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆水揚げされた魚は、どのようにして食卓へ届くのでしょうか。 ○ 写真を並べ替え、届く工程を予想する。 ○ 水揚げされ、出荷までの工程、食卓に届くまでの距離や費用、販売価格などについて資料から読み取る。 	① ④ ⑧	【知・技】 ・魚が水揚げされた後の工程や工夫、費用、価格などについて調べ、水揚げされた魚がどのように消費者に届けられるか理解している。（発言、ノート）
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆魚は過でか捕れないのでしょうか。 ○ 養殖場の写真から何をしているのかを予想する。 ○ 出荷までの日数や養殖の工夫、仕組みなどを資料から読み取る。 	① ④ ⑧	【知・技】 ・つくり育てる漁業について調べ、携わる人々の工夫や取組について理解している。（発言、ノート）
5	<ul style="list-style-type: none"> ◆どのようにして水産加工品が作られているのでしょうか。 ○ すり身やかまぼこを作る過程や水産加工品について知る。 ○ かまぼこ工場の人々の話を聞き、水産加工品を作るための工夫や努力について考える。 	① ④ ⑧	【知・技】 ・水産加工の様子を調べ、水産加工品を作る人々の工夫や努力を理解している。（発言、ノート）
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆水産業には、どのような課題があるのでしょうか。 ○ 既習の内容から、水産業の課題を予想する。 ○ 重要語句の意味を押さえて、4つの資料から水産業の課題とその理由について考える。 ○ 課題から私たちにできることを考える。 <p style="text-align: center;">（多面的・多角的に見る）</p>	① ④ ⑧	【思・判・表】 ・これまでの学習を振り返り、日本の水産業が抱えている課題を考え、水産業の未来を明るくするために何が必要かを考える、適切に表現している。（発言、ノート）
7 9	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本の水産業の現状を変えるプランを考え、興味をもってもらえるような売り込みをしよう。 ○ 単元を通して学んできた水産業の魅力や人々の工夫と前時で学習した課題を結び付け、現状を打破するために何が必要かを考える。 ○ 資料等を使いながらプランを考え、使いやすいプレゼンテーションソフト等を用いて売り込む。 <p style="text-align: center;">（評価する）</p>	① ⑤ ⑧	【知・技】 ・水産業に関わる人々によって私たちの食料生産を支えられていることを理解している。（プレゼンテーション等） 【態度】 ・水産業の現状や抱えている課題に対する意見をもち、学習問題を追究し、解決しようとしている。（プレゼンテーション等）

教科名	小学校 国語科	学 年	第6学年
単元名	作品の世界をたどらえ、自分の考えを書こう やまなし イーハートヴの夢	児童数	33名
		授業者	柴田 彩
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。（知識及び技能）(1)ク ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）(1)イ ・文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。（思考力、判断力、表現力等）(1)オ ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ・比喩や反復などの工夫に気付いている。（(1)ク） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（(1)イ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。（(1)オ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や構成等に着目して作品全体を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見直しをもって自分の考えを書こうとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現するために、絵や図にまとめる活動時にノートやタブレット端末など、自分が表現しやすい教材を選択できるようにする。 子どもからの問いを生かしながら、問題解決の見通しをもつことができるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 対話する必要性のある課題の提示や、対話の視点を明確にする。 全員意見をスプレッドシートで確認できるようにし、対話したい人を選択しながら、自分の考えを強化、追加、変化させていく。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用し、対話における思考の過程を可視化する。 自分の考えを整理する時間を設定する。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次ににつなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使い、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に合わせた振り返りを適時行う。 数名の子どもの振り返りを提示し、振り返る視点を共有する。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚）			
② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見直し）			
④ 本時の学び（1単元時間）			
⑤ 単元の学び（単元全体）			
⑧ 自分の考えがどのように変わったか（認知の過程）			
⑨ 友達の良い振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）			

5 単元の指導と評価の計画（全8時間）			
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）（対話の視点）	初回の視点	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆単元のめあてを設定し、学習計画を立てよう。 ○ 単元解を見て、作品について想像できることを話し合う。 ○ 「やまなし」を読み、単元のめあてを設定し、学習計画を立てる。 <p style="text-align: center;">（多面的・多角的に見る）</p>	② ④	【思・判・表】 ・単元解や文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。（発言、ノート） 【態度】 ・単元のめあてや学習計画を理解し、見直しをもって教材を読もうとしている。（発言、ノート、タブレット端末）
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆「五月」「十二月」で描かれている風景を、簡単な絵や図で表そう。 ○ 表した絵や文中の言葉とを照應したり、子ども同士で見比べたりする。 ○ 様子や出来事を視覚的に捉える。 <p style="text-align: center;">（比較する）</p>	④ ⑩	【思・判・表】 ・場面を簡単な絵や図にまとめ、物語の世界を具体的に想像している。（発言、ノート、タブレット端末）
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆宮沢賢治の人物像を捉え、作品の特徴を探ろう。 ○ 「イーハートヴの夢」を読み、宮沢賢治の人物像について話し合う。 ○ 作品に表れた特徴を話し合う。 <p style="text-align: center;">（抽象化する）</p>	① ④	【思・判・表】 ・宮沢賢治の生き方や考え、作品の特徴を捉えている。（発言、ノート）
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ◆「五月」「十二月」を比べ、なぜ「やまなし」が題名なのか考えよう。 ○ 「やまなし」の気になる言葉や表現に線を引き、その情景を想像する。 ○ 「五月」「十二月」の場面を比べ、感じたことや考えたことをまとめる。 ○ 「題名」について考える。 <p style="text-align: center;">（多面的・多角的に見る）</p>	① ⑩	【知・技】 ・語のリズムや表現のもつ美しさ、比喩などの表現上の特色に気付いている。（発言、ノート） 【思・判・表】 ・題名に着目しながら2つの場面を比べて読み、表現の効果を捉えている。（発言、ノート）
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆宮沢賢治は「やまなし」にどのような思いを込めたのか考え、文章にまとめよう。 ○ 「やまなし」「イーハートヴの夢」の叙述を基に、作者の思いについて考え、文章にまとめる。 	④	【思・判・表】 ・文章を読んで理解したことに基いて、作者の思いについて自分の考えをまとめている。（ノート） 【態度】 ・作品の世界を捉えることに粘り強く取り組み、自分の考えを書こうとしている。（タブレット端末）
7	<ul style="list-style-type: none"> ◆書いた文章を友達と読み合い、作者の思いについて話し合う。 ○ 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 ○ 自分の考えをもう一度整理する。 <p style="text-align: center;">（多面的・多角的に見る）</p>	④ ⑩	【思・判・表】 ・友達の良い文章を読んで考えを広げ、学んだことを基に自分の考えをまとめている。（タブレット端末）
8	<ul style="list-style-type: none"> ◆単元のめあての振り返りをしよう。 ○ 単元の学習のまとめを書く。 ○ まとめにした内容を、交流する。 <p style="text-align: center;">（評価する）</p>	② ⑤ ⑧	【思・判・表】 ・人物像や物語の全体像、表現の効果について考え、まとめている。（ノート） 【態度】 ・単元全体を振り返るとともに、これからも作品の世界を想像して読み深めようとしている。（発言、ノート）

III 授業実践 (小学校)

教科名	小学校 算数科	学年	第3学年
単元名	大きい数のしくみ	児童数	20名
		授業者	湯藤 浩二
1 単元の目標			
万の単位や1億までの整数について知り、十進位取り記数法や4桁区切りによる命数法(万進法)を基に、大きな数の読み方や計算の仕方を考えるとともに、整数の表し方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の学習や生活に活用しようとする態度を養う。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・万の単位や1億までの整数を知り、十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、10倍、100倍、1000倍、1/10にした数や、数や式の相等や大小関係を等号や不等号を用いて表す方法を理解している。	・数の構成や仕組みに着目し、万の単位を用いた数の仕組みについて類推して考え、大きな数の大小の比べ方や表し方を統合的に捉え、説明している。	・1億までの数のしくみや表し方について、統合的に捉えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 ・学級の中に生まれた問いに対し、それぞれで取り組む時間を複数回確保することで、根拠をもった解決方法を生み出す。また、解決方法を話したり書いたりする時間を確保し、個々の解決方法を全体へ共有する。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 ・授業の中で生まれた問いなどに目的し、小さな話合いを授業の中に多く取り入れる。 ・思考スキルを活用し、話合いの目的や内容を明確にする。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 ・決める活動や決め直す活動を取り入れ、自分の考えを更新していく場面取り入れる。			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次ににつなげようとする姿 ・振り返りの視点を提示し、学びを振り返る。 ・振り返りを共有することで、質の高い振り返りになるよう指導していく。			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと(学びの自覚) ② 今後の学習で取り組みたいこと(学びの見直し) ③ 単元の学び(単元全体) ④ 他の単元とのつながり(複数単元との関連付け) ⑤ 自分の考えがどのように変わったか(認知の過程) ⑥ これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する(自己の成長の自覚) ⑦ 友達や書いた振り返りを読んで気づいたことや考えたことを生かす(他者の振り返りを自分の学びに生かす)			

5 単元の指導と評価の計画(全11時間)			
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(○)(対話の視点)	振り返りの視点	評価の観点【】 評価規準
1	◆1万が4つあったら何になる? ○ 班対抗おはじきじゃんけんゲームをする。 ・一人5個のおはじきからスタートし、5回じゃんけんをして、勝ったら相手から1つもらう。 ・終わったら位カード(一、十、百、千の位)を1枚ずつ引き、個人の点数を決定する(班は4人)。 ・班の合計で勝敗を決める。 ○ 一の位の代わりに一万の位のカードを入れる。 ○ 一万が4つあったときの読み方や書き方を、他の位と比較しながら考える。(関係付ける) 「一万が4つあったら、四万じゃないかな」 「千が4つあったら、四千だったしね」 ○ 空位となった一の位の表し方を考える。 「空いたところは0を入れないとおかしくなるよ」	① ②	【知・技】 ・一万の位までの数の構成や読み方、書き方を、既習の整数と関係付けることで考え、理解している。(ノート・発言) 【態度】 ・十進位取り記数法のよさに気づき、一万の位までの数について、既習の整数の学習から類推して考えようとしている。(ノート・発言)
2	◆1000000が10個で? ○ 口円札つかみ取りゲームをする。 ・箱に入った札を制限時間で取り出す。 ・1000円札、100000円、1000000円で行った場合の表し方を考える。 「1000000が10枚なら…1000000だね」 「10枚あると…」「1000000が10倍で?」(関係付ける) ○ 10000~10000000を並べて整理する。 「0が1つずつ増えているよ」(応用する) ○ 10000000が10倍の場合を確認する。 「十千万?」「一億というよ」	①	【知・技】 ・一億の位までの数の構成について、既習の整数と関係付けることで考え、理解している。(ノート・発言)
3	◆一億の位までの数と仲良くしよう。 ○ 読み方、書き方、数の構成などについての練習問題に取り組む。 ○ 土俵町、音更町、帯広市、北海道などの人口を読む。 ○ いろいろな数字を読んだり書いたりする。	⑩	【知・技】 ・一億の位までの数の構成や読み方、書き方を理解している。(ノート・発言)
4	◆1000が23個でいくつ? ○ パターンブロックつかみ取りゲームをする。 ・1個1000点とし、箱に入ったパターンブロックを制限時間でつかみ取る。 「1個1000点としたら自分は何点?」(応用する) ○ 34000点の人は、何個つかんだか考える。 「1個1000点だから…34個?」(応用する) ○ 友達と比べて何個取ったか当てる。 「どうしてそんなに早く答えられるの?」 「いつもの3つ付けるだけだよ」(理由付ける) ○ 75000mは75kmか考える。(関係付ける)	① ⑥	【思・判・表】 ・1000を基に、数の相対的な大きさを捉え、説明している。(ノート・発言)
5	◆数直線の10000はどこ? ○ 当たりを10000とした数直線すごろくをする。 「当たりがわからないよ」「10000はどこ?」 ○ 10000の場所を話し合う。 「10000は、10個目のところじゃない?」「10個目って言うってけど、どういうこと?」「5個目でもいいんじゃないかな」(理由付ける) 「今度は1目盛り2000になるよ」 「じゃ、1個目でもいいんじゃない?」(関係付ける)	① ⑩	【思・判・表】 ・1目盛りの大きさに注意して数直線で数を表す方法を考え、説明している。(ノート・発言)

6	◆100万対決 大きいのはどっち? ○ 1000万の口に引いたカードを当てはめ、どちらの数が大きいかわかるように表す。 ・2回勝負し、結果を引いたり足したりする。 「500万+300万ってどうするの?」 「答えは800万だよ。だってね…」 「それって5+3をしているということ?」(理由付ける)	① ②	【知・技】 ・数や式の相等関係や大小関係の表し方を理解している。(ノート・発言)
7	◆16000くじを作る。 ○ 16000くじを作る。 ・裏に数字の書いたカードを引く。 「10000」「20000」ははずれ。 「一万六千」「16000」は当たり。ほかには? ○ ほかの当たりくじを作る。 「足したらできるよ」「じゃ、引いてもできるよ」 「さっきのはずれカードが使えそう」	① ②	【思・判・表】 ・数の構成を多面的に捉え、数の見方を豊かにしている。(ノート・発言)
8	◆×10をしたらどうなる? ○ じゃんけん25ゲームをする。 ・じゃんけんに勝ったら25を10倍する。 ○ 10倍=×10したらどうなるか考える。 「図を使ってやると…250だね」 「そういえば3×10=30だった」 「0つけばいいのかも」(理由付ける) ○ チョキで勝ったら100倍、パーで1000倍というルールでゲームをする。 「100倍は0が2つだね」 「1000倍は0が3つ」(応用する、類推する) ○ 25の10倍、100倍、1000倍の数字を並べて、気づいたことを話し合う。 「数字が斜めに並ぶね」	① ②	【知・技】 ・整数を10倍した数の表し方を理解している。(ノート・発言) 【思・判・表】 ・10倍を基に、100倍や1000倍を考え、説明している。(ノート・発言)
9	◆÷10をしたらどうなる? ○ じゃんけん25ゲームPart2をする。 ・じゃんけんに勝ったら25を10倍し、負けたら10で割る。 ○ 250÷10をしたらどうなるか考える。 「25になる気がする」 「タイトルを分けてみると…25だね」 「30÷10=3だったね」 「÷10は0が1つ減るんだね」	① ②	【知・技】 ・整数を10で割ったときの表し方を解している。(ノート・発言)
10	◆一億はどんな大きさ? ○ 1を一辺が1mmの正方形としたとき、一億はどのような大きさか考える。 ・10は1cm×1mm。100は1cm×1cm…、一億は10m×10m	⑤	【知・技】 ・数の大きさを、実感を持って理解している。(ノート・発言)
11	◆大きな数の問題を解こう。 ○ 練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る。	⑩ ⑬	【知・技】 ・基本的な問題を解決することができる。(ノート) 【態度】 ・単元の学習を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。(ノート)

IV 授業実践（中学校）

1 単元計画

教科名	中学校 外国語科		学 年	第 1 学年
単元名	Lesson 5 School Life in Two Countries		生徒数	40 名
			授業者	土井 誠人
1 単元の目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・現在起きていることや友達の様子などを、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。 ・オーストラリアと日本の学校生活の共通点や相違点を知り、異文化に対する理解を深めることができる。 				
2 単元の観点別評価規準				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
【知識】 ・現在進行形の文の特徴やきまりを理解している。[聞くこと・話すこと・書くこと] 【技能】 ・今起きていることについて、現在進行形の文を用いて話したり、正しく書いたりする技能を身に付けたりしている。[話すこと・書くこと]		・今起きていることについて、現在進行形の文を用いて即興で話している。[話すこと] ・オーストラリアと日本の学校生活の共通点や相違点について考え、質問したり伝えたりしている。[話すこと]		・英語で相手への質問を考えたり、自分たちのことを伝えたりすることを通して、外国語の背景にある文化に対する理解を深めようとしている。[書くこと]
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て				
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が英語で表現したいことを、ノート、メモ、ワークシート、タブレット端末などを活用しながら、相手に伝えられるようにする。 				
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアと日本の学校生活の共通点や相違点について互いに意見を言ったり、質問を考えたりできるようにする。 ・自分だけでは伝えられないことでも、クラスメイトと協力し、伝えられるようにする。 				
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校のことのみならず、オーストラリアの学校生活を知ること、国や学校によって異なる状況や取組があることを知ることができるようにする。 				
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを活用し、自分が表現したいことを英語で話したり、書いたり、聞いたりできたかを確認する。 				
4 単元で提示する振り返りの視点				
① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚）				
② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し）				
③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造）				
④ 本時の学び（1 単位時間）				
⑧ 本時の課題とまとめ（学習集団や自己の課題）				
⑩ 自分の考えがどのように変わったか（認知の過程）				
⑬ 友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）				

5 単元の指導と評価の計画（全8時間）			
時間	学習課題（◆） 主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【 】 評価規準
1	Part 1 ◆いま起きています出来事を伝えよう。 ○ ワークシートを活用したチャット。 ○ New Words 書き取り。 ○ 本文の内容の正誤チェック。 ○ 本文読み練習。 (多面的に見る)	① ②	【知・技】 ・現在進行形のチャットを正確に読むことができる。(ワークシート) ・本文の内容を予想しながら、内容を理解している。(ワークシート)
2	Part 1 ◆オーストラリアの学校生活について知ろう。 ○ ワークシートを活用したチャットを、自分の言いたいことに言い換える。 ○ New Words 書き取り。 ○ Emma と Kenta の会話文で、Kenta が質問しそうなことを想像しながら会話文の続きを考える。(応用する)	① ③	【思・判・表】 ・理解した内容を基に、オーストラリアの学校生活に関する質問を加えて会話している。(ワークシート) 【態度】 ・英語の質問を考えるを通して、オーストラリアの学校生活に対する理解を深めようとしている。(観察)
3	Part 2 ◆いま起きています出来事についてたずねよう。 ○ ワークシートを活用したチャット。 ○ New Words 書き取り。 ○ 本文の内容正誤チェック。(多面的に見る)	① ②	【知・技】 ・現在進行形のチャットを正確に読むことができる。(ワークシート) ・本文の内容を予想しながら、内容を理解している。(ワークシート)
4	Part 2 ◆合唱曲の歌詞を Kevin に説明するつもりで英語で表現しよう。 ○ ワークシートを活用したチャット。 ○ New Words 書き取り。 ○ Kevin と Aya の会話文で、自分たちが歌う合唱曲の一部を英語に翻訳して伝える。(広げてみる) ○ 教科書を活用して Part 1 と Part 2 を振り返る。	① ③	【思・判・表】 ・自分たちの合唱曲の歌詞を英語で表現して伝えている。(ワークシート) 【態度】 ・グループで相談しながら歌詞を英語で表現しようとしている。(観察)
5	Part 3 ◆いま起きています出来事について理解したり伝えたりしよう。 ○ ワークシートを活用したチャット。 ○ New Words 書き取り。 ○ 本文の絵を活用したやり取り。(焦点化する)	① ②	【知・技】 ・チャットを正確に読むことができる。(ワークシート) ・単語を正確に発音し、書くことができる。(ノート) ・絵を見て、現在進行形を活用して状況を説明している。(教科書)
6	Part 3 ◆いま起きています出来事について理解したり伝えたりしよう。 ○ ワークシートを活用したチャット。 ○ New Words 書き取り。 ○ 本文の絵を活用したやり取り。	① ④	【思・判・表】 ・絵を見ながら、今起きていることについて現在進行形を用いて説明している。(パフォーマンステスト)
7	Review ◆単元で学んだことを英語で話してみよう。 ○ ワークシートを活用したチャット ○ 教科書の既習項目を振り返りながら、当てはまる語句を記述し、リスニングで解答を確認する。 ○ 子どもがしていることを聞き取り、メモを取ってその内容を英語で書き、内容を変えて表現する。	⑧	【知・技】 ・前のページを見ながら、Reviewに入る適切な語を正しく書くことができる。(教科書) ・リスニングで聞いたことをメモして、英語で書くことができる。(教科書)
8	Task ◆この単元の文法項目を復習しよう。 ○ Task の英語を書いてみる。 ○ 問題演習で知識の定着を図る。	⑩ ⑬	【知・技】 ・教科書のTaskを活用し、現在進行形を用いた英文を考えて書くことができる。(教科書)

2 授業記録（授業実践 1）

6 細案 授業実践（2/8時）

本時の目標	評価規準
<p>オーストラリアの学校生活に関する質問を考えることを通して、日本との共通点や相違点について考える。</p>	<p>【思・判・表】 ・理解した内容を基に、オーストラリアの学校生活に関する質問を加えて会話している。（ワークシート） 【態度】 ・英語の質問を考えることを通して、オーストラリアの学校生活に対する理解を深めようとしている。（観察）</p>
<p>具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）</p>	<p>教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点</p>
<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">見通す</div> <div style="margin-bottom: 10px;">○ <u>ワークシートを活用して、クラスメイトと会話文のやり取りを行う。</u></div> <div style="margin-bottom: 10px;">○ <u>本時の新出単語を発音し、書く練習をする。</u></div> <div style="margin-bottom: 10px;">○ <u>教師が発音した単語を聞き取り、ワークシートに記入する。</u></div> <div style="margin-bottom: 10px;">○ <u>本時の課題を確認する。</u></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">◆課題 オーストラリアの学校生活について知ろう。</div> <div style="margin-bottom: 10px;">○ <u>Kenta と Emma の会話文を読み、会話の内容を確認する。</u></div> <div style="margin-bottom: 10px;">○ <u>質問の考え方について確認する。</u></div> </div>	<p>・30秒ごとに question と answer の文を交代して読み、相手を変えて3～4サイクル行う。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>It's normal, I think.</p> <p>Is it long in Japan?</p> </div> <div style="margin: 10px 0;">  <p>What language do you learn?</p> <p>I learn French.</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Emma: Yes. We're having morning tea now. Kenta: Morning tea? Emma: Yes. We have recess for 30 minutes after first period. That student is eating a snack. Those students are chatting on the bench. Kenta: What/Which language do you learn? Emma: I learn French.</p> <p style="text-align: center;">【ワークシートの会話文の一部】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; background-color: #f0f0f0;"> <p>【研究との関わり】 考えを広げ深める対話の工夫</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; background-color: #f0f0f0;"> <p>対話の視点「応用する」 ・教科書の例文を基に、Kenta の立場になってオーストラリアの学校生活について質問する英文を考える。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>日本とオーストラリアの学校生活で共通するものや違うものを話し合ったり調べたりして、質問を考えましょう。</p> </div>

探究する

○ ペアで協力して、オーストラリアの学校生活に関する質問を考える。

オーストラリアでも生徒が掃除をするのかな。



それを英語に訳してみよう。

海外は室内でも土足だ。ということは玄関に靴箱はないのかな。靴箱を英語で訳すと…。



・ワークシートを活用し、お互いの考えをメモしながら可視化し、整理した上で質問文をまとめるようにする。

オーストラリアの学校には家庭訪問はないらしいよ。



だったら、三者面談や二者面談はどうなんだろう。これを質問文にしたらいいんじゃない？

・単語の読み方については、タブレット端末で調べたり、教師や友達に質問したりして、子ども自身が方法を選択できるようにする。

振り返る

○ 振り返りの書き方を確認する。



英語が話せたか、書けたか、読めたか、理解できたかを A・B・C で自己評価します。

また、今日の学びについてのコメントも追記しましょう。

【研究との関わり】

学びを自覚する振り返りの充実

○ 本時の学習を振り返る。



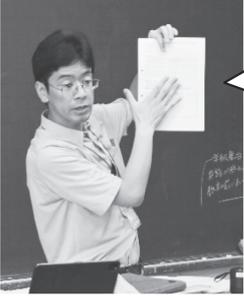
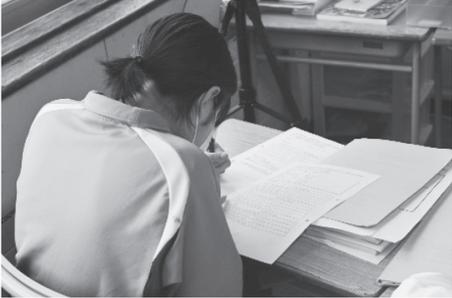
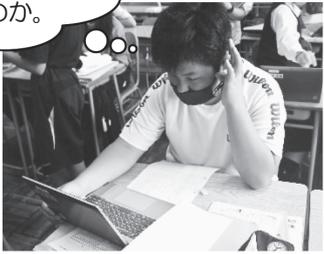
振り返りの視点

- ① 分かったことやできるようになったこと
- ③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと

友達と話し合いながら、掃除の仕方や靴箱の有無など、日本とオーストラリアの学校生活の違いを知ることができた。

○ 次時の確認をする。

2 授業記録（授業実践2）

7 細案 授業実践（4/8時）	
本時の目標	評価規準
日本の合唱曲の歌詞を、Kevin に伝えるつもりで英語で表現する。	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの合唱曲の歌詞を英語で表現して伝えている。（ワークシート） <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで相談しながら歌詞を英語で表現しようとしている。（観察）
<p>具体的な子どもの姿 学習課題（◆） 主な学習活動（○）</p>	<p>教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点</p>
見通す	<p>○ <u>単元前半の振り返りの記述方法について確認する。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>ここまでの学習を通じて、疑問に思ったことやもっとやってみたいことを中心に書いてもらいます。</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <p style="text-align: center;">ここまでの学習について、より詳しく振り返るといふことか。</p> <p>○ 振り返りの視点を示し、見通しをもつことができるようにする。</p>
	<p>○ <u>ワークシートを活用して、クラスメイトと会話文のやり取りに取り組む。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 30秒ごとに question と answer の文を交代して読み、相手を変えて3～4サイクル行う。  <p>○ <u>本時の新出単語を発音し、書く練習と聞き取り問題を行う。</u></p> <p>○ <u>本時の課題を確認する。</u></p>
探究する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◆課題 合唱曲の歌詞を Kevin に説明するつもりで英語で表現しよう。</p> </div> <p>○ <u>Aya と Kevin の会話文を読み、会話の内容を確認する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 1文ずつ音読し、単語や文の意味や発音を全体で確認する。 <p>○ <u>歌詞を訳す上で気を付けることを確認し、役割分担をする。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>実は、先生も100%の正解は知りません。</p> <p>歌詞を作った人の思いをみなさんがどう解釈するかで、英訳の内容が変わるということです。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>日本語の歌詞をそのまま英訳すればいいわけではないのか。</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 作詞者の思いを踏まえ、歌詞の言葉一つ一つの意味を考えながら英訳する必要があることを確認する。

探究の場

○ グループで協力して、合唱曲の歌詞を英訳する。

・複数の翻訳アプリを使い、英訳された文を比較しながら、歌詞の意味に合った単語や表現を使うことを意識付ける。

【研究との関わり】
考えを広げ深める対話の工夫

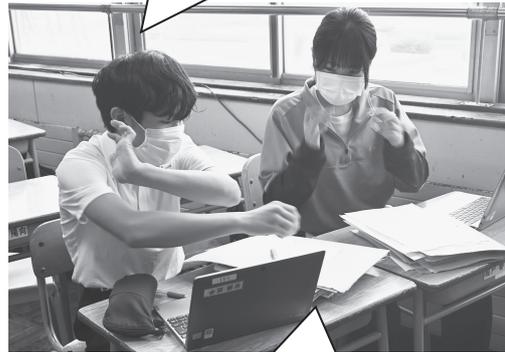
対話の視点「広げてみる」

・ペアで話し合いながら、日本語の歌詞の意味に合う表現を考える。

「哀れ」の方だよ。



「星明かりに照らされ」ってどう訳した？



「かなしみ」って漢字で書くとどうだっけ？

「哀れ」の方だったら“sorrow”かな。

単語で訳したらこうなったけど、文で訳したらこうなった。

○ グループで英訳文を交流し、自分たちが作成した英訳文を見直す。

・日本語の歌詞と比較しながら、どのような単語を使って英訳しているのか見るように声を掛ける。

じゃあ、歌詞の意味と近い単語にしよう。



これとこれ、違うよ。

（「ときめき」という単語を違う単語に置き換えて訳す）
ほら！「片思い」という意味になった。こっちの方がよい！

○ 本単元の1～4時間目までの学びを振り返る。

【研究との関わり】

学びを自覚する振り返りの充実

振り返りの視点

- ① 分かったことやできるようになったこと
- ③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと



友達と考えを共有することで、自分の考えが深まったな。

・振り返りの視点を再確認し、子ども同士で対話をしながら、これまでの学習について振り返ることができるようにする。

○ 次時の確認をする。

振り返る

3 研究内容の検証

(1) 子どもの見取り・聞き取り

① 子どもの対話記録

○ 授業実践1 対話の視点「応用する」

本時では、教科書の会話文を応用して、オーストラリアの学校生活について質問する英文を考える課題を設定し、グループで対話をしながら学習を進めた。

Bさん：「何調べてるの？」
 Aさん：「『オーストラリアの学校にないこと』って打って調べてる」
 Bさん：「例えば？」
 Aさん：「下駄箱はオーストラリアの学校にはないらしい」
 Bさん：「ないの？何で？」
 Cさん：「何で？」
 Aさん：「靴を脱ぐ習慣がないからじゃない？」
 Bさん：「おー、いいじゃん」
 Dさん：「家でも、基本は土足だからだ」
 Aさん：「だから学校にも下駄箱がないんだ」
 （その後、Google 翻訳を活用し、考えた質問を英文に訳す）

○ 授業実践2 対話の視点「広げてみる」

本時では、文化祭で歌う合唱曲を題材として取り上げ、これまでの学習を生かしながら、対話を通して日本語の歌詞の意味に合う英訳文を考える学習を行った。

（「胸を震わせるときめきを 空と大地に歌おう」という歌詞を英文に訳す）
 Eさん：「いいこと思いついた！これをまず…これを貼り付けたら…『心がときどきする片思いを空と地球に歌いましょう』」
 Fさん：「空と地球…」
 Eさん：「本当は『大地』なんだけどね。いいのかな。先生！これコピーして、貼り付けたら意味が違うんですけど」
 先生：「だって、解釈が…」
 Eさん：「解釈が違ってもいいんですか」
 先生：「もちろん。ただ、作者の思いと一致しているかどうかは見た方がいいですね」
 Eさん：「感動！」
 Fさん：「でも、これとこれ、違うよ」
 Eさん：「じゃあ、歌詞の意味と近いやつにしよう」
 Fさん：「ほら！『片思い』という意味になった。こっちの方がよい」

（Google 翻訳に日本語の歌詞を打ち込み、英文に訳す）

Gさん：「合ってるっちゃ合ってるけど…」
 Hさん：「ちょっと違うね。ちょっと省略したら？」
 Gさん：「あー、意味が全然変わっちゃった」
 Hさん：「したら、こうすると…」
 Gさん：「あっ、いい感じじゃない？」
 Hさん：「よし、書き写そう」

授業実践1では、オーストラリアと日本の学校生活の共通点や相違点を調べ、英訳する学習を通して、異文化に対する理解を深めることができていた。また、授業実践2では、「歌詞の意味を考えながら合唱曲の歌詞を英訳して伝える」という必要感のある課題を設定したことで、対話をする意義が生まれ、試行錯誤しながら学ぶ姿が見られた。課題を解決するためにグループで協力して考えを創り上げる対話を通して、考えを広げようとする姿につながっていた。

② 子どもへのインタビュー

○ 授業実践1より

今日の学習を振り返って、疑問に思ったことやもっとやってみたいことはありますか。

今日の学習では、オーストラリアの学校生活についての質問を考えたのですが、オーストラリアと日本の学校の違いに興味をもったので、もう少し深く調べてみたいと思います。

これからの学習では、どのようなことを頑張りたいですか。

9月に英語暗唱大会があるので、それに向けて読む力や英語の知識、調べる能力を身に付けていきたいです。

話し合いの中で、「なるほど」「どうして」と思ったことはありましたか。

タブレットの翻訳機能で「フランス」という言葉を調べたのですが、発音が「フレンチ」となっていてよく分かりませんでした。そのとき、友達が「フレンチって読むけどフランス語って意味だよ」と教えてくれて、フランス語を学んでいるという意味だということが理解できました。

学習を振り返って、どのようなことが分かったりできるようになったりしましたか。

以前、道徳の授業で日本と外国の学校での掃除の違いについて学習をしていて、日本では子どもが掃除をしているのに、外国では清掃員の方がいるってことを思い出して、友達と話し合いました。そこから、日本とオーストラリアの文化の違いについてもっと知りたいと思いました。



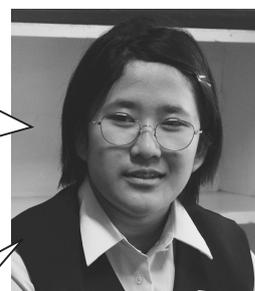
○ 授業実践2より

ここまでの学習を振り返って、どのようなことを学びましたか。

日本とオーストラリアの文化の違いがよく分かりました。そして、今回の勉強を通して、言葉の意味や作者の思いを踏まえた上で英訳することが大切だということが分かりました。

ここまで学習したことを生かして、次時以降の学習でどのようなことを頑張りたいですか。

自分が興味をもっていることについて、英語で伝えられるようになりたいので、そのために、英語の表現を学んでいきたいです。



日本とオーストラリアの文化の違いについて更に詳しく調べようとしたり、学習したことを今後の自分の学びに生かそうとしたりするなど、自分の学習活動を振り返り、学んだことを次の学びにつなげようとしていることがうかがえる。

(2) 子どもの記述内容

① 振り返り記述

本単元では、ワークシートに「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」について3段階の自己評価欄と、振り返りの視点についての自由記述欄を設け、毎時間の終末に振り返りの時間を設定した。

自己評価欄は、単元の目標に設定した「知識及び技能」についてどの程度理解できたかを振り返ることをねらいとし、自由記述欄は自己の学びを言語化し次の学びにつなげることをねらいとした。

○ 授業実践2における「振り返りの視点」

- ・分かったことやできるようになったこと
- ・疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと

<振り返りの記述内容>

- 「英語の意味が分かるようになってきた」
- 「英語の読み書きがうまくなった」
- 「英語を大体は読めるようになった」
- 「特定の文をすらすら読めるようになった」
- 「いろいろな単語を学べたし、しゃべることができるようになった」
- 「英語を読むのをもっとうまくなりたい」
- 「タブレットに英語を打った後、確かめるためにもう一度Google翻訳をすると、意味が少しだけ違うのが面白い」

☆Self-Check

Date: Sep. 12 th (Thu.)	Evaluation	Comment
1 I could talk with my classmates in English.	A・B・C	
2 I could write my opinion in English.	A・B・C	
3 I could read the content in English.	A・B・C	
4 I could understand the spoken English.	A・B・C	

★振り返りの視点

(このLessonの活動を通じて)

- ①分かったことやできるようになったこと (学びの自覚)
- ②疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと (新たな学びの創造)

以上の項目を自由に記入してください (日本語で)

英語を学ぶのは、
たしかめるのに、少しづつと、意味が少しだけ違うのが
面白い。

【振り返りシート】

どのようなことができるようになったかを記述する内容が多く、本時における学びを自覚することができていることが分かる。今後は、単元のゴールと結び付けながら振り返りを積み重ねたり、ICTを活用して共有したりすることで、次につながる振り返りとなると考えられる。

② ワークシート

授業実践2では、思考の過程を可視化する手段として、下のようなワークシートを使用し、子どもたちが自分たちの考えを自由に記述することができるようにした。

君の瞳に花開く、夢をかかえる心
風に吹かれる、この道さえも
星明かりに照らされ、今ただ一人歩こう
胸を躍らせるときを、空と大地に歌おう
寂しき笑顔もぬくもりも、熱い思いに揺られて
今抱きしめて歩こう

旅立ちの勇気を
地平線の光から含み、この時
微笑みながら、ふりむかずに
夢をつかむ者たちよ、君だけの花を映かせよう

争いの日々を乗り越えて、青空に歌うとき
かけがえない命のはてに、名もない花を映かせよう
今、地球(こゝ)に生きる者よ、旅立ちの勇気を
虹色の彼方に、語りかけるこの時
微笑みながら、ふりむかずに
夢をつかむ者たちよ、君だけの花を映かせよう

① Even this path blown by the
wind of your heart that plays
dreams that blossom in your
eyes. (心-瞳)
In your eyes, flowers bloom. Hearts that
play a dream. This path blown

君の瞳に花開く、夢をかかえる心
風に吹かれる、この道さえも
星明かりに照らされ、今ただ一人歩こう
胸を躍らせるときを、空と大地に歌おう
寂しき笑顔もぬくもりも、熱い思いに揺られて
今抱きしめて歩こう

旅立ちの勇気を
地平線の光と分かち合うこの時
微笑みながら、ふりむかずに
夢をつかむ者たちよ、君だけの花を映かせよう

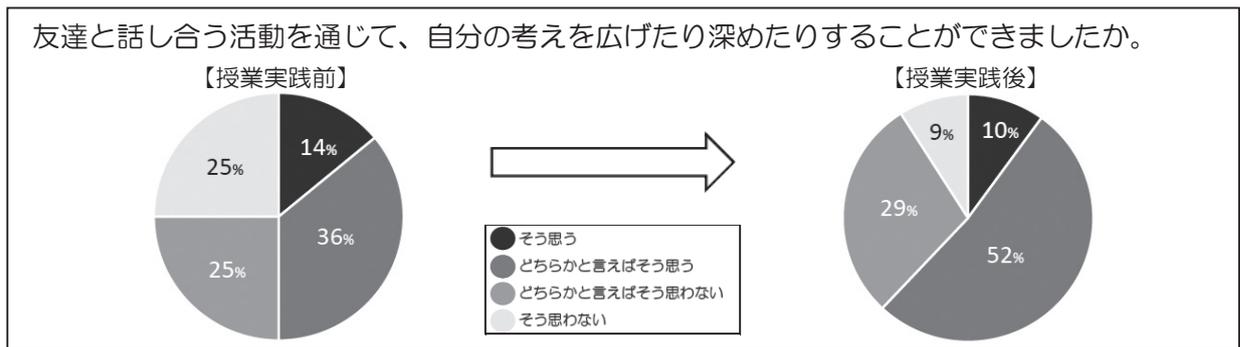
争いの日々を乗り越えて、青空に歌うとき
かけがえない命のはてに、名もない花を映かせよう
今、地球(こゝ)に生きる者よ、旅立ちの勇気を
虹色の彼方に、語りかけるこの時
微笑みながら、ふりむかずに
夢をつかむ者たちよ、君だけの花を映かせよう

「悲しみ、笑顔、ぬくもり、熱い思いに揺れて、
今抱きしめて歩こう」
↓
「sadness too, smile too, warmth too,
passionately, then art is racing, moment,
give me a hug, let's embrace our
thoughts and walk.»

翻訳した文をワークシートに記述することにより、考えの過程が可視化され、対話を繰り返しながら内容を加除修正の様子が見られた。また、学習内容と子どもの実態に合わせて記述方法に自由度をもたせることで、必要に応じてワークシートを活用し、情報を精査しながら考えを再形成しようとする姿につながっていた。

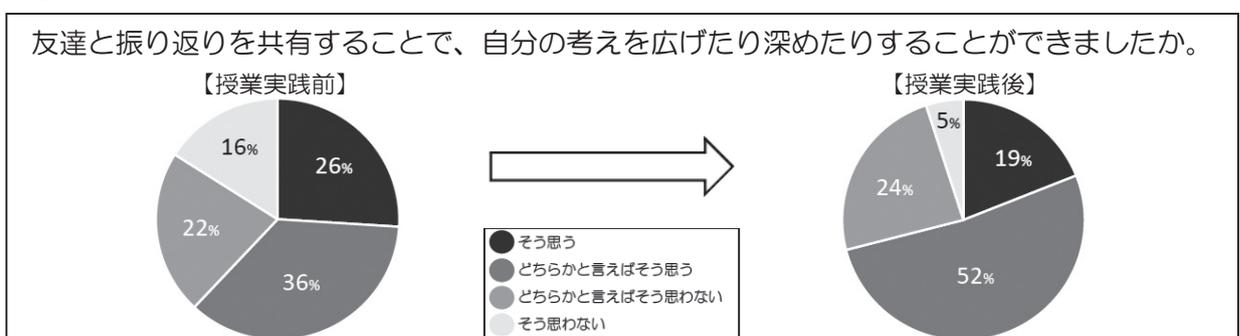
(3) 子どもへのアンケート調査

① 対話に関するアンケート結果



授業実践前に比べ、授業実践後のアンケートでは、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的な回答をした子どもの割合が増えている。この結果から、教師がねらいを明確にしながら対話の場面を設定したことで、子どもたちは対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができたと実感しており、学びを深めることにつながったと考察される。

② 振り返りに関するアンケート結果



授業実践後のアンケートでは、授業実践前よりも自分の考えを広げたり深めたりすることができたと実感している子どもの割合が増えたことが分かる。単元を通して継続的に振り返りに取り組み、共有を通して優れた振り返りのよさを意味付けたり価値付けたりしたことにより、他者の学びを自分の学びに生かしながら学びを深めることができたと考えられる。

③ 単元を振り返っての感想

- 友達と考えを共有することで、自分の考えを深めることができた。これからも友達と考えを共有して考えを深め合いたい。
- いろいろな人と交流を深めることができるので、話し合いは自分のためになると思う。
- 友達との話し合いで少しずつ英語が話せるようになった。
- 友達と話し合うことで、自分の考えを広げることができた。
- 学習の振り返りの仕方が分からなかったけど、何を書くかがはっきりすると書きやすくなる。
- 振り返りをすることで、その日どんな勉強をしたか自分なりにまとめることができる。
- 振り返りを書くことで、分かったことや分からなかったことだけでなく、次の時間に何を頑張るのかを意識できる。

感想から、「話し合いは自分のためになる」「友達と考えを共有して考えを深め合いたい」というように、友達との対話を肯定的に捉えていることが分かる。また、振り返りをすることで学習内容をまとめることができたり、次時の見通しをもつことができたりするなど、振り返りの有効性を実感できていることがうかがえる。

4 共同研究員による単元計画例

(1) 単元計画について

単元計画例（中学校）は十勝教育研究所のホームページからダウンロード
できます。（<https://www.tokyoken.net>）



研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名	ページ
音更町教育研究所	上野 純子	2年	国語科	記事を書く	P37
鹿追町立教育研究所	梅原 翔太	2年	社会科	第3章 日本の諸地域 3節 近畿地方一都市・農村の変化と人々の暮らし	P38
清水町教育研究所	山内 優萌	3年	理科	第1分野(5)「運動とエネルギー」 運動の規則性	P38
池田町教育研究所	遠藤 雄平	2年	社会科	第3章 日本の諸地域 3節 近畿地方一都市・農村の変化と人々の暮らし	P39
豊頃町教育研究所	竹中 悠	1年	理科	第2分野(1)「大地の成り立ちと変化」 身近な地形や地層、岩石の観察	P39
足寄町生涯学習研究所	山田 優里	1年	国語科	物語の始まり——竹取物語——	P40

教科名	中学校 国語科	学年	第2学年
単元名	記事を書く	生徒数	40名
		授業者	上野 純子
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕②ア 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B11イ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔「学びに向かう力、人間性等」〕 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。〔2ア〕 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。〔B11イ〕 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって実生活への生かし方を考えようとしている。〔B11イ〕 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども達の育成に向けた手立て			
<ul style="list-style-type: none"> ① 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 ・様々な新聞社の新聞記事の書き方や見せ方を参考に、新聞の書き方や伝え方のイメージをもたせ、課題解決の見通しをもつことができるようにする。 ② 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 ・グループの人数を5人とし、多面的・多角的に意見が出るように工夫する。 ・単元の終わりに全体交流の場面を設定することで、表現の仕方や文章構成の工夫について自分たちの新聞と比較、検討しながら考えることができるように工夫する。 ③ 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 ・友達の良い文章や友達のからのアドバイスを参考に、文章を練り直す時間を設定する。 ・Jamboard を活用し、可視化されたタブレット端末上のアドバイスを基に、自分の考えを整理したり、自分の表現を見直したり、友達のアドバイスを自分の表現に生かしたりすることができるように工夫する。 ④ 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿 ・振り返りシートを活用し、1時間単位で振り返りを行う。次の時間の見通しや、次の時間の課題を意識することで、子ども自身が学びの自己調整をできるように工夫する。 ・振り返りの内容をグループで交流することで分かったことや工夫したことを仲間と共有し、学びの自覚を認識できる場を設定する。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚） ② 疑問に思ったこと、もっとやってみよう（新たな学びの創造） ③ 本時の学び（1単位時間） ④ 単元の学び（単元全体） ⑤ 本時の課題とまとめ（学習集団や自己の課題） ⑥ 「誰と」「何を」したかという学習の過程（学習過程） ⑦ 自分の考えがどのように変わったか（認知の過程） ⑧ これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す（批判的検討） ⑨ 友達の書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす） 			

5 単元の指導と評価の計画（全7時間）				
時間	学習課題（◆）	主な学習活動（○）（対話の視点）	振り返りの視点	評価の観点【】 評価規準
1	◆新聞の一面記事を見比べて、新聞の特徴を知ろう。	○ 複数の新聞を見比べて、気付いたことを交流する。 （多面的・多角的に見る） ○ 新聞記事構成の基本、新聞とは多くの人に情報を届ける媒体であることを知る。 ○ クラスの様子や成長や思い出を、全校生徒に紹介する新聞をタブレット端末で作成することを伝える。	① ④	【知・技】 ・新聞記事構成の基本、新聞とは多くの人に情報を届ける媒体であることを理解している。（振り返りシート） 【態度】 ・複数の新聞記事を見比べて、新聞の特徴を考えながら、学習の見通しをもつようとしている。（タブレット端末）
2	◆新聞で紹介する内容を考えよう。	○ 2年生になって体験した、宿泊学習、音中祭、部活動、職場体験、日常の学習の様子などを写真で振り返る。 ○ Jamboard を活用し、紹介したい内容を出し合う。 ○ 全校生徒に向けて、クラスの様子やよさを伝える新聞を作成するために、5～6冊の内容に絞る。 （分類する）（関連付ける） ○ 割り付けと記事の担当の分担を決める。	⑧ ⑨	【思・判・表】 ・クラスの様子やよさが伝わる記事にするために、ふさわしい話題を考えている。（発言、Jamboard） 【態度】 ・新聞で紹介する内容を考えようとしている。（振り返りシート）
3	◆新聞で紹介する記事を書こう。	○ 5W1Hを基本として、事実と意見を書き分けることを確認する。 ○ タブレット端末に担当記事を書き下す。 ○ 下書きをグループで交流し、感想や助言を伝え合う。 （広げてみる）	⑧ ⑨	【知・技】 ・5W1Hを意識し、文章の構成や展開を考えて記事を書いている。（ワークシート） 【態度】 ・分かりやすく伝わる文章になるように、文章の構成や展開を考えようとしている。（振り返りシート）
4	◆グループで記事进行交流し、推敲しよう。	○ 記事をグループで交流する。 ○ より分かりやすく伝えるために、構成や展開の仕方でも工夫できることはないか考える。 ① インタビューの内容を取り入れる。 ② アンケートを取る。 ③ 写真・イラスト、図、グラフの活用など、1時間目に活用した新聞を見返して検討する。 （広げてみる）	① ③ ⑩	【思・判・表】 ・より分かりやすい文章になるように、文章の構成や展開を工夫している。（発言、ワークシート） 【態度】 ・より分かりやすく伝えるために、構成や展開の仕方でも工夫できることはないか考えようとしている。（振り返りシート）
5 6	◆改善点を基に記事を推敲し、見出しを考えよう。	○ 前時の学習で考えた、改善点を取り入れて記事を推敲する。 ○ 読者を引き付ける見出し、記事の内容を要約する簡潔な見出しを考える。	⑤	【思・判・表】 ・より分かりやすい記事になるように、文章の構成や展開を工夫して推敲し、工夫して見出しを付けている。（発言、ワークシート）
7	◆完成した新聞のよいところを交流し合おう。	○ ほかのグループの新聞が、分かりやすい構成・展開になっているか、見出しの工夫、写真等の活用について検討する。（評価する） ○ 交流後、自分たちの作品に生かしたいところはどんなところかグループで話し合う。 ○ 単元全体について振り返る。	⑤ ⑩ ⑪	【思・判・表】 ・記事の内容が分かりやすく伝わるように、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫し、見せ方を工夫して仕上げている。（振り返りシート）

教科名	中学校 社会科 地理的分野	学 年	第2学年
単元名	第3章 日本の諸地域 3節 近畿地方—都市・農村の変化と人々の暮らし—	生徒数	40名
		授業者	梅原 翔太
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。 人口と都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解する。 近畿地方において人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、ほかの事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方において、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
<ul style="list-style-type: none"> ① 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 単元の最後に「自分たちの住む町に起こり得ることを予想し対策を考える」という探究テーマを設定し、タブレット端末、教科書などの探究手段子どもが選択できるようにする。 子どもが問題解決に向けて見通しをもって取り組むことができるようにする。 ② 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 2〜3人を1グループに設定しそれぞれが役割をもって探究していくとともに、多面的・多角的に表現・交流できる場を設定する。 それぞれ別の考えをレポートにまとめ、ほかのグループが感じた意見を書き込める欄を設定し、意見を広く聞くことのできる場を設定する。 ③ 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 同じグループや別グループの子どもとの意見などを交流する場面を通して、自分の考えを再形成するとともに、他者からの視点を含めた見やすく理解しやすい表現の仕方に推敲する時間を設定する。 ④ 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿 見やすさ、理解のしやすさなどの観点から図やグラフ、写真なども取り入れながら意見交流する場を設定する。 レポート発表後に、今回の反省点を見付ける活動を通して事後の学習につなげていく。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚） ② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し） ⑤ 単元の学び（単元全体） ⑩ これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する（自己の成長の自覚） ⑯ 友達の良い振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす） 			

教科名	中学校 理科	学 年	第3学年
単元名	第1分野⑤「運動とエネルギー」 運動の規則性	生徒数	40名
		授業者	山内 優希
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 運動の規則性を日常生活や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動を理解するとともに、その観察、実験などに関する技能を身に付けること。 運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。 運動の規則性に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 運動の規則性を日常生活や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現していきるとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の規則性に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
<ul style="list-style-type: none"> ① 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 文章や図を用いて自分の考えを表現し、自分の考えやその根拠について正確に他者に伝えるための工夫ができるようにする。 ② 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 自分の考えをまとめる時間を確保し、それを基に他者と交流する時間を確保する。 実験の班の人数を4人に固定し、それぞれが自分の考えを発信できる時間を確保する。 班の全員で話し合いながら実験を計画する活動を通して、多様な方法の中から適切に課題を解決できるようにする。 ③ 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 他者との交流から得た情報を自分なりに解釈し、改めて自分なりの予想を立てられるようにする。 実験結果から分かったことをスプレッドシートに記入し一瞥で見られるようにし、自分の結論を確かめるとともに、他者の解釈に触れることができるようにする。 ④ 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿 単元を通して、1枚のプリントに1単位時間ごとの振り返りを記入し、前回の振り返りや単元の最初に立てた目標と比べながら自分自身の姿を見られるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚） ② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し） ③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造） ④ 本時の学び（1単位時間） ⑥ 他の単元とのつながり（複数単元との関連付け） ⑩ 自分の考えがどのように変わったか（認知の過程） ⑯ 友達の良い振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす） 			

5 単元の指導と評価の計画 (全6時間)			
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(○)(対話の視点)	評価の観点	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆近畿地方の特色とは? ○ 近畿地方の特色について、地形図や人口分布図などの資料から概観し、ノートにまとめる。 ○ 「自分たちの住む町に起こり得ることを予想し対策を考える」という探究テーマを立て、単元の見通しをもつ。 	① ②	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・南北で大きく異なる地形や気候、盛んな工業や商業、中央部に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。(ノート) 【態度】 ・人口や都市・村落を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(ノート、発言)
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆近畿地方の都市の形成のされ方とは? ○ 近畿地方の大都市圏の成り立ちについて、地図や写真などの資料を通して理解する。 ○ 大阪臨海部の工業の特色を捉え、大都市における工業の課題について考察し、ノートにまとめる。 	① ②	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・大阪府から神戸市にかけての地域は、私鉄によってまちづくりが進んだことを理解し、その知識を身に付けている。(ノート)
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆近畿地方の都市の課題とは? ○ 近畿地方の都市の発展や、開発とその課題について地図や写真などを使って理解する。 ○ 近畿地方の古都などに見られる伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から考察し、ノートにまとめる。 	① ⑤	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・神戸市などで大規模な開発が行われてきたことと課題を、地図や写真を使って読み取っている。(ノート)
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆近畿地方の農村の課題とは? ○ 地図を通して過疎地域が都市から離れた山間部や離島に分布していることを理解する。 ○ 過疎地域の対策について、都市部との交流と関連付けて考察し、レポートにまとめる。 	① ②	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・過疎地域の対策について、都市部との交流と関連付けて考察し、表現している。(レポート)
5・6	<ul style="list-style-type: none"> ◆探究課題「自分たちの住む町に起こり得ることを予想し対策を考える」 ○ 近畿地方で既習した事項を基に、自分たちの住む町に今後起こり得ることを分析・予想し、対策をレポートにまとめる。 	① ⑤ ⑩ ⑯	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・自分たちの住む町はどの市町村から影響を受けどのような未来が待っているのかを具体的に表現するとともに、有効な対策を見出し、分かりやすく表現している。(レポート) 【態度】 ・自分たちの住む町について、今後起こり得ることを分析・予想し、対策を主体的に追究しようとしている。(レポート)

5 単元の指導と評価の計画 (全7時間)			
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(○)(対話の視点)	評価の観点	評価の観点【】 評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆物体の運動を調べる方法は、どのようなものがあるのだろうか。 ○ 物体の運動の速さを調べたいときにはどうしたらよいが、自分ならどうするかを考える。 ○ 2つの異なる速さから、物体の運動の速さの変化を調べるにはどうしたらよいかを知る。 ○ 記録タイマー、記録テープの扱い方を知る。 	① ② ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・物体の速さについて理解している。(ワークシート) ・記録タイマーと記録テープを正しく使用し、物体の運動の様子を調べている。(観察)
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆物体に同じ大きさの力を加え続けると、物体はどのように運動するのだろうか。実験から考察する。 ○ 実験3の予想を立てる。 ○ 実験3を行い、同じ大きさの力が掛かり続けた物体の運動はどのようになるのかを確かめる。 	① ② ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・テープに記録された実験結果から、一定の力が働き続けたときの物体の運動について考察している。(実験レポート) 【態度】 ・一定の力が働き続けたときの物体の運動について、作成したグラフを読み取り、粘り強く表現しようとしている。(実験レポート)
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆物体に同じ大きさの力を加え続けると、物体はどのように運動するのだろうか。作成したグラフから読み取って説明する。 ○ 作成したグラフから、同じ大きさの力が掛かり続けた物体はだんだん加速することを確認する。 ○ 力が働いていないか、働いていてもつり合っている場合は静止するか等速直線運動をすることを調べる。 	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・物体に一定の力が働き続けたとき、力が働かないときの運動について、それぞれ理解している。(発表、ワークシート)
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆斜面では、物体はどのような運動をするのだろうか。実験の計画を立てる。 ○ 斜面を下る物体の運動について予想する。 ○ 4人1組の班で実験4の計画を立てる。(見通す) 	① ② ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・斜面上の物体の運動の様子について仮説を立て、目的に沿った計画を立てている。(ワークシート)
5	<ul style="list-style-type: none"> ◆斜面では、物体はどのような運動をするのだろうか。計画に沿って実験を行い、考察する。 ○ 自分たちの立てた計画に沿って実験4を行い、斜面を下る物体の運動について確かめる。 	① ② ③	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・斜面上の物体の運動のようすについて、仮説と実験結果を比較しながら考察している。(実験レポート) 【態度】 ・斜面上の物体の運動を調べる実験を、修正しながら計画に沿って粘り強く行おうとしている。(観察、実験レポート、振り返り)
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆斜面では、物体はどのような運動をするのだろうか。実験結果から説明する。 ○ 自分たちの班で行った実験から分かったことを簡単にスプレッドシートに記入し、全体で共有する。 ○ 斜面を下る物体の運動についてまとめる。 	① ② ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> 【思・判・表】 ・斜面上の物体の運動のようすについて、物体に働く力と関連付けて説明している。(ワークシート)
7	<ul style="list-style-type: none"> ◆物体間ではどのような力がはたらいているのだろうか。 ○ 作用・反作用の法則について、力を体感しながら確認する。 	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	<ul style="list-style-type: none"> 【知・技】 ・作用・反作用の法則について理解している。(ワークシート)

IV 授業実践（中学校）

教科名	中学校 社会科 地理的分野	学 年	第2学年
単元名	第3章 日本の諸地域 3節 近畿地方—都市・農村の変化と人々の暮らし—	生徒数	40名
		授業者	遠藤 雄平
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。 人口と都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連するほかの事象や、そこで生ずる課題を理解する。 人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、ほかの事象やそこで生ずる課題と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現する。 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。	近畿地方において、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付きについて、地図帳の資料から根拠を明らかにして説明できるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 地域の広がりや結び付き、人々の対応などに着目して、自分の意見と根拠をペア・グループで発表し、交流する場を設定する。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に他者との意見交流をした後、再度自分の考えを練り直し、短文でまとめる作業を通して考察を深めることができるようにする。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な町づくりと、その特色を多角的に考察した視点を、次に学ぶ中部地方との共通点や違い（地域の特色ある産業）に注目して見直しをもつ場を設定する。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見直し） 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造） 本時の学び（1単位時間） 単元の学び（単元全体） 友達と書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす） 			

5 単元の指導と評価の計画（全5時間）					
時間	学習課題（◆）	主な学習活動（○）（対話の視点）	新教材の視点	評価の観点【】	評価規準
1	◆近畿地方ではなぜ都市や農村の姿が変化してきたのか。	○ 近畿地方の府や県について、イメージ・知っていること・食べもの・建物・ご当地キャラなどの情報を共有する。	② ③ ④	【思・判・表】	近畿地方の都市や農村の変化について、既有的知識と関連付けて考察し、整理しながら表現している。（ワークシート、発表）
2	◆近畿地方を大きく眺めると、どのような特色が見られるのか。	○ 資料を見ながら、北部・中央低地・南部の地域の自然環境の特色を捉える。	② ③ ④	【知・技】	南北で大きく異なる地形や気候、盛んな工業や商業、中央部に集中する人口などの特色を理解している。（ワークシート、発表）
3	◆近畿地方では都市はどのように形成され、どのような課題があるのか。	○ 大府大郡圏の人口が増えたことでどのような変化が起こったか話し合い、発表する。（広げてみる）	② ③ ④	【思・判・表】	大都市の工業の特色を、国内外の製品との競争や高い技術力などと関連付けて考察し、表現している。（ワークシート、発表）
4	◆近畿地方の都市にはどのような課題があり、どのような解決の取組が行われているのか。	○ 大都市が発展する地理的な条件を考える。	② ③ ④	【知・技】	神戸市などで大規模な開発が行われてきたこととその課題を、地図や写真を使って読み取っている。（ワークシート、発表）
5	◆近畿地方の農村にはどのような課題があり、どのような解決の取組が行われているのか。	○ 都市部の景観に関する条例やその課題を考える。	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	【思・判・表】	近畿地方の農村の過疎化の理由を多面的・多角的に考察し、ポスターとキャッチコピーで表現している。（ポスター）

教科名	中学校 理科	学 年	第1学年
単元名	第2分野1)「大地の成り立ちと変化」 身近な地形や地層、岩石の観察	生徒数	18名
		授業者	竹中 悠
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事象・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 大地の成り立ちと変化について、問題を見だし見直しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見だして表現すること。 大地の成り立ちと変化に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事象・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	大地の成り立ちと変化について、問題を見だし見直しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見だして表現している。	大地の成り立ちと変化に関する事象・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返りなど、科学的に探究しようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 発問の仕方を工夫し、何について問うているのか明確化する。 例「○について概要を述べなさい」「比べなさい」「計画しなさい」「提示しなさい」「論じなさい」「要約しなさい」 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 対話的な活動において自由に発言できる環境をつくるために発達支持的な生徒指導を大切にす。 対話を行う際「他者の学習を邪魔しない」「対話の活動中は自由に立ち歩き可」というルールを設定する。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を自分の使いたいツール（ロイロノート、Goodnote、Notability、ノート、ルーズリーフなど）にまとめ、ロイロノートで共有化する。 			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間ごとにまとめたノートに「初めて知ったこと、深まったこと、感心したことなど」を記入する時間を設定する。 テストの振り返りを中心に自分に合った学習の方法について検討できるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> 分かったことやできるようにしたこと（学びの自覚） 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造） これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す（批判的検討） 友達と書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす） 			

5 単元の指導と評価の計画（全4時間）					
時間	学習課題（◆）	主な学習活動（○）（対話の視点）	新教材の視点	評価の観点【】	評価規準
1	◆8000万年前の大陸とくっついていた北海道はどうやって今の形になったのか。	○ 大地の変化とプレートの移動について自ら学び、交流する。	① ③	【知・技】	大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事象・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察を理解している。（ロイロノート）
2	◆北海道の背骨日高山脈から十勝の地形はどのようにして現在の形になったのか。	○ 隆起、しゅう曲、沈降によって概要をまとめ、提示・交流する。	① ③	【知・技】	大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事象・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察を理解している。（スマイルネクスト）
3	◆十勝の地下はどんな構造をしているのだろうか。	○ 十勝地方の地下の作りについて概要をまとめ、提示・交流する。	① ③	【思・判・表】	大地の成り立ちと変化に関する事象・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返りなど、科学的に探究しようとしている。（ロイロノート）
4	◆身近な地形や地層、岩石について、これまでの学習をまとめる。	○ 小テスト（30分）	⑫ ⑬	【知・技】	大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事象・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察を理解している。（小テスト）

教科名	中学校 国語科	学 年	第1学年
単元名	物語の始まり——「竹取物語」——	生徒数	39名
		授業者	山田 優里
1 単元の目標			
・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 【知識及び技能】(3)ア ・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】(C1)イ ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	・「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C1)イ)	・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
・音読を通して文語のきまりや本文の内容に親しませることで、根拠をもった考えを形成できるようにする。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
・ある課題について個人で考え意見をまとめ、友達と意見交流し、自分の考えを改めてまとめるという時間の確保を行い、自分の考えの変容を促せることができるようにする。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
・教科書の内容や調べたことについてグループで交流し、考えを相手に伝えるための情報の精査を行う中で、自分の考えを再形成できるようにする。			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
・単元の最後に振り返りを行い、学びの自覚につなげるとともに、ほかの古文を読むときにも役立てられることを考えることで、この単元での学びとほかの単元とのつながりを意識できるようにする。			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① 分かったことやできるようになったこと(学びの自覚)			
② 今後の学習で取り組みたいこと(学びの見直し)			
③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと(新たな学びの創造)			
④ 単元の学び(単元全体)			
⑤ 他の単元とのつながり(複数単元との関連付け)			
⑥ 友達と書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす(他者の振り返りを自分の学びに生かす)			

5 単元の指導と評価の計画(全6時間)			
時間	学習課題(◆) 主な学習活動(○)(対話の視点)	初回の視点	評価の観点【】 評価規準
1	◆「竹取物語」について知ろう。 ○ 「竹取物語」について知っていることを挙げる。 ○ 「竹取物語」の作品の成り立ちや概要を知る。 ○ 昔話「かぐや姫」を動画で確認する。 ○ 言語活動について提示し、単元の見直しをもつ。	① ②	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(観察、ワークシート) 【態度】 ・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしようとしている。(観察)
2	◆「竹取物語」の内容を捉えよう。 ○ 教科書 p121 を参考に、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを確認する。 ○ 教科書 p114～115 を音読する。 ○ 現代語訳を参考に、現代と違う意味で使われている言葉(あやし、うつくし)について確認する。 ○ 昔話と比較して気付いたことをメモする。 【比較する】	① ③	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(観察、ワークシート)
3	◆「竹取物語」の内容を捉えよう。 ○ 教科書 p115 を音読する。 ○ 意味が分からない言葉をタブレット端末で調べ、現代語訳を完成させる。 ○ 教科書 p116 「5人の求婚者と難題」についてグループで分担して調べ、分かった内容を共有する。 ○ 「なぜかぐや姫は求婚者に難題を提示したのか」という問いのもと、かぐや姫の思いや心情について考える。 ○ 昔話と比較して気付いたことをメモする。 【比較する】・【広げている】	① ③	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(観察、ワークシート) 【思・判・表】 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(ワークシート)
4	◆「竹取物語」の内容を捉えよう。 ○ 教科書 p118～119 を音読する。 ○ 意味が分からない言葉をタブレット端末で調べ、現代語訳を完成させる。 ○ 昔話にはないエピソードがあることに着目し、「なぜ帝はかぐや姫からの手紙と不死の薬を焼いたのか」という問いのもと、地上に残された人物の心情について考える。 ○ 昔話と比較して気付いたことをメモする。 【比較する】・【広げている】	① ③	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(観察) 【思・判・表】 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(ワークシート)
5	◆昔話と比較して、「竹取物語」のおもしろさを見付けよう。 ○ 昔話と「竹取物語」を比較して見つけた共通点と相違点を挙げる。 ○ 「竹取物語」のおもしろさについてグループで発表するための資料(パワーポイント)を作成する。 【評価する】・【要約する】	① ③	【思・判・表】 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(発表、資料) 【態度】 ・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしようとしている。(発表)
6	◆昔話と比較して見つけた「竹取物語」のおもしろさを伝えよう。 ○ 前時に作成したパワーポイントを用いて「竹取物語」のおもしろさについて発表する。 ○ 振り返りを行い、ここまで学んだこと、古文を読むときに生かしたいことをワークシートに記録する。	⑤ ⑥ ⑧	【思・判・表】 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(ワークシート) 【態度】 ・進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしようとしている。(ワークシート)

V 研究のまとめ

1 今年度の研究の成果と課題

(1) 考えを広げ深める対話の工夫について

- 対話の視点があることで、子どもが話し合いの目的や意図を理解することができ、自分自身の考えと他者との考えを比較したり結び付けたりしながら、考えを広げたり深めたりすることができた。
- 他者との対話の時間だけでなく、自己との対話の時間を確保することで、対話を通して得られた多面的な考えを自分の考えと比較しながら広げたり深めたりし、自分の考えを再形成しようとする姿につながっていた。
- 思考ツールやICT、ワークシート等を活用して対話の過程を可視化することで、自分の考えを表現したり、他者の考えを理解したりしやすくなり、多様な表現で伝えようとする姿につながった。
- 教師も対話の視点を意識することで、「この時間でどのような資質・能力を身に付けさせるか」というねらいを明確にした上で対話の場面を設定することができた。
- 思考スキルを細かく設定したことで対話のねらいが分かりやすくなった反面、対話を進めていく中で対話の視点が変わることもあり、思考スキルを1つに絞ることが難しい場合があった。思考スキル同士の関連性を踏まえた上で、1単位時間の対話の視点を柔軟に想定することが必要である。
- 他者との対話の時間と自己との対話の時間が、教師主導で設定されていた。子どもが必要感を持ち、更に主体的に対話に取り組むためには、対話の相手やタイミング、形態などを子ども自身が選択・決定できるようにすることが必要である。

(2) 学びを自覚する振り返りの充実について

- 振り返りの視点を示すことで、どのようなことを振り返るのが明確になり、何をどのように学び、何ができるようになったかなど、自分自身の学びの過程や変容を自覚することができた。
- 振り返りを共有することで、友達の記述内容を参考にして、お互いの振り返りのよさを意味付けたり価値付けたりしながら、学びを深める姿につながった。
- 振り返りに継続的に取り組むことで、記述内容の質と量が向上した。また、振り返りを蓄積することで、これまでの学びを生かしながら自らの学びを自己調整する姿が見られた。
- 振り返りの内容から、子どもたちの学習の理解度を把握することができ、教師の指導の改善や形成的評価に生かすことができた。
- 振り返りの視点を示しても、どのような内容を記述すればいいかイメージできない子どもがおり、「楽しかった」「よく分かった」など具体性を欠く記述も見られた。視点を示すだけでなく、記述例の提示や継続的な振り返りの共有を図りながら、振り返りの質を高める必要がある。
- 1単位時間ごとの学びについて振り返ることはできたが、次の学びに向けた振り返りという点においては課題が残った。教師が学習のねらいを明確にし、単元のゴールを子どもと教師が共有することで、学習を通して得た新たな気付きや課題を次の学びにつなげる振り返りにする必要がある。

VI 共同研究員紹介／参考・引用文献

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員

市町村	共同研究員名	所属(所属校)	備考	市町村	共同研究員名	所属(所属校)	備考
本別	引地 智也	本別町総合教育研究所 (勇足小)	推進 幹事	中札内	安食 正人	中札内村教育研究所 (中札内中)	推進 幹事
大樹	齊藤 織斗	大樹町教育研究所 (大樹小)	推進 副幹事	幕別	長澤 翔太	幕別町教育研究所 (幕別中)	推進 副幹事
芽室	松井 孝之	芽室町教育研究所 (芽室小)	授業者	広尾	土井 誠人	広尾町教育研究所 (広尾中)	授業者
土幌	湯藤 浩二	土幌町教育研究所 (土幌小)		音更	上野 純子	音更町教育研究所 (音更中)	
上土幌	中川 弥生	上土幌町教育研究所 (上土幌小)		鹿追	梅原 翔太	鹿追町立教育研究所 (鹿追中)	
新得	市原 秀樹	新得町教育研究所 (新得小)		清水	山内 優萌	清水町教育研究所 (清水中)	
更別	岩田 浩平	更別村教育研究所 (更別小)		池田	遠藤 雄平	池田町教育研究所 (池田中)	
浦幌	菅原 千晶	浦幌町教育研究所 (浦幌小)		豊頃	竹中 悠	豊頃町教育研究所 (豊頃中)	
浦幌	小池亜沙紀	浦幌町教育研究所 (上浦幌中央小)		足寄	山田 優里	足寄町生涯学習研究所 (足寄中)	
陸別	尾崎 唯	陸別町教育研究所 (陸別小)		十勝教育研究所担当 松村 理史／白澤 大輔／山本 由佳			
帯広	柴田 彩	帯広市教育研究所 (稲田小)					

参考・引用文献

- 小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 国語編(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月) 文部科学省
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語 国立教育政策研究所
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語 国立教育政策研究所
- 「対話的学び」をつくる 聴き合い学び合う授業 ぎょうせい
- 「思考ツール×ICT」で実現する探究的な学び 東洋館出版社
- すべての子どもを深い学びに導く『振り返り指導』 教育報道出版社
- まんがで知るデジタルの学び - ICT教育のベースにあるもの さくら社

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究

～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～

(2か年継続研究 2年次)



授業者

中札内村立中札内小学校

教諭 円城寺 昌



授業者

大樹町立大樹中学校

教諭 大久保拓弥

I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究組織
- 8 研究推進計画

II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

III 授業実践

- 1 小学校授業実践 1
- 2 小学校授業実践 2
- 3 小学校授業実践記録
- 4 中学校授業実践 1
- 5 中学校授業実践 2
- 6 中学校授業実践記録

IV 研究のまとめ

- 1 研究の内容に関わる本時の検証
- 2 アンケート結果からの検証
- 3 研究内容の検証
- 4 研究2年次の成果と課題
- 5 2か年の研究の成果と課題

V 研究協力校紹介／参考・引用文献

I 研究の概要

1 研究主題

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究（2／2年次）
～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～

2 主題設定の理由

今日の課題 学習指導要領の趣旨から

「主体的・対話的で深い学び」を視点に据えた学習指導要領の全面実施が、今年度で小学校は4年目、中学校は3年目を迎える。「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目標とされている。※（ ）内は中学校のみ。

また、令和3年1月の中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、今後の社会は「Society5.0時代」「予測困難な時代」であることを踏まえ、新学習指導要領の着実な実施とこれからの学校教育に必要な不可欠な基盤的ツールであるICTを最大限活用し、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」としている。

北海道・十勝の現状から

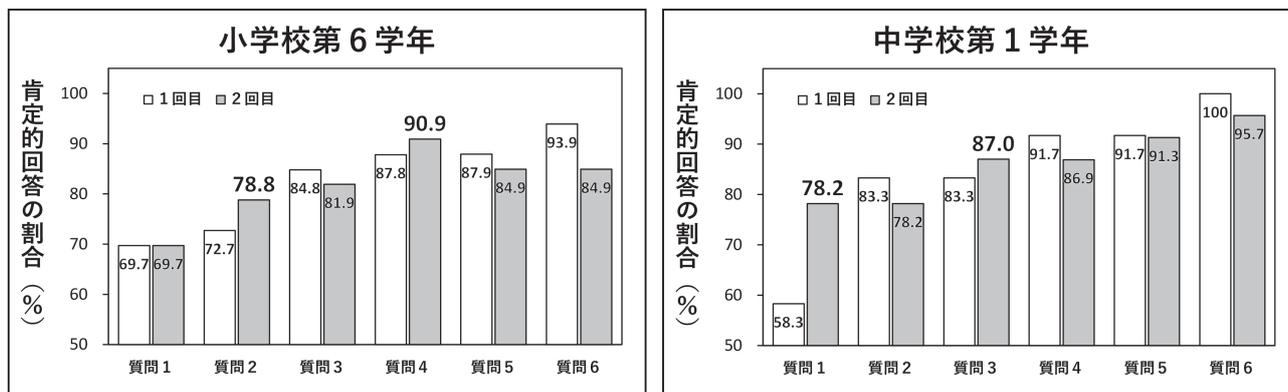
北海道の子どもたちの実態としては、令和4年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「自己肯定感・自己有用感」「粘り強さ・活動意欲」「自己理解・他者理解」が、全国平均より低い傾向にあることが明らかとなった。また、十勝の子どもたちにも同様の傾向が見られている。

質 問		校種	肯定的回答率 (北海道)	肯定的回答率 (全国)	全国比
(7)	自分には、よいところがあると思いますか	小	76.4	79.3	-2.9
		中	77.4	78.5	-1.1
(11)	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	小	71.2	72.5	-1.3
		中	64.8	67.1	-2.3
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小	72.1	73.5	-1.4
		中	74.0	76.9	-2.9

※ 質問番号(7)(11)(17)の肯定的回答率については、「1. 当てはまる」「2. どちらかといえば、当てはまる」に回答した率を表す。

1年次の研究について

1年次は、道徳科におけるICTを活用した「考え、議論する」授業を通して研究を行った。研究の仮説を、「ICTを活用した『考え、議論する』道徳の授業を通して、多面的・多角的に捉えたり、自分自身との関わりの中で深めたりすることで、自他を認め合う心が育まれるだろう」とし、研究を推進してきた。また、研究の成果を様々な視点から検証できるように、小学校、中学校ともに、授業実践実施前に1回目、授業実践終了後に2回目のアンケートを実施した。詳細は、No.217の研究紀要を参照していただきたいが、アンケートの結果からは自己肯定感・自己有用感の高まりや、他者への思いやりなど、一定の成果を得ることができたと考える。



○ アンケート項目（小学校・中学校共通）

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| 1 私は自分のよいところを知っています。 | 【自己肯定感・自尊感情】 |
| 2 私は友達や学級の役に立つことができます。 | 【自己有用感①】 |
| 3 私は学級で大切にされていると思います。 | 【自己有用感②】 |
| 4 私は困っていたり悩んでいたたりしている人を助けることができます。 | 【他者への思いやり】 |
| 5 私は相手の考えや立場を考えて尊重することができます。 | 【他者の尊重】 |
| 6 私は他の人のよいところを自分に取り入れることができます。 | 【他者の受容】 |

【令和4年度協力員研究アンケート結果より】

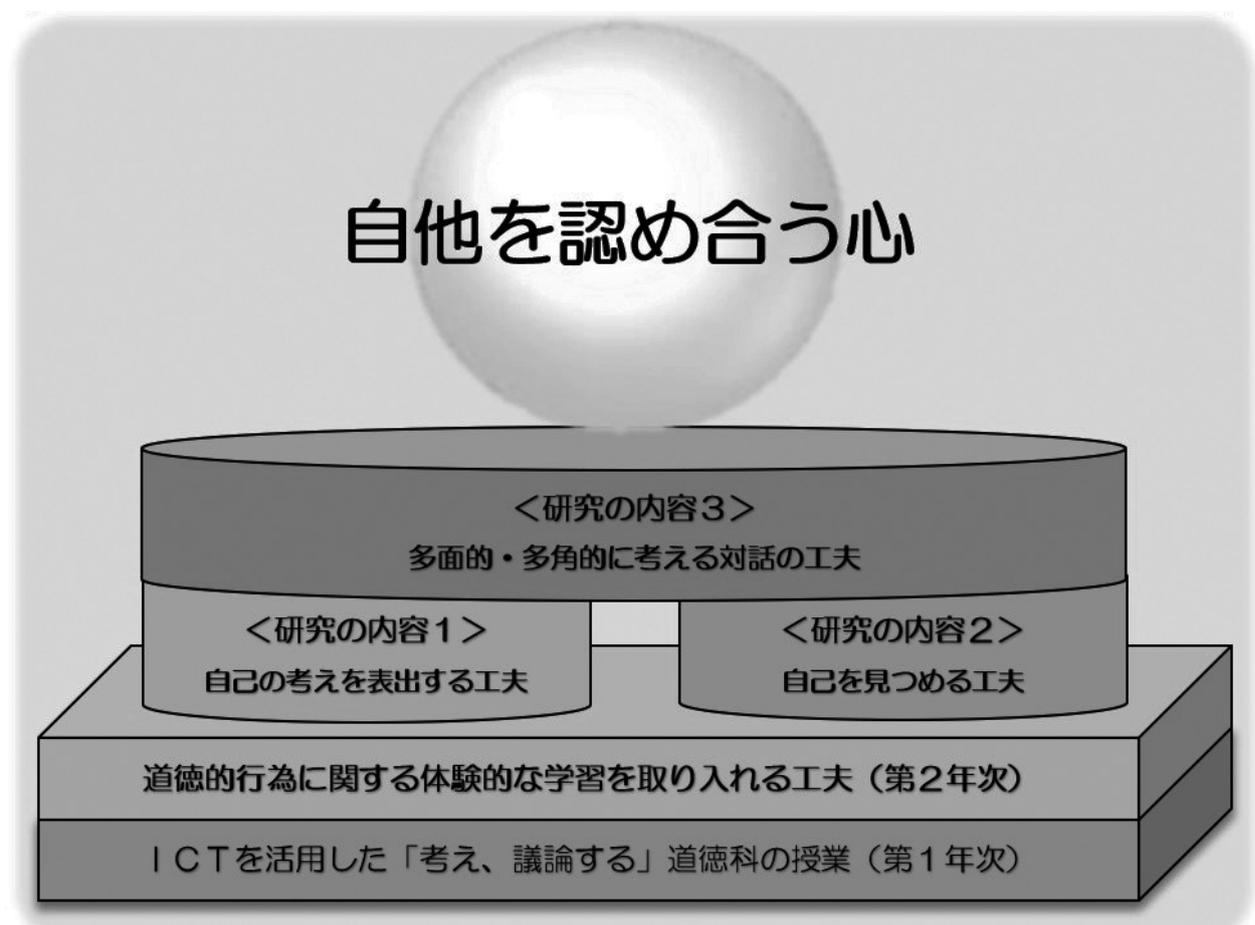
2年次の研究の方向性

2年次の研究は、1年次の研究の成果を生かしつつ、研究主題である「自他を認め合う心の育成」について更に研究を深めていくこととする。1年次ではICTを活用した「考え、議論する道徳」の研究を進めた。ICTを活用することによって、友達の考えを瞬時に共有でき、お互いの考えの共通点や差異点を基に子どもたちが、より「考え、議論する」ことができるよさがあったことから、継続して取り組んでいくこととする。一方、道徳科の授業では、道徳的価値を知識としては「知っている」が、実際は「分かっていない」ということが多く見られるであろう。したがって、授業における子どもたちの立ち位置を、知識者としてではなく、関与者にすることが大切だと考えられる。学習指導要領では、道徳科の特質を生かし、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れることが重要とされている。道徳的行為に関する体験的な学習を実際に授業で活用する場合は、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れることや、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要である。単に活動を行って終わるのではなく、子どもたちが体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることを通して、道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で自他を認め合う心を育みたい。

以上のことから、2年次の本研究の方向性は、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して、子どもたちに「自他を認め合う心」を育むことを目指し、実践的な研究を進めたいと考える。

3 研究の仮説と内容、構造図

<p>研究主題</p> <p>子どもたちに自他を認め合う心を育む研究 ～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～</p>
<p>研究の仮説</p> <p>道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して、自他を認め合う心が育まれるだろう。</p>
<p>研究の内容</p> <p>道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫</p> <p>1 自己の考えを表出する工夫 2 自己を見つめる工夫 3 多面的・多角的に考える対話の工夫</p>



4 研究計画

(1) 第1年次 (令和4年度)	(2) 第2年次 (令和5年度)
<ul style="list-style-type: none"> ① 理論研究 ② 子どもの実態把握 ③ 多面的・多角的に考える学習の工夫 ④ 自分自身との関わりで深める学習の工夫 ⑤ 協力員による授業実践 ⑥ 1年次の検証のまとめ ⑦ 2年次に向けた仮説、研究内容、研究計画、検証計画の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ① 理論研究 ② 子どもの実態把握 ③ 自他を認め合う心を育むための研究内容の検討について ④ 協力員による授業実践 ⑤ 2年次の検証のまとめ ⑥ 2年間の研究の成果

5 検証計画

(1) 検証内容

- ① 自己の考えを表出する工夫や、自己を見つめる工夫により、自己を肯定的に受け入れる心を育むことができていたか。
- ② 多面的・多角的に考える対話の工夫により、他者を思いやり尊重することのできる心を育むことができていたか。
- ③ 自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり尊重できる心が育まれていたか。

(2) 検証方法

- ① ノートや端末などへの記述の見取り
- ② 授業前後の子ども・授業者へのアンケート調査の分析（全体・抽出）
- ③ 授業に参加する姿や、事後の学校生活全般からの見取り

6 研究の推進

(1) 研究方法

担当所員と研究協力校との共同研究とし、研究協力員の実践を通して検証する。

7 研究の組織

(1) 担当所員

柴田 悠二 ・ 靱山 修斗

(2) 研究協力校

中札内村立中札内小学校 円城寺 昌 教諭
大樹町立大樹中学校 大久保拓弥 教諭

8 研究の組織（令和5年度 2 / 2年次）

月	研究の推進内容	諸会議
4	・研究主題、研究計画等の作成	十勝教育研究所業務計画会議 十勝教育研究所運営委員会
5	・研究の視点、方向性の確認	
6	・研究協力員の委嘱及び研究の概要説明 ・理論研究 ・子どもたちの実態把握	第1回協力員会議（6/6） 十勝教育研究所調査委員会 第2回協力員会議（6/22）【Zoom】
7	・研究実践計画と検証実践計画の策定 ・授業実践における検証方法の検討 ・授業実践1の内容検討・実践（7/13）	十勝教育研究所モニター会議 第3回協力員会議（7/6）【Zoom】 第4回協力員会議（7/13）
8	・授業実践2の内容検討 ・授業実践2の実施（8/29）	第5回協力員会議（8/22）【Zoom】 第6回協力員会議（8/29）
9	・子どもたちの変容の分析、授業実践の分析	第7回協力員会議（9/5）【Zoom】
10	・協力校での継続的な実践 ・授業実践3の内容検討・実践（9/28） ・授業実践4の内容検討・実践（10/19）	第8回協力員会議（9/14）【Zoom】 第9回協力員会議（9/28） 第10回協力員会議（10/12）【Zoom】 第11回協力員会議（10/19）
11	・協力員研究中間報告（広報誌）	
12	・2年次の検証 ・研究紀要の作成 ・研究発表大会用パワーポイント作成	
1	・研究発表大会打合せ、リハーサル ・研究のまとめ	
2	・研究発表大会（2/8）	十勝教育研究所研究発表大会
3	・研究紀要の刊行	

II 研究の視点と内容

1 研究の視点

(1) 本研究における「自他を認め合う心」

「自他を認め合う心」を、自分を認める心と他者を認める心に分けて考えていきたい。

国立教育政策研究所の生徒指導リーフによると、自分を認める心とは一般的には「自己肯定感」や「自尊感情」と呼ばれている。また、日本では子どもたちの「規範意識」の重要性も強調されている。それらを併せて考えるならば、まずは「自己有用感」の育成に焦点を当てた学びを進めることが適当ではないかと考えた。「自尊感情」は、自分に対する肯定的な評価という意味合いが強く、他者や社会とはかけ離れた自己評価となるおそれもある。さらに、「自己有用感」は、人の役に立った・人から感謝された・人から認められたという、自分と他者との関係を自他ともに肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価である。このことから、「自己有用感」の獲得が「自尊感情」の獲得につながるであろうことは、容易に想像できるであろう。しかし、「自尊感情」が高いことは、必ずしも「自己有用感」の高さを意味しないとも言われていることに注意が必要である。

また、他者を認める心とは、他者の考えや立場を思いやり尊重することのできる心と考えたい。小学校学習指導要領総則第6の2において、「各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること」とある。一方、中学校学習指導要領総則第6の2においては思いやりという言葉こそないが、「小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること（略）に留意すること」との記載があり、小学校で育てた他者を思いやる心を他者や集団・社会との関わりの中で自制し生きていくことができるように育てていくことが書かれている。さらに、小学校学習指導要領総則解説編では「思いやる心は、児童が自立した一人の人間として人生を他者と共に、よりよく生きる人格形成を図る道徳教育の充実を目指す上で不可欠なものである。相手の気持ちや立場を推し量り自分の思いを相手に向けることは、よりよい人間関係を築くために重要である」との記載があり、道徳教育での思いやる心を育むことの重要性が感じられる。

加えて、これらの自分を認める心と他者を認める心は、偏りがないように育てていくことが重要だと考える。自分ばかり優先となれば他者には単なる自分勝手やわがままと受け止められ、他者ばかり優先となれば自分自身に自己犠牲や自己抑制を強いることとなり、自他を認め合うことにはならないだろう。よって、これら2つの心をバランスよく育てていくことが大切であると考えます。

そこで、本研究では、「自他を認め合う心」を次のように定義した。

本研究における「自他を認め合う心」

自己を肯定的に受け入れ、他者の考えや立場を思いやり尊重できる心

(2) 「特別の教科 道徳」における見方・考え方

道徳科における見方・考え方は、下記のとおりとなっている。

特別の教科 道徳の見方・考え方

様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること ※（ ）内は中学校のみ

この見方・考え方は、道徳科の目標に示された学習活動とほぼ同じ内容である。この学習活動全体が「深い学び」の鍵となる。道徳科における見方・考え方を働かせるとは、答えが1つではない道徳的な課題を幅広く、自分自身の問題と捉え、向き合うための道徳性を養うということだと考える。

(3) 道徳的行為に関する体験的な学習

学習指導要領では道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には、多様な方法を活用して授業を構想することが大切であるとされている。そのため、各教科等と同様に問題解決的な学習や体験的な学習等を有効に活用することが重要である。特に、道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的・多角的に考えたりするためには、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為を通して、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用したときには、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。このような活動を通して、道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で「自他を認め合う心」が育まれると考えた。

2 研究の内容

本研究では、子どもに「自他を認め合う心」を育むための具体的な内容として、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫に着目し、自己の考えを表出する工夫（研究の内容1）と、自己を見つめる工夫（研究の内容2）、多面的・多角的に考える対話の工夫（研究の内容3）の3つを行うこととした。

(1) 自己の考えを表出する工夫

登場人物への「自我関与を深める」ことをねらいとして、教材の場面を再現化する活動であり、教材の設定に沿って、「音」や登場人物の「せりふ」「表情」「行動」などを、ペアや学級全体など、様々な形態で再現するものである。「役割演技」や「動作化」等の手法を用いて、せりふや場面状況を再現する活動を短時間でその場に取り入れることで、授業者である教師が実践しやすくなるだけでなく、子どもにとっても教材内容の理解が容易になり、「自分事」として考えやすい環境が整うことで、「自他を認め合う心」を育むことにつながると考えた。特に言語活動を苦手とする子どもにとっても考えやすい学習環境が整い、どの子どもにも活躍の場を保障することができるであろう。

「自分なら、こんなことはしない」「主人公はなぜこんなことをするのか？」など、範読直後に感じた自己の考えに大きな影響を与えることとなる。この、自他の考えの差異を認め合い、受け止め合い、広い視野で想像を膨らませ、多様に考えるきっかけとするのが、道徳的価値の理解に基づく自己の考えを表出する工夫である。

また、自己の考えが深まらない要因に、教材の内容に対する子どもの理解不足がある。教材文の中に、難解な語句や抽象的な言葉がたくさん出てくると、教材の描く情景、主人公の思いや考えなどをつかみきれない子どもも出てくるのが予想される。その場合、途中で集中力が途切れてしまう子どもも出てくるだろう。そこで、その際の読み違い等を防ぎ、教材の理解の差をなくすために、場面を再現化する工夫を用いて、教材が描く場面の再現化を行うことが重要であると考えた。この再現化により、実際に登場人物の行動を演じることで、物語の登場人物への自我関与が深まり、一読しただけと比べて登場人物の心情や生きざまを理解することが容易になると思われる。さらに、この活動を取

り入れることによって、子どもたちが教材をどの程度把握しているか、考えるべき「道徳的価値」をどのように理解しているかを、授業者である教師が確認することもできるだろう。

(2) 自己を見つめる工夫

教材の主人公は、道徳的問題の解決を図るために、葛藤したり、逆に迷わずに思いを貫こうとしたりすることが多く見られる。特定の場面での主人公に、自己を重ねる再現化を行うことで、主題に迫るためのきっかけとするのが、道徳的価値に向き合い、自己を見つめる工夫である。

主人公の動きからは様々な想像を膨らませることができる。教材における特定の場面を、子どもが自由に体を使って表現し、この思考過程で「自分なら、どう思うのか？」という思いが浮かぶようになり、時には、自己の在り方まで見つめることができるようになるのではないだろうか。言葉だけで他者との意見交流を行うよりも、この工夫によって主題に迫ることができ、また言語活動が苦手な子どもでも自由に自分の考えを表現することができるようになり、より正対して「道徳的価値」に向き合うことが可能になると考えた。

道徳的行為に関する体験的な学習の授業形態の例		メリット	デメリット
教師代替	教材上の表現からは考えにくい場面や、子どもが恥ずかしくて演じがらない場面などで、教師が子どもに替わって再現化することで、子どもの考えのきっかけとして行う。	・教材が長文であったり内容が複雑であったりしても、子どもの混乱を緩和することが可能。	・道徳的価値の押し付けになってしまう可能性がある。
全員参加	教材上に描かれている場面を、学級の「全員」で再現し、一体感をもって考える場合に活用する。	・教材上に自分たちがいるかのような臨場感を実感できる。	・活用できる教材が少ない。
グループ(ペア)	教材上に描かれている場面を2～3名の少人数で再現する。それぞれの配役を交代しながら再現し、それぞれの立場によって考え方が違うことを、より深く実感するために行う。	・登場人物の考えの違いを実感しやすいこと。配役を交代しながら何度も再現が可能。	・グループで意見が合わないときに対応が必要になる。 ・多人数だと読み取りに差が出る。
1人	教材上に描かれている場面を自分自身でその場で再現する。	・自分のペースで考えることができる。	・思考が止まってしまう子どもへの対応が必要になる。
代表	教材上に描かれている場面を代表の子どもが再現する。	・他者の力を活用して、自分の思考のきっかけにできる。	・一部の子どもの意向に全体の考えが流れてしまうことがある。

道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫の例	
役割演技	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに特定の役割を与えて即興的に演技する。 ・読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える。
動作化	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや言葉を模倣して理解を深める。
自分の考えを表現する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・音、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する。

このように、自己の考えを表出する工夫や自己を見つめる工夫をすることで、道徳的価値の理解を自分事として捉え、より深めることが期待できる。そして、自分の考えのよさを友達に知ってもらふことなどにより、「自他を認め合う心」を育むことにつながっていくと考える。

(3) 多面的・多角的に考える対話の工夫

子どもが「多面的・多角的に考える」ために、ICTやホワイトボード等を活用しながら対話をす活動であり、より積極的に自己の思いや考えを表現し、相互交流を図ることができる。これにより、子どもが多面的・多角的に考えることを支援することができると考えた。

ICTや1人1枚のホワイトボード等を活用することで、教室にいる全ての子どもが全員の考えを同時に確認（見える化）することができ、相互交流の可能性を広げることができるのではないだろうか。また、書かれた全員の考えを読み、共感できる考えや、もう少し聞いてみたい考えを交流することを通して、他者の考えをしっかりと見つめることが可能である。

道徳科の対話では、子ども一人一人の考えや思いを大切にしながら、交流し、学び合うことが大切である。ややもすると、グループの意見をまとめる学習活動では、リーダーや発言力のある子ども主導の話合いになってしまい、少数派の意見は取り上げられず、思いや考えを自由に表現できる機会が失われる可能性が考えられる。そのため、ICTやホワイトボードに集約された考えを基に、対話を進めることによって、他者の意見を知ることができる。さらに、自己の考えを多面的・多角的に再考することが可能であり、自己を見つめることにもつながると考えた。他者の考えが自分の思考にどのような影響をもたらしたのかを明確にする学習は、他者の考えのよさを見付け、認め合い、それを基に自己の考えを改めて見つめ直し、思考を深めることになるのではないだろうか。

グループ活動での留意点

- ・ 1つの言葉で表現できるような「正解」探しをしない。
- ・ 話し合っ、折り合いを付け、「合意形成」を図ることはしない。
- ・ グループでの学習を通して、何らかの「結論」を出すことは避ける。

このように多面的・多角的に考える対話の工夫をすることで、他者の考え方に触れ、一面的な見方からより多面的・多角的な見方へと考えを広げていくことが期待できる。そして、自分とは異なる意見をもつ友達と議論することなどで他者の考えを受け入れて認め、それが「自他を認め合う心」を育むことにつながっていくと考える。

Ⅲ 授業実践

1 小学校授業実践1

中札内村立中札内小学校 第6学年
授業者 円城寺 昌

「自由と責任」

- (1) 主題名 自由と責任
- (2) 教材名 修学旅行の夜（「新しい道徳 6」東京書籍）
- (3) ねらい 自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、責任ある行動について自律的に判断する力を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

- ① 学習指導要領との関連 内容項目 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。

【平成 29 年 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

- ② 主題設定の理由

この段階においては、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まる時期である。一方で、自由の捉え違いをして相手や周りのことを考えず自分勝手な振る舞いをしてしまうことも見られる。また、自律的で責任のある行動をすることの意味やよさが分かりにくい子どももいる。

そこで、自由と自分勝手との違いを考えることで、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにしたい。それゆえ、自分の意志で判断し行動しなければならない場面である修学旅行を題材にすることで、自己を見つめ、自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を深めるとともに、実践意欲を高めたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自由」という言葉のイメージについてのアンケート結果を見てみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 何をしてもよい。 ・ 自分で決められる。 ○ 修学旅行が「自由」だとしたらどうですか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ うれしい。 ・ 何でもあり。 ・ 遊べる。 ・ 自由過ぎて困る。 ・ 何をするかわからない。 ○ 本時の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事前アンケートから、自由という言葉の印象について提示し、全体での共有を図る。 □ 日常生活と関連付け、自分の生活とつなげることで自分事として考えられるようにする。
課題 「自由」とはどういうことか考えよう。		

<p>展開</p>	<p>○ 教材文を読み、あらすじを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで静かにするということを約束した。 ・主人公は班長として、注意するなどしていたが、次第に静かにすることができず、2度も注意された。 <p>○ 周りの状況と主人公との関係を、班で再現する。</p> <p>→始めの頃の声はどれくらい？ 主：注意した</p> <p>→再びうるさくなってきた頃は？ 主：一緒に</p> <p>→枕を投げているときは？ 主：一緒に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自由と自分勝手の違いを考えなさい」と先生から指導された。 	<p>□ 主人公の置かれた状況を再現化することで、状況をより把握することができる。</p> <p>【① 自己の考えを表出する工夫】</p> <p>□ 途中で状況の確認をしながら再現を行う。</p> <p>□ 双方の立場から考える発問によって、理解を深める。</p>
<p>何が問題だったのでしょうか。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・声が大きくなって隣の部屋に迷惑を掛けたこと。 ・班長、副班長の役目をしていない。 ・ちょっとならよいという自分勝手な考えだったこと。 ・音が音を呼んでいる。 		<p>□ 自分と友達の考えを交流し、多様な考えを聞く。</p> <p>【③ 多面的・多角的に考える対話の工夫】</p>
<p>もし自分が班長だったら？</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・できる：静かに寝たい。よくないから。 ・できない：雰囲気的に無理。楽しいから。 		<p>□ 自分の考えを書いてから交流し合うことで、考えの共通点や相違点を意識しながら議論することができるようにする。</p>
<p>「自由」と「自分勝手」の違いは？</p>		
<p>○ 個人思考（違いに着目しながら考え、ワークシートに書く）。</p> <p>○ グループで交流し、話題になった事柄を、Googleフォームに入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由はルールの中で行う。自分勝手はやりたい放題。 ・自分の責任で解決できるのが自由。解決できないのが自分勝手。 ・自分勝手は周りのことを考えずに行動すること。 		<p>□ 多面的・多角的に考えることができるように、必要に応じて問い返し発問をする。</p>

終末	<p style="text-align: center;">「自由」で考えることはなんですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由とは相手の自由も尊重する。 ・相手や周りを考えた自由が必要。 ・自由は実は不自由かもしれない。 ・どこまでが自由なのか、わからない。 <p>○ 偉人の言葉を紹介する。 「自由とわがままとの境は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にあり。(学問のすゝめより)」</p> <p>○ 振り返りと自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなように行動するのが「自由」だと思っていましたが、それは「自分勝手」だったことに気が付きました。友達や先生のことなども考えて行動したいと思いました。 ・「自由」ってもっと簡単なものだと思っていただけで、そうではないことが分かりました。これから、自由に行動することが増えてくるので、正しい判断ができるようによく考えて行動したいです。 	<p>□ 最初の質問に戻り、変容や深化を確認できるようにする。</p> <p>□ 偉人の言葉を紹介し、自分たちの考えや感じ方と擦り合わせる。</p> <p>☆ 「自由と責任」について、多面的・多角的に考えようとしていたか。 【ワークシート】</p>
----	--	--

(6) 板書計画

修学旅行の夜

修学旅行で自由についてよく言われたらいいですか？

「自由」とはどんなことか考えよう！

- ・うれしい
- ・思い通り
- ・解放感
- ・何していいかわからない
- ・自由すぎて困る
- ・怖い、迷う

教科書挿絵

・もともとの約束を守れていない
皆で気を付けてしまったのに、周りの人に迷惑を掛けてしまった

教科書挿絵

・ほとんどん声が大きくなってしまった方
少しならよいという自分勝手な考え方
隣の部屋に迷惑を掛けている

教科書挿絵

・班長・副班長の役目を果たしていない
周りのメンバーも流されている

「自由」で考えるには、

- ・自由には相手の自由も尊重する
- ・自由はルールがあることがよい
- ・何でもいいわけではない
- ・相手や周りを考えた自由が必要

「自由とわがままとの境は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にあり。」

授業実践

2 小学校授業実践 2

中札内村立中札内小学校 第6学年
授業者 円城寺 昌

「友情、信頼」

- (1) 主題名 友達と理解し合う
- (2) 教材名 ばかじゃん！（「新しい道徳 6」東京書籍）
- (3) ねらい 互いに信頼し、学び合って、真の友情を築いていこうとする態度を育てる。
- (4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目B-(10) 友情、信頼

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

【平成 29 年 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

② 主題設定の理由

この時期においては、友達と親密な関係を築き、助け合ったり支え合ったりできるようになり、信頼関係が強まる時期である。一方で、親密な関係とは何かを悩むことや、一度壊れたり壊れかけたりした場合の修復方法や再構築方法に悩み崩れてしまうことも見られる。また、友情の大切さや信頼ある行動の意味やよさに気付かない子どももいる。

そこで、友情や信頼について考えることで、友達の立場や状況を理解し、自ら改善しようとすることや友達との関係を大切にすることを養いたい。

それゆえ、友達との関係に悩む場面である、「ばかじゃん！」を題材にすることで、自己を見つめ、友達との良好で信頼ある関係の作り方について理解を深めるとともに、実践意欲をもたせたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とはどのような存在ですか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しめる。 ・ 何でも話せる。 ・ 信頼できる。 ・ 一緒にいて落ち着く。 ・ 気軽に話せる。 ・ 互いに認め合える。 ・ けんかしても仲がよい。 ○ 友達がいなくなったらどうですか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 悲しい。 ・ 一人は寂しい。 ・ 想像したらつらい。 ・ 学校に行きたくない。 ○ 本時の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事前アンケート (AI テキストマイニング) から、友達という言葉の印象について提示し、全体での共有を図る。 □ 日常生活と関連付け、自分の生活とつなげることで自分事として考えることができるようにする。

課題 深い友情を築くには、どうしたらよいか考えよう。	
<p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ばかじゃん！」の範読①を聞き、あらすじを捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・きのちゃんが言った「ばかじゃん」により気まずくなった。 ・過去にもあったので不安に思った。 ○ 登場人物のやりとりを再現化する。 <ul style="list-style-type: none"> → 「ばかじゃん！」 と言う側 → 「ばかじゃん！」 と言われた側 ○ 再現した感想をワークシートに記入する。 ○ 再現してみて、言った側と言われた側の心境はどうですか？ ＜言った側の心境＞ <ul style="list-style-type: none"> ・何気なく言っただけ。 ・深く考えていない。 ・仲のよい証拠だと思う。 ・本当には思っていない。 ＜言われた側の心境＞ <ul style="list-style-type: none"> ・何で？理解できない。 ・腹が立つ。 ・すごく嫌だ。 ・嫌いになりそう。 ○ 「ばかじゃん！」の範読②を聞き、あらすじを捉える。 ○ 前の学校の友達に会い、気が付いたことは何でしょう？ <ul style="list-style-type: none"> ・けんかの原因や勘違いに気が付いた。 ・思い切って声を掛けたら相手も同じ思いだったことに気が付いた。 ○ 「ばかじゃん！」の範読③を聞き、あらすじを捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝わり方や勘違いが原因で友達を失うところだった。 ・主人公はすぐに聞きに行った。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 短時間で教材の内容を確認する工夫（範読や挿絵）。 □ 主人公に自己を重ねる再現化を行うことで、自己のあり方を見つめ、主題に迫ることができる。 【② 自己を見つめる工夫】 □ 補助発問で、自己の失敗談などと結び付けられるようにする。状況によっては再現化を行う。 □ 伝わり方・言い方・その人との関係が大切なことを確認する。 □ 言いたいことを伝えること・聞くことも大切なことを確認する
自分ならできる？できない？	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人思考（ワークシートに書く）。 ○ Google フォームに入力する。 <ul style="list-style-type: none"> ・できる。友達が大切だから。 ・この学級の友達ならできる。 ・できない。話すのが苦手だから。 ・できない。やった方がよいのはわかるけど・・・ ・勇気が出ないし怖い。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自分の考えを書いてから交流し合うことで、考えの共通点や相違点を意識しながら議論することができるようにする。 □ Google フォームで割合を視覚的に表示する。

	<p>○ できる・できないの間には大きな差があることや導入の「友達がなくなったらどうですか？」とつなげる。</p>	<p>□ 自分と友達の考えを交流し、多様な考えを聞く。 【③ 多面的・多角的に考える対話の工夫】</p>
<p>終末</p>	<p>○ 中心発問をする。</p> <p>すぐに行動できるためには、どうしたらよいですか？</p> <p>○ 個人思考（ワークシートに書く）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんから仲よくしておく。 ・何でも言い合える仲がよい。 ・勘違いされないための言葉遣いが大切。 ・親しき仲にも礼儀あり。 ・相手を思いやる。 <p>○ 振り返りと自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けんかをしたときに仲直りできるかどうかは普段の行動が関係していることが分かった。 ・相手には相手の考えがあり、聞いてみないとわからないので、聞き合える関係をつくっておくことが大切だと思った。 ・自分にはすぐには行動できないと思っていたけど、そうしないと友達を失ってしまうこともあるので、チャレンジしていこうと思う。 	<p>□ 中心発問をし、ねらいを焦点化する。</p> <p>☆ 「友情、信頼」について、多面的・多角的に考えようとしていたか。 【ワークシート】</p>

(6) 板書計画

○ すぐに行動できるためには、どうしたらよいですか？

- ・ 普段から仲よくしておく
- ・ 何でも言い合える仲がよい
- ・ 勘違いされないための言葉遣いが大切
- ・ 親しき仲にも礼儀あり
- ・ 相手を思いやる

教科書 挿絵

○ 自分ならできるとは思えない？

- ・ できる 友達が大切だから
- ・ この学級の友達ならできる
- ・ できない 話すのが苦手だから
- ・ やった方がよいのはわかるけど…
- ・ 勇気が出ないし、怖い

教科書 挿絵

○ 前の学校の友達と話してみても気が付いたことは何でしょうか？

- ・ けんかしてたのは勘違いだった
- ・ 思い切って声を掛けたら、相手も同じだった

教科書 挿絵

○ 言った側・言われた側の心境は？

- ・ 何気なく言っただけ
- ・ 深く考えてない
- ・ 仲のよい証拠
- ・ 本当には思っていない
- ・ 嫌いなさそう
- ・ 何で？理解できない
- ・ 腹が立つ
- ・ すごく嫌

○ 友達がなくなったら？

- ・ 悲しい
- ・ 一人は寂しい
- ・ 想像したらつらい
- ・ 学校に行きたくない
- ・ やることなくてつまらない

ばかじゃん！

深い友情を築くには、どうしたらよいか考えよう

3 小学校授業実践記録

研究の内容1 自己の考えを表出する工夫
 研究の内容3 多面的・多角的に考える対話の工夫
 主題名 「自由と責任」
 内容項目 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任
 教材名 「修学旅行の夜」

《あらすじ》 主人公の私は、修学旅行の宿泊班の班長。「消灯後は静かに寝よう」という約束だった。しかし、おしゃべりをする人が増えだんだん騒がしくなる。何度か注意はしたが聞いてくれない。自分だけが嫌な役回りをしていると思い、おしゃべりの仲間に入った。さらに騒がしくなり、とうとう先生にも叱られてしまった。「班長は、どう考えているのか」「責任は班長だけなのか。自由と自分勝手との違いを考えなさい」という言葉が頭に残ったまま眠りに入った。

導入

1 「自由」とはどのようなことか？
事前アンケートの結果を知る



みなさんにとって「自由」とはどのようなことですか？

「危険」や「義務」って言葉もあるよ。



「好き」や「できる」って言葉が多いね。

課題：「自由」とはどういうことか考えよう。

2 教材文を読んで、あらすじを知る

修学旅行で楽しくなっていて周りに迷惑をかけてしまったのね…。



班長の主人公も結局一緒になって騒いってしまったんだね。



では、実際にどんな状況だったのか？班で再現してみましょう。

「道徳的行為に関する体験的な学習」

展開

3 周りの状況と主人公の関係を班で再現する



せっかくの修学旅行だから夜も楽しまなきゃね。

疲れて眠りたい人もいるのだから、静かにして！



【研究との関わり】
自己の考えを表出する工夫

4 「自由」と「自分勝手」の違いを考え、全体で交流し共有する



「自由」は周りのことも考えつつ、最低限のルールの範囲内で楽しむことだと思います。

【研究との関わり】
多面的・多角的に考える対話の工夫

終末

5 最初の質問に戻り、「自由」についての変容や深化を考え、振り返る

これまで考えていた「自由」のイメージが変わった。何をしてもよいということではないのか…。



「自由」って本当は難しいことなんだな…。

研究の内容2 自己を見つめる工夫
 研究の内容3 多面的・多角的に考える対話の工夫
 主題名 「友達と理解し合う」
 内容項目 B-(10) 友情、信頼
 教材名 「ばかじゃん！」

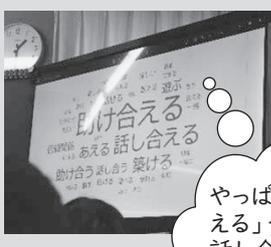
《あらすじ》 主人公の恵理菜は、転入先の学校で仲よくなった友達のきのちゃんから「ばかじゃん！」と言われたことがきっかけで、「自分だけが嫌われているのではないかと悩むようになる。ある日、以前の学校で仲たがいをしてしまったかおりに思い切って声を掛けたところ、実はお互いの誤解だったことが判明する。そのことをきっかけに、次の日、恵理菜はきのちゃんに話し掛け確認する。今回も誤解だったことが分かり、仲直りするのであった。

導入

1 「友達」について
事前アンケートの
結果を知る



みなさんにとって
「友達」とはどのよ
うな存在のことです
か？



やっぱり「助け合える」や「何でも話し合える」って言葉が多いね。

課題：深い友情を築くには、どうしたらよいか考えよう。

展開

2 教材文を読んで、
あらすじを知る



では、きのちゃんとのやりとりを隣同士で再現してみましよう。

確かに「ばかじゃん！」って言われたら嫌だな…。



きのちゃんにすぐに聞くことはできなかったのかな…。

【道徳的行為に関する体験的な学習】

3 主人公ときのか
ちゃんのやりとりを
ペアで再現する



えー！
ばかじゃん！

マグカップを落
としちゃって、
取っ手が折れて
湯呑みみたいにな
ったんだよねー。

【研究との関わり】
自己を見つめる工夫

4 仲直りのために、
すぐに行動に移す
にはどうしたらよ
いか考える



勇気をもって伝
えることも大切
ね…。

自分を信じて行
動することかな
…。



5 互いの考えを全
体で交流し、共有す
る

日頃から言葉を選ん
で、ネガティブに考
えすぎなければよ
いと思います。



【研究との関わり】
多面的・多角的に
考える対話の工夫

終末

6 学習を振り返り、
深い友情について
の考えを深める

もし、今後同じ
ようなトラブル
があったら相手
の気持ちを聞く
ようにしよう…。



人それぞれ感じ方が
違うので、それを理
解した上でコミュニ
ケーションを取れた
らいいな。

4 中学校授業実践 1

大樹町立大樹中学校 第2学年
授業者 大久保拓弥

「心に寄りそう」

- (1) 主題名 気持ちをこめて
- (2) 教材名 心に寄りそう（「新しい道徳 2」東京書籍）
- (3) ねらい ほかの人の気持ちや立場を尊重し、そのときどきの心に寄りそいながら温かく接していこうとする態度を育てる。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

① 学習指導要領との関連 内容項目B—(6) 思いやり、感謝

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

【平成 29 年 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

② 主題設定の理由

中学生になると、人間愛に基づくほかの人との関わりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。しかし、自己中心的になることや、グループ化もしやすくなるなどして、仲間以外の人には思いやりの心をもって接することができない面もある。

このような時期に、誰もが掛け替えのない人間であることを自覚し、支え合い思いやりの心をもって接していくことの大切さについて考えを深めることができるようにしたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート結果から身近な事例をいくつか紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お年寄りに席を譲ろうとしたが断られた。 ・ 困っている人を助けようとしたが断られた。 ・ 友達を励ましたつもりが、怒らせてしまった。 ○ 本来なら喜ばれるはずが、どうして伝わらなかったのだろう。 ○ 本時の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事前に「相手のためにと考えてした行動がうまく伝わらなかった経験」についてのアンケートをとる。 □ 本時の内容項目に対し、身近な事例を使って子どもたちが自分事として捉えることができるようにする。 □ ワークシートを配布する。
	<p>課題 相手の心に寄りそうとはどのようなことだろう。</p>	
展開	○ 「心に寄りそう」の前半部分の範読を聞き、あらすじと山田さんの挨拶の変化を捉える。	

<p>山田さんのあいさつが患者さんに伝わらなかったのはなぜだろう。</p>	
<p>○ 山田さんが患者さんに挨拶した場面を再現する（代表者2人が患者さん役と山田さん役を交代しながら再現を行う）。</p> <p>＜最初の山田さんの挨拶＞ 遠くから全体に挨拶する。</p> <p>＜反省し、学んだ後の山田さんの挨拶＞ 遠くから挨拶をし、その後近くまで行き顔を見て名前を呼び、目線を合わせて、もう一度挨拶する。</p> <p>○ 個人思考をする。</p> <p>○ ワークシートに記述し、全体での交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんのことを考えていなかった。 ・近くで声を掛けないと伝わらない。 ・相手の顔を見ないで挨拶をしても、気持ちが伝わらなかった。 ・患者さんは病気のことで、頭が一杯になっていた。 <p>○ 「心に寄りそう」の後半部分の範読を聞く。</p> <p>○ 中心発問をする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 主人公の行動を再現化することで、より具体的に把握することができる。 【① 自己の考えを表出する工夫】</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な立場から多角的に思考することで、考えを深める。 【③ 多面的・多角的に考える対話の工夫】</p> <p><input type="checkbox"/> ワークシートに再現を見た感想を書き込み、グループで交流する。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて問い返し発問をする。</p> <p>※ 「山田さんは、挨拶しているのにダメなの？」等</p> <p><input type="checkbox"/> 自分と友達の考えを共有し、多面的な思考を支援する。 【③ 多面的・多角的に考える対話の工夫】</p> <p><input type="checkbox"/> 中心発問をし、ねらいを焦点化する。</p>
<p>山田さんが大切なことだと学んだ「相手の心に寄りそう」とはどのようなことだろう。</p>	
<p>○ 個人思考→ Google フォームに入力</p> <p>○ テキストマイニングを活用し、全体交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の患者さんの立場を尊重する気持ちをもつこと。 ・お互いに思いやりの気持ちをもって相手の立場になって考えること。 ・相手に向き合い、何かつらいことがあったときに一緒にいること。 	

終末	<p>学校生活の中で「相手の心に寄りそえているな」と感じることを、「もっと相手の心に寄りそえればいいのに」と感じることを1つずつ書いてみよう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が勉強や部活で忙しいときに、弱音を聞いてあげること。 ・ 友達が体調不良のときに、「大丈夫？」とか「保健室に行く？」とか声を掛けること。 ・ 友達に勉強を教えてあげたら、お礼を言われたとき。 ・ 自分にはできないことを相手が悩んでいるとき。 ・ 自己中心的な考えをしてしまい、相手を困らせてしまったとき。 ・ 困っている人がいるのに、見て見ないふりをしている人がいたとき。 	<p>□ 教材から離れ、日常生活に目を向けさせる。</p>
<p>相手の心に寄りそいながら接していくために、どのようなことを心掛けていけばよいだろう。</p>		
<p>○ 本時で学んだことをどのように日常生活で生かせるか、振り返りを書き、観点別に評価する。</p>	<p>☆ 思いやりについて、多面的・多角的に考えようとしていたか。 【ワークシート】</p>	

(6) 板書計画

○ 相手の心に寄りそうためには？

- ・ 相手の気持ちに共感することが大切
- ・ 自分も心を開くこと
- ・ かける言葉一つ一つに思いやりを込める

教科書挿絵

↓

教科書挿絵

○ 山田さんが大切なことだと学んだ「相手の心に寄りそう」とはどのようなことだろう

- ・ 相手の気持ちを考える
- ・ 目を見て気持ちが伝わるように
- ・ 一人一人に寄りそう

○ 山田さんの挨拶が患者さんに伝わらなかったのはなぜだろう

- ・ 自分が挨拶されたのかわからない
- ・ 気持ちが伝わらなかった
- ・ 病気のことで頭が一杯

相手の心に寄りそうとはどのようなことだろう

心に寄りそう

5 中学校授業実践 2

大樹町立大樹中学校 第2学年
授業者 大久保拓弥

「自分を信じて生きるとは……」

- (1) **主題名** 自分を信じて生きるとは……
- (2) **教材名** 自分を信じて生きるとは……（「新しい道徳 2」東京書籍）
- (3) **ねらい** 人間の中には弱さ・醜さもあるが、それを乗り越えようとする強さ・気高さもあることを理解する。

(4) 学習指導要領との関連と主題設定の理由

- ① **学習指導要領との関連** 内容項目 D—(22) よりよく生きる喜び

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。

【平成 29 年 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳より一部抜粋】

- ② **主題設定の理由**

中学生ともなると、人間は弱さと強さの両面を併せもっていることを理解できるようになってくる。しかし、弱さに負けることも多々ある。

弱さに打ち勝とうとすることが自分を信じて生きることであり、自分に恥じない誇り高い生き方につながることを「自分を信じて生きるとは……」で理解するとともに、人間として誇りをもって生きていこうとする態度を育みたい。

(5) 本時の展開

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート結果をグラフで提示する。 ○ 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題 人間のもつ弱さと強さとは何だろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> □ 事前に「弱い自分に負けそうになったことがあるか」についてのアンケートを取る。 □ ワークシートを配布する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間理解を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>人間の弱さ、人間の強さと言えるのは、どのようなことでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ Google ジャムボードに入力する。 ○ 個人思考→グループでの交流→全体交流 【弱さ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ つい、うそをついてしまう。 ・ テスト前に勉強できない。 ・ 約束を破ってしまう。 ・ 都合よくごまかしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 様々な意見を出すことができるようにグループで話し合う時間を確保する。

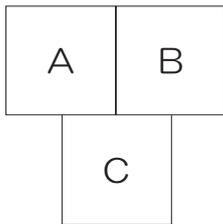
【強さ】

- 目標達成のために努力することができる。
- 困っている人を助けることができる。
- 正直に生きることができる。

○ 役割演技を行い、人間の弱さや強さが出る場面を再現する。

お釣りを多くもらったときの再現

○ 3人1組のグループをつくる。



○ グループの中でA、B、Cを決める。

○ ローテーションを確認する。

1回目 パターン① 客が正直に言う
A レジ役 B 客役 C 観察者

2回目 パターン② 客がごまかして立ち去る
A 客役 B 観察者 C レジ役

3回目 パターン③ レジ役に声を掛けられる
A 観察者 B レジ役 C 客役

○ 役割演技後の交流の視点を確認する。

観察者→ 第三者として、その場面を見ていたら、どのように感じるか発表する。

レジ役→ 演じてみての感想を述べる。

客役→ その行動を自分がしたとしたら、その瞬間やその後、どのように感じるか感想を述べる。

※役割演技1分→交流1分→感想記入1分

○ 役割演技と感想記入終了後、全体で感想を交流する。また、人間の弱さや強さは、どのようなところに表れていたか確認する。

□ 人間の心は、弱さと強さとの両面をもっていることに気付かせる。

□ 想定される場面と自己を重ねて再現化を行うことで、具体的に想起し、考えを深めることができる。

【② 自己を見つめる工夫】

□ うそをつくことでもやもやした気持ちになったり、正直に話すことで、ほっとしたり、褒められたりすることを追体験させる。

□ 自分と友達の考えを共有し、多面的な思考を支援する。

【③ 多面的・多角的に考える対話の工夫】

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書p 131「ある女子の独り言」の範読を聞く。 ○ 中心発問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 中心発問をし、ねらいを焦点化する。
<p>うそをつくと、もやもやする気持ちになる要因は、何だろうか。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人思考→グループでの交流→全体交流 <ul style="list-style-type: none"> ・うそをつくことに対する罪悪感 ・ばれたらどうしようかという不安感 	<ul style="list-style-type: none"> □ 問い返しをし、もやもやする感情こそ、よりよい生き方を目指す自分とのギャップであり、人間のもつ強さや気高さの端緒であることに気付かせる。 <p>例「なぜ罪悪感を覚えるのかな」 「ばれるのが不安になるのは、なぜだろう」</p>
<p>終末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、「人間のもつ弱さや強さとは何か」についてワークシートに記入し、交流する。 ○ 池尾健一さんの言葉を範読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 人間の中には弱さ・醜さもあるが、それを乗り越えようとする強さ・気高さもあることを理解し、よりよく生きようとしていたか。【ワークシート】 □ 人間理解を更に深めるようにする。

(6) 板書計画

自分を信じて生きるとは…

人間のもつ弱さと強さとは何だろうか

☆ 嘘をつくともやもやする気持ちになる要因は何だろう

- ・罪悪感
- ・よいことじゃないから
- ・本当は駄目なことだと分かっている

○ パターン③ レジの人に声をかけられる

レジ役

- ・お店の人も気まずい
- ・結果的に正直言えてよかった
- ・罪悪感が残らない

○ パターン② ごまかして立ち去る

レジ役

- ・お客さんが挙動不審に見えた

客役

- ・罪悪感がある
- ・不安になる

○ パターン① 客が正直に言う

レジ役

- ・安心する
- ・平和的に解決

客役

- ・スッキリした
- ・すぐに言った方がよい
- ・タイミングによっては言いにくい

6 中学校授業実践記録

研究の内容1 自己の考えを表出する工夫
 研究の内容3 多面的・多角的に考える学習の工夫
 主題名 「気持ちをこめて」
 内容項目 B-(6) 思いやり、感謝
 教材名 「心に寄りそう」

《あらすじ》 看護師になりたての頃、なかなか自分の思いが患者さんに伝わらず悩んでいた山田さん。ある女性の患者さんに挨拶が伝わらなかった経験を通して「相手の心に寄り添うことの大切さ」を学んだ。やがて山田さんは、患者さんそれぞれのベッドまで近付き、視線を合わせて挨拶をするなどの心配りをするようになる。「刻々と変わっていく患者さんの病状と気持ちをつかみ、そのときどきの心に寄り添っていくこと」がよい関係を築くことに気付いていく。

導入

1 「相手のために
 と思っての行動が
 伝わらなかった経
 験」について事前
 アンケートの結果
 を知る

妹がアイスをリビングに置き忘れていたので、冷凍庫にしまってあげたら「勝手なことしないで」って言われた…。



本来なら喜ばれるはずが、どうして伝わらなかったのだろう？

課題：相手の心に寄りそうとはどのようなことだろう。

展開

2 教材文を読み、あ
 らすじを捉える

挨拶をしていたのに、患者さんに伝わらなかったのか…。



患者さんから看護師として大切なことを学んだのね。



状況を具体的に把握するために山田さんの挨拶を再現してみましょう。

『道徳的行為に関する体験的な学習』

3 山田さんの行動
 について役割を交
 代しながら再現す
 る

笑顔で話し掛けてくれると、別の話題も出しやすいなあ。



〇〇さん、おはようございます。お身体の調子はいかがですか？

【研究との関わり】
 自己の考えを表出する工夫

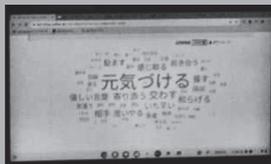
4 挨拶が患者に伝
 わらなかった原因
 を考え、全体で交
 流し共有する

目も合わなくて、誰に対しての挨拶なのかわからないからかな？



患者さんは、きっと自分の病気で不安なんじゃないかな…。

5 相手の心に寄り
 添うとはどのよう
 なことかを考え、
 ねらいを焦点化す
 る



相手の状況や気持ちを感じ取りながら、行動することだと思います。



【研究との関わり】
 多面的・多角的に考える対話の工夫

終末

6 学習を振り返り、
 相手の心に寄り添
 うために大切な考
 えを共有する

相手に共感することが大切なんだね。



その場に応じた対応するのは難しそう…。

研究の内容2 自己を見つめる工夫
 研究の内容3 多面的・多角的に考える学習の工夫
 主題名 「自分を信じて生きるとは…」
 内容項目 D-(22) よりよく生きる喜び
 教材名 「自分を信じて生きるとは…」

《教材内容》 「お釣りを多くもらってしまったとき」や「隣の生徒のテストの答えがつい見えてしまったとき」「間違えたのに答えが丸になっていると気付いたとき」どのような気持ちになるか。そのような問いを起点に、人間の弱さと人間の強さについて考える内容となっている。うそをついたときのもやもやした気持ちや、正直に話せたときのほっとする気持ちなど、大小の違いはあるものの誰もが経験したことがあるような事例を基に人間のもつ弱さや強さについて考える。

導入

1 「弱い自分に負けそうになったことがあるか」について事前アンケートの結果を知る



みなさんは、弱い自分に負けそうになった経験がありますか？

ほとんどの人が「ある」と答えているね…。



課題：人間のもつ弱さと強さとは何だろうか。

展開

2 教材の事例から人間の弱さや強さが出る場面を再現する



では、お釣りを多くもらってしまったときの店員さんとお客さんのやり取りをパターン別に再現してみましょう。

この前、テストの採点ミスがあったときは、正直に伝えることができたけど…。



ふだんの生活の中でも、実際に起こりそうなことだなあ…。

『道徳的行為に関する体験的な学習』

3 再現した感想をそれぞれの立場から交流し、考えを深める

お買い上げありがとうございます。それでは、お釣りが100円になります。



【研究との関わり】
自己を見つめる工夫

- ① お客さんがお釣りを多くもらっていることを正直に言う。
- ② お客さんがごまかして、そのまま立ち去る。
- ③ お客さんが立ち去ろうとするが、店員さんに声を掛けられる。

観察者：うそをついていたことに気付かれて恥ずかしくなったと思うよ。

あれ？お釣りが100円玉じゃなくて、500円玉になっている…。

客役：最初はラッキー！って思ったけど、後々、罪悪感が出てくると思うので、声を掛けてもらえてよかった。



店員役：間違えたのはこちらが申し訳ないけど、最終的に正直に言ってもらえて、ほっとした。

【研究との関わり】
多面的・多角的に考える対話の工夫

終末

4 学習を振り返り、人間のもつ弱さと強さについての考えを深める

駄目だと分かっていても、ついやってしまうことが弱さってことかもしれないなあ…。



自分の中にある弱い心に打ち勝つことが強さなのかかもしれない…。

IV 研究のまとめ

1 研究の内容に関わる本時の検証

(1) 小学校

① 自己の考えを表出する工夫について

- 再現することで、場面や状況を深く理解し、自己の考えの深化につながった。
- 教材に入る前に、類似場면을再現する方が効果的な場合もあると考えられる。

Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

修学旅行や学校生活だけではなく、公共の場や、公共交通機関を利用したときでも「自由」と「自分勝手」について考えて行動したいと思います。

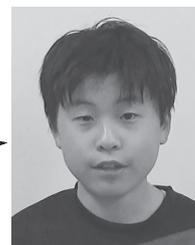


② 自己を見つめる工夫について

- 「ばかじゃん！」と言われた心境やその後の解決に向けた行動について深く考えることができた。
- 行動を注視するあまり、ねらいに正対する終末から、内容が離れてしまった。

Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

「深い友情」とは相手のことを考えて、言葉を選んだりしながら会話をしたり接していくことが大切だと思いました。



③ 多面的・多角的に考える対話の工夫について

- 交流によって、見方や考え方の相違に驚いたり、考えが変化したりする子どもが見られた。
- 仲直りをするために行動を起こすことがよいとして捉え過ぎてしまった。

Q: 友達の考えを聞いて参考になったことはありますか？

「自由」について考えたときに、ルールや責任のことはばかり考えていましたが、友達が周りの人への影響について考えていたのが参考になりました。



(2) 中学校

① 自己の考えを表出する工夫について

- 教材の中にある挨拶の場면을、実際に再現することで教材理解が進み、自分事として捉えることができた。
- 教材によっては、中学生にとって身近な日常生活に置き換えて再現を行う方が効果的な場合もあった。

Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

「心に寄り添う」ことは難しいですが、学級の中にはいろいろな人がいるので、長所や短所を受け入れて、どう接していったらよいかを考えて行動したいと思います。



② 自己を見つめる工夫について

- 教材にある「お釣りを多くもらったとき」の状況を実際に再現することで、「自分なら、どう思うのか」と深く考えることができた。
- 教材によっては、活動の規模が大きくなることも考えられるため、指示を明確にすることや、細かな時間設定が必要である。

Q: 今日学んだことを、どのように生活に生かしていきたいですか？

自分の中にあるネガティブな気持ちや、欲に負けてしまう弱い心としっかりと向き合いながら、打ち勝つことのできる心の強さを持ちたいと思います。



③ 多面的・多角的に考える対話の工夫について

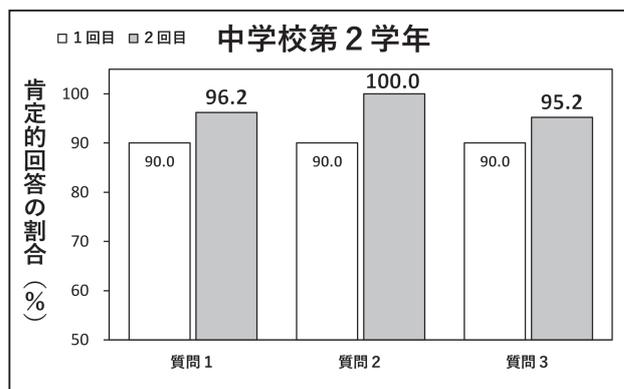
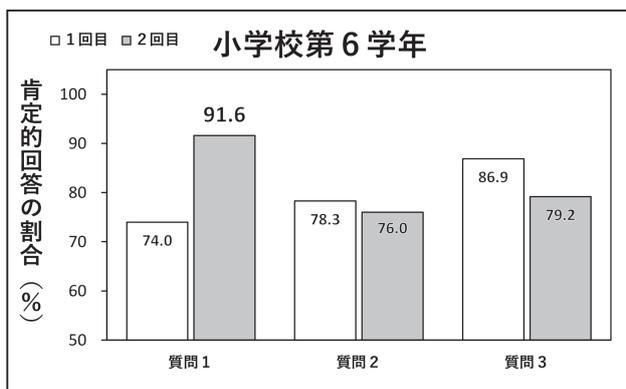
- 再現する際に、単にペアで役割を交代するのではなく観察者を設定することで、第三者としての意見をもつことができていた。
- グループ内で出た意見等を全体で共有する時間が十分に確保できなかった。

Q: 友達の考えを聞いて参考になったことはありますか？

「一度、お釣りをごまかしてしまいましたが、そのあと正直に言うことができ、罪悪感が無くなり、すっきりした」という意見が参考になりました。



2 アンケート結果からの検証

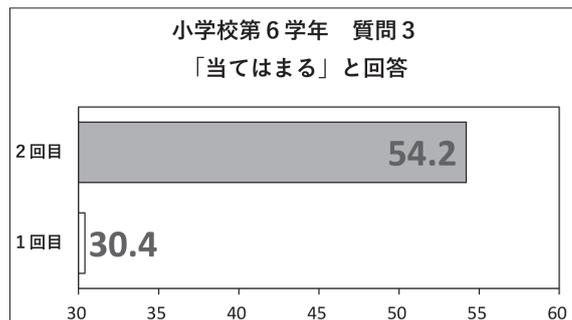


○ アンケート項目（小学校・中学校共通）

- 1 自分にはよいところがあると思いますか。
- 2 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
- 3 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

今年度も研究の成果を様々な視点から検証できるように、小学校、中学校ともに、授業実践実施前に1回目、授業実践終了後に2回目のアンケートを実施した。回答形式は的確に実態を把握するため四者択一とした。全ての質問の選択肢は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる・どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない」となる。それらのうち前者2つを肯定的回答として集計したものが上掲のグラフである。

自己肯定感・自己有用感に関する質問1では、小学校と中学校のどちらも肯定的回答が高い数値となった。特に、小学校では、肯定的回答の数値が約17%の大幅な増加となり、自己肯定感や自己有用感が高まっていると思われる。一方、粘り強さ・活動意欲に関する質問2では、小学校の肯定的回答が微減傾向にあるが、全国平均の72.5%と比較すると粘り強く活動できる子どもが多いと考えられる。また、自己理解・他者理解に関する質問3では、小学校の肯定的回答で約8パーセントの減少が見られた。ただし、最も肯定的な選択肢である「当てはまる」と回答した子どもに着目すると、約25%の増加が見られ、授業実践以前に比べて、他者意識がより高まってきている子どもが増加している。



なお、中学校では、全ての質問において肯定的回答の数値が高く、授業実践以後には更に増加しており、自己肯定感、自尊感情、他者の尊重、他者の受容の高まりが実感できたと考えられる。

結果を総合的に考察すると、昨年度の研究の課題であった自己肯定感、自尊感情において、小学校、中学校のどちらも高い数値を示している。加えて、他者の尊重、他者の受容に関しては小学校で2回目に微減傾向にあるものの、前掲の令和4年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査の同じ内容の質問への回答の全国平均と比べると高い数値となっており、本実践が研究主題である「自他を認め合う心」の育成において、一定の成果が得られたと考えられる。

3 研究内容の検証

(1) 自己の考えを表出する工夫について

- 教材の場面を再現することにより、登場人物への自我関与を深めることに効果が見られた。
- 教材文に入る前に、類似場面の再現を行うなど、様々な授業の発想が生まれた。
- 教材と実生活があまりにかけ離れている場合には、身近な日常生活に置き換えて再現を行うことが、より効果的であると考えられる。

(2) 自己を見つめる工夫について

- 道徳的態度を育てるために、自分の行動を振り返り、望ましい行動を考えることで自己を肯定的に受け入れる心を育むことができた。
- 教材の道徳的問題の解決を図る場面で再現を行うことにより、その思考過程で自我関与を深めることができた。
- 活動が授業時間を圧迫し、考える時間を奪うことにならないような配慮が必要である。

(3) 多面的・多角的に考える対話の工夫について

- 他者の考えに触れ、自分とは異なる意見をもつ友達との交流をすることで、他者を思いやり尊重することのできる心を育むことができた。
- 再現後の交流の際は、第三者を設定することで、役割を担った子どもの意見だけではなく客観的な意見が加わり、道徳的価値について深く考えることができた。
- 全体共有する場合にはICT等を効果的に活用することで多様な考えに触れることが必要である。

4 研究2年次の成果と課題

- 授業を終えて、「この場面を1回、再現してみませんか?」と、他教科でも体験的な学習を子ども

から提案する姿が見られた。小学校高学年や中学生でも効果的に授業に取り入れることができる実感をもつことができた。

- 道徳科の授業だけではなく、各教科でも、日常的に体験的な学習を授業に取り入れることは自他を認め合う心を育む上で大変効果的であった。
- 道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫は、自分の経験を想起しながら、他者との考えを比較することができ、子どもが多面的・多角的に考えることにつながった。
- 主発問を含む終末へ向けての時間配分に課題が見られた。体験的な活動やほかの補助発問とのバランスを考えながら、授業を構成する必要があった。

5 2か年の研究の成果と課題

- 1年次の研究では他者を思いやり尊重する心と自己を肯定的に受け入れる心を育むこととして研究を進めたが、2年次の研究では育もうとする心を2つに分けるのではなく、それぞれの研究の内容の中で一体的に「自他を認め合う心」を育むこととして研究を進め、成果を得ることができた。
- ICTの活用は、導入でのモニターを使った提示や、「考え、議論する」際の集約・共有、振り返りの意見共有などにおいて、素早く全体で考えを共有できるなど、とても効果的であった。
- 1年次の研究では、教材を通して道徳的価値の理解を深めることが課題であった。そのため、2年次の研究では道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた。登場人物に自我関与し、内容項目に関して多面的・多角的に考えることで、子どもたちの道徳的価値の理解は深まったのではないかと考えられる。
- 道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる際には、活動が形骸化してしまわないよう、子どもたちが体験する必要性を感じられる発問や授業展開にすることが大切である。また、活動だけに終始するのではなく、活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにする必要がある。

V 研究協力校紹介 / 参考・引用文献

研究協力校			研究協力員
中札内村立中札内小学校	校長 牧 伊津子		円城寺 昌
大樹町立大樹中学校	校長 長 江 教 貴		大久保 拓 弥

十勝教育研究所 担当 柴田 悠二 / 靱山 修斗

参考・引用文献

- 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 6 月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 6 月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月） 文部科学省
- 「特別の教科 道徳」で大切なこと 東洋館出版社
- 道徳的価値の見方・考え方 東洋館出版社
- 中学校「動き」のある道徳科授業のつくり方 東洋館出版社
- 道徳教育 2022 年 12 月号 今こそ、体験的な活動を見直そう 明治図書
- 体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業 明治図書

あとがき

十勝教育研究所

■共同研究担当所員

松 村 理 史
白 澤 大 輔
山 本 由 佳

■協力員研究担当所員

柴 田 悠 二
 粉 山 修 斗

十勝教育研究所では、共同研究として、「十勝管内の教育推進の重点」にある学力の向上に資する研究を、管内19市町村の共同研究員と進めてまいりました。今年度よりスタートした「自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究～考えを広げる深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～」では、小・中学校2つのグループでのそれぞれ2本の授業実践と、共同研究員に自校で実践を進めていただきながら検証を進め、1年次の成果をまとめました。

また、協力員研究として、小・中学校の先生方にご協力をいただきながら、授業実践に基づいた研究を進めてまいりました。2か年継続研究の2年次となる「子どもたちに自他を認め合う心を育む研究～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～」では、自己の考えを表出したり見つめたりする工夫や、多面的・多角的に考える対話の工夫が大切であると考え、授業実践に取り組みました。

どちらの研究も学習指導要領を踏まえ、日常の実践に結びつくものと考えております。本研究が、各学校における教育活動推進の一助となれば幸いです。

末筆になりましたが、本研究紀要の作成に当たり、ご協力いただきました共同研究員、研究協力校、教育関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和6年2月

研究紀要 No.218

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究
～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～
(2か年継続研究 1年次)

子どもたちに自他を認め合う心を育む研究
～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～
(2か年継続研究 2年次)

発行 令和6年2月
発行所 十勝教育研究所
発行人 山田 洋
印刷所 株式会社アド・プリント